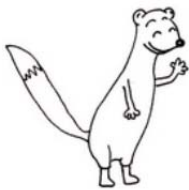


対馬市海岸清掃マニュアル



平成 27 年 3 月



長崎県対馬市

本マニュアルは、国の地域環境保全対策費補助金（海岸漂着物地域対策推進事業。平成 25～26 年度）により長崎県が造成した「長崎県海岸漂着物地域対策推進事業補助金」に基づき、対馬市が「対馬市海岸漂着物地域対策推進事業業務委託」の中で作成したものです。

表紙の写真について

2014（平成 26）年 8 月 24 日に対馬市豊玉町加志々で行われた「日韓海岸清掃フェスタ IN 対馬」での海岸清掃活動の様子。韓国と対馬の高校生や、市民、東京の大学生など、約 150 人が参加し、120 袋（容量 1m³）を回収しました。

左上： 清掃前の海岸	中上： 海岸清掃中	右上： 清掃後の海岸
下：海岸清掃終了後の集合写真		

対馬市海岸清掃マニュアル 目次

はじめに

1 対馬市の漂着ごみに関わる概況.....	1
1.1 対馬市の海岸の状況.....	1
1.2 対馬市の漂着ごみの状況.....	3
1.2.1 対馬市全対の漂着状況.....	3
1.2.2 漂着ごみが多い海岸の特徴.....	4
1.2.3 漂着ごみの種類.....	5
2 なぜ、海岸漂着ごみの清掃活動を実施する必要があるのでしょうか？.....	8
2.1 漂着ごみの問題点.....	8
2.2 漂着ごみの対策.....	9
3 「対馬市海岸清掃マニュアル 概要版」.....	11
3.1 作成目的.....	11
3.2 概要版の構成.....	11
4 【初級編】海岸清掃活動に参加してみよう.....	16
4.1 対馬市で海岸清掃活動を実施している団体を探そう.....	17
4.2 日時・場所・内容を確認しよう.....	19
4.3 参加申込みをしよう.....	20
4.4 参加準備をしよう.....	21
4.4.1 服装と持ち物を考えよう.....	21
4.4.2 体調を整えよう.....	22
4.5 海岸清掃活動をやってみよう.....	23
4.5.1 集合場所・時間を確認し、受け付けをしよう.....	23
4.5.2 漂着ごみの分別を確認しよう.....	23
4.5.3 危険なごみ・動植物・場所を覚えておこう.....	24
4.5.4 楽しく安全に漂着ごみを拾おう.....	26
4.5.5 閉会式に参加しよう.....	29
4.6 続けよう.....	29
5 【中・上級編】自分で海岸清掃活動を企画・実行してみよう.....	30
5.1 【事前準備】海岸清掃活動の準備をしよう.....	31
5.1.1 清掃海岸、実施日時を決めよう.....	31
5.1.2 開催規模、実施日時(延期日時)を決めよう.....	43
5.1.3 役割分担・スケジュールを決めよう.....	45
5.1.4 参加申込書の作成と参加受け付けをしよう.....	46
5.1.5 用具・備品を準備しよう.....	49
5.1.6 漂着ごみの分類方法を確認しておこう.....	52
5.1.7 安全対策と緊急時の対応を検討しておこう.....	59
5.1.8 再確認しよう（開催予定日の一週間前～三日前）.....	62
5.1.9 最終確認をしよう.....	63
5.2 【当日】海岸清掃活動を実行しよう.....	64
5.2.1 天候確認後に実施を決めよう.....	64
5.2.2 海岸清掃活動当日の準備作業をしよう.....	64
5.2.3 開会式をしよう.....	66
5.2.4 海岸清掃活動を開始しよう.....	66

5.2.5	回収後の作業をしよう	70
5.2.6	閉会式をしよう	72
5.2.7	後片付けをしよう	73
5.2.8	関係者へ終了報告をしよう	73
5.3	【事後対応】海岸清掃活動のまとめをしよう	74
5.3.1	活動記録整理と情報発信をしよう	74
5.3.2	関係者に御礼と報告をしよう	75
5.3.3	ポスターなどの撤去・片付けをしよう	75
5.3.4	道具の手入れ・保管をしよう	75
5.3.5	反省会を開催しよう	75
5.3.6	次回の案内をしよう	75
5.4	続けよう	75
6	【イベント編】海岸清掃活動イベントを企画・実施してみよう	76
6.1	【事前準備】海岸清掃活動の準備をしよう	77
6.1.1	実行委員会を立ち上げよう	77
6.1.2	日程・会場を決めよう	80
6.1.3	プログラムやスケジュールなどを詰めよう	81
6.1.4	活動開催に必要な用具などを早めに準備しよう	83
6.1.5	活動を広報し、参加者の募集と海岸清掃活動の周知をしよう	85
6.1.6	支援をお願いしよう	86
6.1.7	直前の準備をしよう	86
6.2	【当日】海岸清掃活動イベントを運営しよう	88
6.2.1	準備をしよう	88
6.2.2	海岸清掃イベントを開催しよう	90
6.2.3	閉会式と片づけをしよう	92
6.3	【事後作業】事後整理をしよう	92
6.4	続けよう	93

はじめに

長崎県は、島の数が全国第1位（総数 971 島）であるほか、海岸線総延長が約 4,200km と北海道に次ぐ全国第2位の長さを有しています。また、多くの入江や岬などからなる海岸は、美しい自然景観を形成し、県民生活と生産活動を支える自然の恵みをもたらすとともに、多種多様な生物が生息・生育する貴重な場となっています。

その中で、対馬は長崎県および九州の最北端に位置し、対馬海峡をはさんで韓国を望む国境の島であり、南北約 82km、東西約 18km と細長く、面積 705km² は全国の離島で第3位（佐渡島、奄美大島に次ぐ）の広さであり、海岸の総延長は約 911km となっています。対馬は島全体が山地地形を成し、中央部には樹皮状リアス式海岸を持つ日本最大の溺谷地形である浅茅湾があり、対馬の一部地域は壱岐対馬国定公園に指定されています。

一方、対馬市の海岸では、島の周囲を流れる対馬暖流や、地形的な特性、冬季の季節風あるいは台風などの影響によって、中国、韓国などの近隣諸国や日本国内から発生したごみが漂着しています。これら海岸漂着ごみにはプラスチック類が多くを占め、それらによって対馬市の海岸では生態系を含む海岸環境の悪化、美しい浜辺の喪失、海岸機能の低下、漁業への悪影響などが懸念されています。

このような状況を受け、長崎県は平成 22 年 10 月に地域の特性を踏まえた海岸漂着物の回収および処理方法、発生抑制対策、並びに関係者の役割分担と相互協力を確立するための「長崎県海岸漂着物対策推進計画」（地域計画）を策定しました。長崎県は、これを基に海岸漂着物対策を推進することで、海岸の良好な景観、多様な生態系の確保、生活衛生の向上、水産資源の保全など、総合的な海岸環境の保全を図っています。

しかし、海岸に漂着するごみは、取り除いても繰り返し流れ着くことから、海岸管理者や地元行政の取り組みだけではその対応が追いつかないこともあります。そのため、対馬市の海岸漂着物対策を推進するに当たっては、ボランティア精神に基づく地域住民などの協力が不可欠であるといえます。

これらのことから、対馬市は、海岸漂着ごみに対して、官民を挙げた取組を行うため、平成 27 年 3 月末に、今後の海岸漂着物の回収・処理に関わる体制作りや官民の役割分担などに関わる計画を「対馬市海岸漂着物対策推進計画」としてまとめました。

また、これと併せて、対馬市は、地域住民やボランティア団体などが安全かつ適切に海岸清掃活動を実施できるよう支援するため、「対馬市海岸清掃マニュアル」をとりまとめました。

本マニュアルは、対馬市の海岸清掃活動の進展を念頭に置き、対馬市民および島内外のボランティアが海岸清掃活動を行うに当たって留意すべき事項を取りまとめたもので、海岸清掃活動に参加したい人を対象にした「初級編」、海岸清掃活動を企画・実施する場合の「中・上級編」を主体としています（海岸清掃活動では、清掃範囲や参加人数の多寡に応じた活動規模や開催に伴う労力の大小に差が出てきますが、それらを「中・上級編」として区分することが困難なために、同じ編としています）。

また、両者を整理し、パンフレットとしても使用可能な「概要版」も別途作成して掲載していますので、こちらもご参照・ご利用ください。

なお、音楽のライブ公演などのイベントを含む大規模な海岸清掃活動の開催を対象とする「イベント編」は、「中・上級編」の延長として掲載しています。これまで、対馬市においては、このような大規模な海岸清掃活動が実施されていないため、今後の開催を考慮して、他事例を参考にして役割分担の例や留意点などを示しています。

このマニュアルが、対馬市で海岸清掃活動を実施する皆様の参考となれば幸いです。

【本マニュアルの構成】

まずは対馬の海岸の現状に「気づいて」いただき、次に対馬市の海岸漂着ごみの概要を「知って」いただいた上で、実際に海岸清掃活動を「やってみる」。その経験を活かし、今度は家族や友人などと一緒に海岸清掃活動を行うことによって、郷土の海岸を守る心と活動を周囲の人々および後世代に「つなげて」行き、更にはそれらの輪を島内外に「広げて行く」という活動が重要です。そのため、本マニュアルは、次の構成をイメージしています。

- ・気づく：【対馬の海岸の状況】 対馬の海岸を見してみる
- ・知る：【対馬の漂着ごみの現状】 対馬の漂着ごみの現状を考える
- ・やってみる：【初級編】 海岸清掃活動に参加する
- ・つなげる：【中・上級編】 自分で海岸清掃活動を主催する
- ・広げる：【イベント編】 海岸清掃活動イベントを開催する

なお、海岸漂着ごみは、残念ながら繰り返し対馬の海岸に流れ着きます。そのため、上記を含む海岸清掃活動は、一時的に行うのではなく、

- ・続ける：海岸清掃活動に続けて参加する・主催する

ことが非常に重要です。

対馬の海岸をきれいにする活動を“続けて”行きましょう。みんなのために、将来世代のために。

【本マニュアルに登場するキャラクターについて】

「対馬市海岸清掃マニュアル」では、より海岸清掃活動に親しみやすくするため、天然記念物のツシマヤマネコとツシマテンをマスコットキャラクターとして、解説や説明を行っています。

本マニュアルに登場するキャラクターについて	
	
クリーナ君	プー先生
対馬の自然を駆け回る元気なツシマヤマネコ（オス 2歳）。 海岸に遊びに来たら、ごみがいっぱい、なんとかしたいにやあとっています。	対馬市のみなさんが海岸清掃活動をしていると、海岸に出没するツシマテン（性別・年齢非公開）。 対馬市の海岸清掃活動について、「先生」として、クリーナ君にアドバイスします。

イラスト：笠原利香（海LOVEネットワーク事務局）

【本編】

1. 対馬市の漂着ごみに関わる概況
2. なぜ、海岸漂着ごみの清掃活動を実施する必要があるのでしょうか？
3. 【概要版】 ビーチクリーンを始めよう
4. 【初級編】 海岸清掃活動に参加してみよう
5. 【中・上級編】 自分で海岸清掃活動を企画・実行してみよう
6. 【イベント編】 海岸清掃活動イベントを企画・実施しよう

この章では、対馬市民の皆様にも、対馬の海岸と漂着ごみの現状を知っていただくための情報を紹介します。

海岸清掃活動に関わるマニュアルをご覧になりたい方は、第3章からお読みください。

1 対馬市の漂着ごみに関わる概況

「気づく」の部分

1.1 対馬市の海岸の状況

対馬は全体の約9割を山林が占める島で、標高数十m～300m程度の山々の山裾が海岸まで続き、その海岸は奥行きが狭いことが特徴的で、断崖絶壁となっている海岸も多く見られます（下図：ほとんどを占める緑部分が山林）。



図 1-1 対馬の衛星映像

(Google earthより複写)

このように、山地が多い対馬では、海岸線付近まで道路が通じているアクセスの良い海岸は少なく、多くは船でしか行けない海岸となっています。また、アクセスの良い海岸でも、岩礁や転石からなる海岸が多く、砂浜海岸の割合は少なくなっています（図 1-2）。



図 1-2 対馬市の海岸の様子



海に山がせまり、
奥行きが狭い海岸
が多いんだにゃあ

1.2 対馬市の漂着ごみの状況

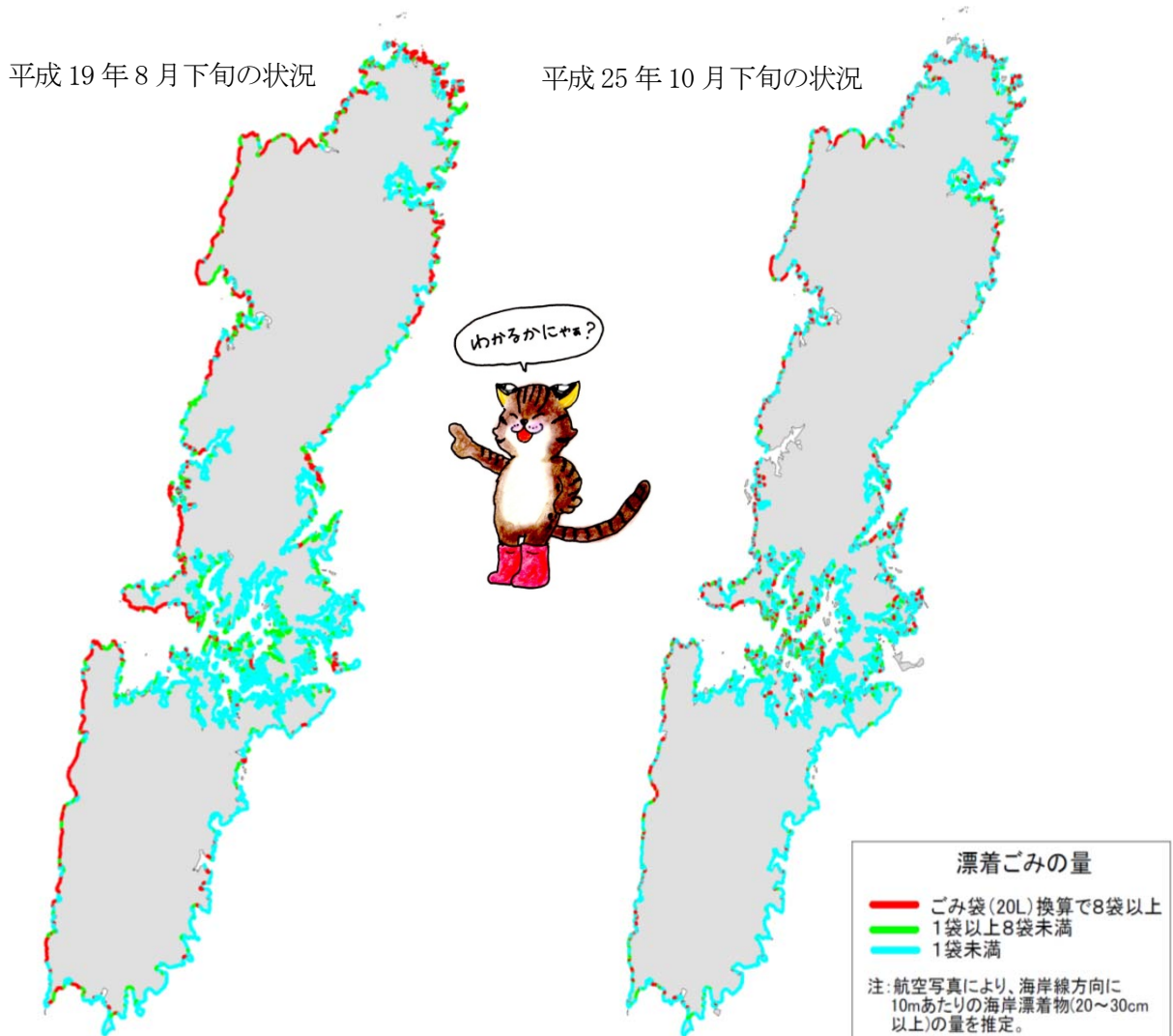
対馬市の海岸漂着ごみの現状を見てみましょう。

1.2.1 対馬市全対の漂着状況

下図は、平成19年度と平成25年度に実施された航空機調査の結果で、対馬の海岸線をごみの量に応じて色分けして示しています（ごみの量は下図右下の凡例参照）。

これより、対馬市の西側の海岸に赤い線（海岸線10m当たり20ℓのごみ袋で8袋以上のごみがある海岸）が目立つことから、おおむね西側海岸で漂着ごみが多いことがわかります。一方、東側では水色の線（海岸線10m当たり20ℓのごみ袋で1袋以下のごみがある海岸）の割合が多く、逆に漂着ごみが少ないことが伺えます。これは、対馬暖流や冬季の西寄りの季節風などの影響が表れている結果と考えられています。また、下図の左右の図を見比べると、平成25年度の方（右図）が赤い線の割合が少なく見えます。これは、平成22・23年度に大規模な海岸漂着物回収事業*を行った成果と考えられます。

*：地域グリーンニューディール基金に基づく漂着ごみの回収事業。対馬市では約2.4万m³を回収。



左図：「平成19・20年度漂流・漂着ゴミに係る国内削減 右図：平成25年度対馬市海岸漂着物地域対策推進事業
方策モデル調査」（環境省）報告書より転写 報告書より転写

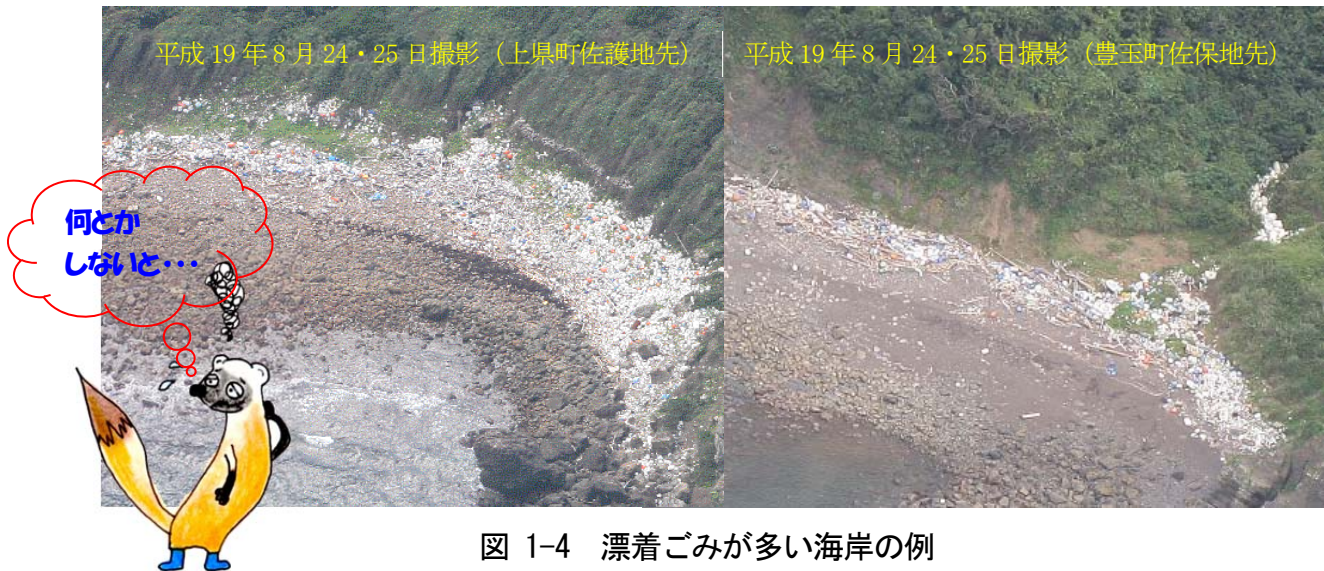
図 1-3 航空機調査による対馬市の海岸漂着ごみ分布状況

1.2.2 漂着ごみが多い海岸の特徴

下図は、対馬市の海岸のうち、漂着ごみ量が比較的多い西側の海岸の写真です。

漂着ごみ量の多い海岸では、概して海が陸側に入り込んだ湾状の形をしており、漂着ごみが季節風や波浪などによって押し寄せられ、堆積してしまう状況が伺えます。

また、奥行きが狭い対馬の海岸では、漂着したごみが台風や時化時化（しけ）などにより、再度海に流れ出て（「再漂流」といいます）、また別の海岸に流れ着く場合もあると考えられています。



漂着ごみが多い海岸では、大きな流木や漁網などが漂着した後に、そのごみが波よけ・風よけとなって、その後方（＝山側）に新たなごみが更に溜まって行く様子が観察されています。つまり、“ごみのごみを呼ぶ”ような現象が起きています。

このような過程を経て大量のごみが海岸に溜まってしまうと、これらの海岸で漂着ごみを清掃するには多大な労力が必要となります。

そのため、ごみが多く溜まる前に、できるだけ早い段階でごみを回収すれば、少ない労力でごみの少ない状態の海岸を保つことができます（下図のイメージ）。

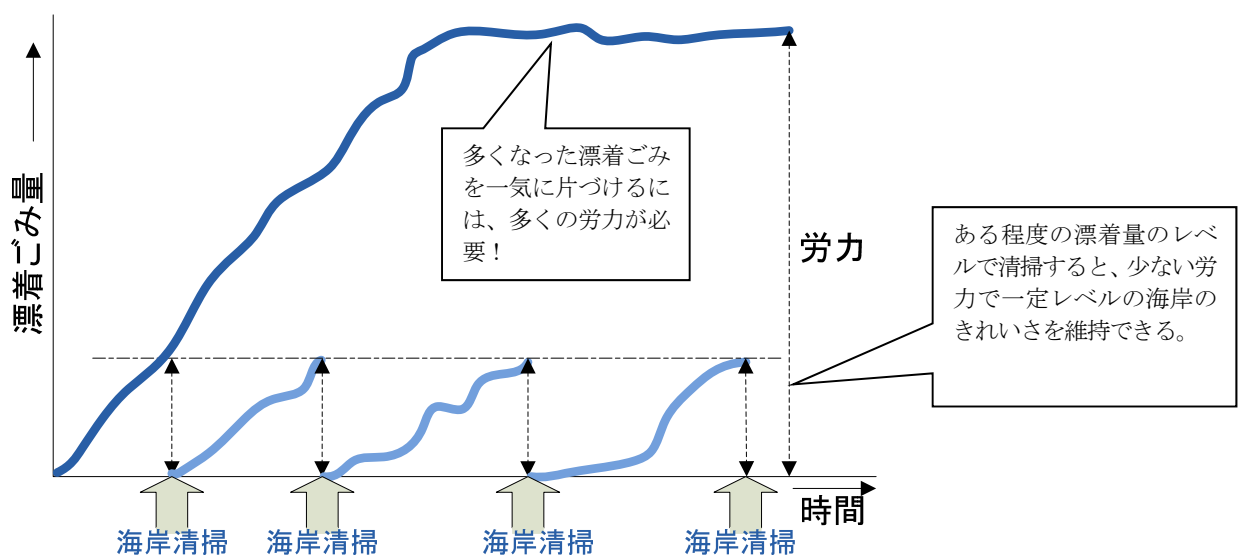
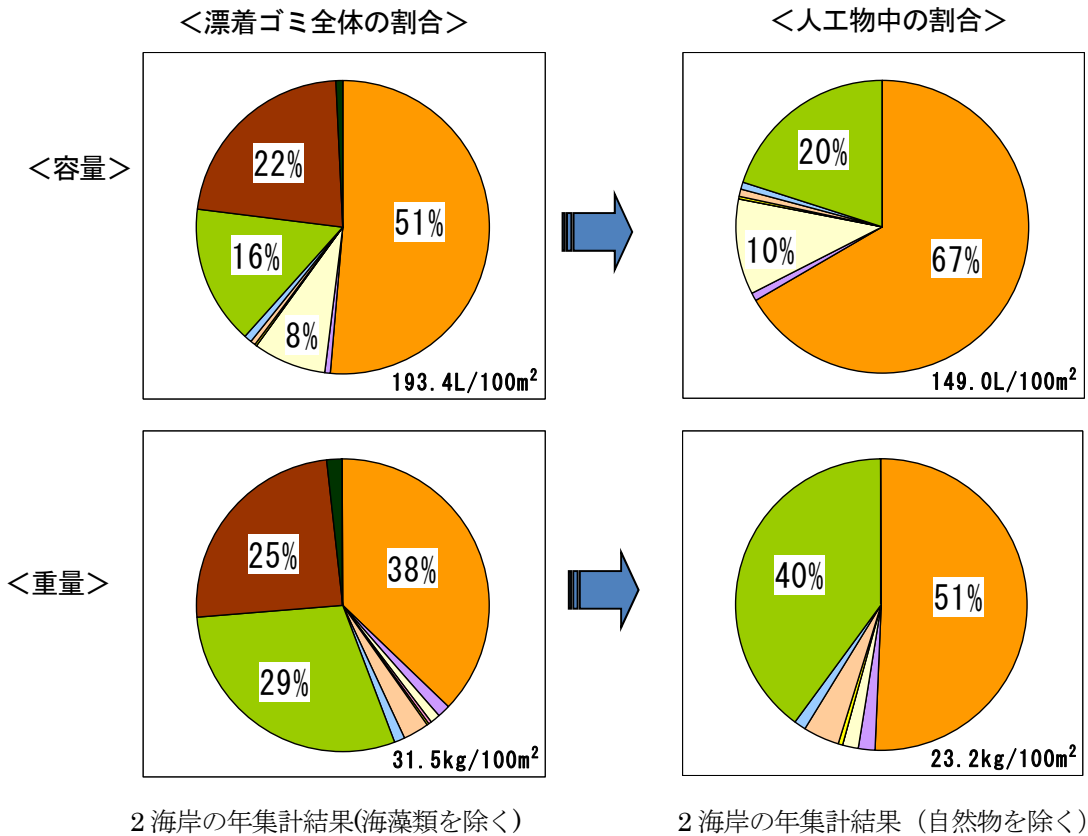


図 1-5 海岸漂着ごみを低いレベルの量で維持するイメージ

1.2.3 漂着ごみの種類

対馬の海岸に漂着するごみの種類を大きなグループ別にみると、容量の約2割が自然物（流木や灌木（木の枝や植物片など））で、残りの約8割がプラスチック類・発泡スチロール・木材などの人工物となっています。このうち、人工物は、容量ではプラスチック類が約7割（重量では約5割）、木材が約2割（重量では約4割）を占めています（図1-6）。



2 海岸の年集計結果(海藻類を除く)

2 海岸の年集計結果 (自然物を除く)

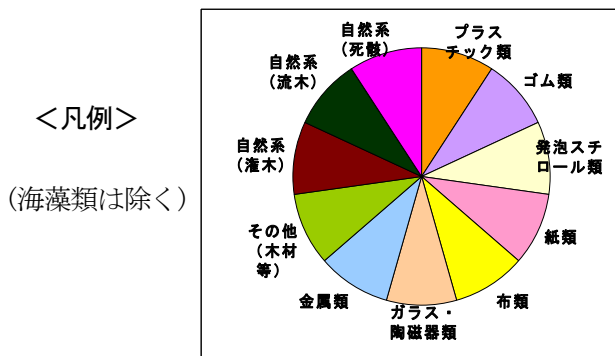


図 1-6 対馬の海岸漂着ごみの種類（平成 19・20 年度環境省モデル調査*結果）

*：「平成 19・20 年度漂流・漂着ゴミに係る国内削減方策モデル調査」（環境省）

漂着ごみが海岸に漂着している様子の例を図 1-7 に示しました。

漂着ごみを大きく分けると、軽くて風で飛ばされやすい発泡スチロール製のブイ・箱、固い漁業用プラスチックブイ、韓国で海苔養殖の消毒などに使われていると言われる化学薬品用のポリタンク、アナゴ漁で使用する筒漁具とその蓋（ヌタウナギという魚を獲る漁具）、漁網やロープなどの漁具が目立ちます。このほか、流木や木材も多く、これらのごみの間に重量の軽いペットボトルが

多く見られます。また、危険なごみとして、針のついた注射器や、薬品が入っているバイアル瓶などの医療系廃棄物も見られます。



図 1-7 対馬市の主な海岸漂着ごみ



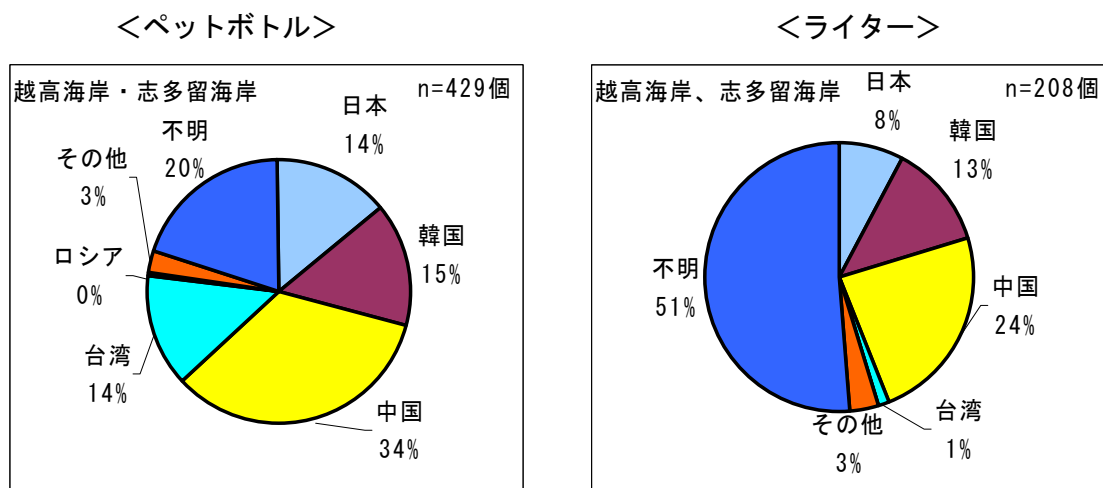
これらのごみのうち、生産国がわかりやすいペットボトルとライターを調べた結果、それぞれ中国製が2～3割、韓国製が1～2割を占めていました（図 1-8）。

一方、どちらの製品にも、日本製が1割程度含まれています。このことは、国外ばかりではなく、国内あるいは対馬島内から発生しているごみが対馬の海岸に漂着していると考えられます。

これら日本製のごみのうち、太平洋側に流れ出たものは、北西ハワイ、アメリカ西海岸などにも流れ着くこともあります。つまり、対馬には海流や季節風によって周辺の諸外国および日本・対馬島内からのごみが流れ着き、対馬から流出したごみは同様に日本各地および海外に流れ着くことになります。

特に、対馬の道路脇には多くの空き缶やペットボトル、弁当殻などが捨てられている場所もあり（図 1-9）、これらはやがて大雨や風によって、道路から川へ、川から海へと流れ出て、対馬島内あるいは日本各地・海外の海岸へと漂流し、漂着ごみの発生源になる可能性があります。

そのため、まずは対馬島内でのポイ捨て防止や家庭ごみを適切に処理することなどが、漂着ごみを減らすために重要なこととなります。それ故、対馬の内陸側に生活している人も、漂着ごみは海岸のことだからと他人事と思うのではなく、自分が捨てたごみが海岸漂着ごみになることを理解して、ごみを適切に処理することが必要です。つまり、漂着ごみに関しては、当事者でない人はいない、ということになります。



注：生産国は、2品目とも本体表記の言語で、ライターは底面・風防の刻印等より判断。

図 1-8 対馬のごみの生産国割合（平成 19・20 年度環境省調査結果）



図 1-9 対馬市の道路脇のポイ捨てごみの例



2 なぜ、海岸漂着ごみの清掃活動を実施する必要があるのでしょうか？

前章「1. 対馬市の漂着ごみに関わる概況」で示したように、対馬市の海岸には残念ながら多くのごみが繰り返し漂着しています。

漂着ごみの襲来によって海岸の景観は台無しになり、危険なごみも漂着していることから海岸で遊ぶことも難しくなります。

しかし、それによって対馬市民が健康被害を受ける、あるいは、生活に支障が出るなどの具体的な被害を聞いていませんか？

では、なぜ、海岸漂着ごみの清掃活動を実施する必要があるのでしょうか？

実は、海岸漂着ごみについては次のような影響が懸念されており、生物多様性への影響に加え、やがては対馬市民ばかりではなく、世界の人々の健康や生活に跳ね返ってくる可能性が考えられています。そのために、海岸に流れ着いたごみについては、可能な限り早めに回収することが重要となります。

2.1 漂着ごみの問題点

● 直接的な影響

・ 誤飲、誤食による生物への影響

海に流れ出たレジ袋・ペットボトルのキャップなどの漂流ごみを、ウミガメ・イルカや海鳥などが餌と間違えて食べてしまうと、いつまでも消化されずに胃などの消化器にたまり続け、やがては餌を取れずに死んでしまう場合があります。

・ 絡まりによる生物影響

漁網やロープなどは化学繊維素材でできており、切れにくく柔らかいため、アシカやウミガメなどがこれに絡まるとはずれにくく、体に食い込んだり、動けなくなって、やがては死に至る場合もあります。

【生物による誤飲・誤食の被害例】



水面のごみをついばむ水鳥



死んだウミガメの胃から回収したプラスチック破片ごみ



死んだコアホウドリのヒナ3羽の胃から回収されたごみ

かわい
そう

【漁網やロープによる絡まりの被害例】



漁網が首にからまった
キタオットセイの子ども



漁網にからまった状態で
死亡していたウミガメ



釣り糸にからまった状態で
死亡していたペリカン



(写真提供：一般社団法人 JEAN <http://www.jean.jp>)

・ 海岸植物への影響

海岸に堆積したごみによって、スナビキソウなどの海浜植物のほか、ハマボウのように絶滅に瀕している希少な植物も含む海岸の植物が覆われてしまい、生育が困難となる場合もあります。

・漁業被害

漁業への影響としては、漁船のスクリーンに網や流木がぶつかって壊れて動けなくなるほか、定置網などに絡まって操業に支障を来すこともあります。

・景観の悪化、観光被害

観光地に隣接する海岸では漂着ごみの堆積により景観が悪くなり、対馬を訪れた観光客が再度の訪問を取り止めたり、口コミでの風評によって観光にも影響を与える可能性が考えられます。

● 間接的な影響：海洋環境、人間への影響

海岸や海中にあるプラスチック類は紫外線によって劣化するほか、波浪などの影響も受けて微細化してしまいます。微細化したプラスチックは、元々酸化防止剤や難燃剤などの添加剤に由来するさまざまな有害物質が含まれている上、石油からできているために PCB（ポリ塩化ビフェニール）などの有害物質を吸着しやすく、その濃度は周りの海水の 10 万～100 万倍になることもあると言われています。それを餌と間違えて食べた海鳥や魚・貝類に有害物質が蓄積され、やがては魚や貝類を食べる人間の健康や生活に影響を与える可能性が指摘されています。

【微細化したプラスチックの例】

プラスチックゴミは、漂流漂着中に分裂を繰り返し、大きさが1 mm以下の**プラスチック微細片**（マイクロ・プラスチック）となり、海岸砂に入り交じり、あるいは、海洋を漂流している。そして、プラスチック生産量2億トン/年が続く限り、微細片は今後も増え続ける。

- 漂流プラスチック中のPOPs濃度は、海水からの吸着過程を経て、周辺海水の十万倍から百万倍に至ることもある (Mato et al., 2001, *Env. Sci. Tech.*)
- 漂流プラスチックは、製造段階で添加された有害重金属を大量に含む場合がある (Nakashima et al., 2012, *Env. Sci. Tech.*)

微細片は生物濃縮過程の「加速剤」か？ その生成機構は？ 輸送課程は？

PCB (CB126)

11月21日発行の Nature

Rochman et al. (Nature, 2013)

Ingested plastic transfers hazardous chemicals to fish and induces hepatic stress

Chelsoo M. Rochman¹, Eunho Hoh², Tomokuni Kurobe¹ & Swoo J. Teh¹

1mm以下のプラスチック微細片を取り込んだメダカの肝臓に、微細片起源のPCBが移行して、機能障害が現れた。

微細化したプラスチック片が魚類に影響を与える実験事例

磯辺篤彦：流域圏シンポジウム 漂流・漂着ゴミ — 研究の最前線と今後の課題より
http://www.jsce.or.jp/committee/hydraulic/kankyousuiri/workshop/h25/docs/s_3-3.pdf

2.2 漂着ごみの対策

海岸漂着ごみ対策については、漂着ごみを発生させない対策（「発生抑制対策」といいます）が非常に重要で、身近なところではごみをポイ捨てしない、などのことから始める必要があります。

一方、海岸に漂着してしまったごみについては、上記のように微細化してしまうと回収が困難になるため、可能な限り早く回収・処理することが望まれます。

この海岸漂着ごみの回収・処理については、「海岸漂着物処理推進法」では海岸管理者が海岸をきれ

いにすることが定められていますが、繰り返し押し寄せる漂着ごみについては行政だけの対処が困難であり、特に対馬市の場合は、限られた財政の中で大量の漂着ごみに対処するには限界があります。

そのため、「海岸漂着物処理推進法」には、行政と民間との連携と協働の必要性や、市民は海岸清掃活動に協力することなどが謳われています。

● 私たちにできることは？

・対馬の海や海岸、漂着ごみに関心を持つ

最近、対馬の海や海岸に行ったことがありますか？海岸がどんな状況になっているか、知っていますか？

私たちにできることは、まず、対馬の海や漂着ごみに関心を持つことが第一歩です。

・ポイ捨てしない、生活から出るごみを適切に処理する

海岸ばかりではなく、街中や道路・山の中で捨てられたごみは、やがては街・山から川へ、川から海へ流れ着き、海岸漂着ごみになる可能性があります。

そのため、まずはポイ捨てしないこと、対馬市のごみ出しルールを守って家庭ごみを適切に処理すること、またこれらのことを家族や友人、周囲の人にも伝えて一緒に考え、行動することが必要です。

・海岸や街中、道路脇のごみ拾いに参加する

海岸ばかりではなく、身近な街や道路脇のごみを拾うことが漂着ごみを少なくすることにもつながります。本マニュアルでご紹介する海岸清掃活動のほか、町内の清掃活動などにも積極的に参加しましょう。

・続ける

残念ながら、漂着ごみは清掃しても繰り返し対馬の海岸に流れ着きます。終わりのない活動になりますが、私たちが繰り返しごみを拾うことによって、海岸や海の環境保全につながり、海の生物や私たち人類の健康や生活を守ることにもつながります。

そのため、清掃活動やごみを出さない活動を少しずつでも「続けて行く」ことが非常に大切です。

● 未来のために

美しい対馬の海を私たちの子孫・将来世代に残すことが私たち現世代の責任でもあります。そのためには、多様な生き物が安心して生きて行ける海を守り、安全な海産物を食べられるようにすることや、きれいな海岸で遊べるようにすることが必要です。

そのため、皆さんもポイ捨て防止に努め、対馬の街や海岸をきれいにする活動に参加し、自ら海岸清掃活動を企画して周囲の人にも参加を促すなど、一緒に海岸清掃活動を実施してみませんか？

将来の子どもたち、対馬、地球のために。

● 漂着ごみや、海岸（河川）清掃活動に関わる団体の紹介

以下の団体は、海岸漂着ごみ（あるいは河川ごみ）のことについて真剣に考え、海岸清掃活動も実施・支援しています。また、そのホームページには、清掃活動に関する情報も掲載されていますので、海岸清掃活動に参加される前にご覧ください。初級者のみならず、中・上級者の方々にとっても、有効な情報が掲載されています。

【海岸清掃活動開催の際に参考となる対馬島外の漂着ごみ関係団体】

- ・一般社団法人 JEAN : <http://www.jean.jp/>
- ・公益財団法人 環日本海環境協力センター : <http://www.npec.or.jp/umigomiportal/>
- ・荒川クリーンエイド・フォーラム : <http://www.cleanaid.jp/>

【対馬市海岸清掃マニュアル 概要版】

～ビーチクリーンを始めよう～

3 「対馬市海岸清掃マニュアル 概要版」

3.1 作成目的

「対馬市海岸清掃マニュアル 概要版」は、初めて海岸清掃に参加する方から経験者の方々まで、海岸清掃活動や漂着ごみに興味を持っていただけるよう、次章「4. 初級編」および「5. 中・上級編」を基にして、実際に海岸清掃に参加する際に、この概要版を作業前や作業中にご覧いただき、安全に作業を行うための参考にしていただくことを目的に作成しています。

3.2 概要版の構成

概要版は、海岸での作業中も使いやすいように、写真・イラストを使用して作成しています。

1 ページ目は服装等の準備について、2 ページ目では対馬市の海ごみの分別（家庭ごみの分別にはないものが多い）、回収した海ごみを一時的に保管する「仮置き場」について、ご理解いただけるよう配慮しました。

3 ページ目では、安全に関して特に注意すべき「海ごみ」や「生き物」について抜粋しました。

4 ページ目は、市民が海岸清掃へ参画するきっかけづくりのアイデアと、関係機関との連携も考慮しました。

なお、初めて海岸清掃活動に参加される方は次章「4. 初級編」を、これから海岸清掃活動を企画・運営してみようという方は次章「4. 中・上級編」をご一読ください。



ビーチクリーンを始めよう

(対馬市海岸清掃マニュアル 概要版)



服装

長袖・長ズボン・帽子
滑りにくい履物
手袋



半袖はやめましょう

服装：動きやすい格好!

長袖・長ズボンがオススメ!



軍手

帽

タオル

運動靴などの滑りにくい靴

持っていくもの

	品目	
準備したいもの 各自で	長袖・長ズボン	
	雨具 (カッパ)	
	靴	
	帽子	
	タオル	
	飲み物	
	かばん	
	健康保険証	
	手袋 (軍手)	
	ゴミ袋	
あると便利なもの	携帯電話等	
	飴・梅干等の お菓子	
	サングラス	
	日焼けどめ	
	トンゴ (ごみばさみ)	
	割り箸	
	長靴	
	マリンブーツ	

清掃手順

回収



・大まかに分別しながら回収する方法



・回収してから一斉に分別する方法

搬出

(仮置き場まで)



・各人で運ぶ



・ゴミ袋をリレーで運ぶ



・大きなごみは2名で運ぶ

注意事項

休憩をとろう

緊急時に備えよう

貴重な動植物や自然環境に配慮しよう



海岸ごみの分別（赤枠が多く、他は少量）

漂着ごみの分別一覧



<p>廃プラスチック類</p> <p>中身が空のもの プラスチックゴミ</p> <p>*:プラスチックゴミは別回収の場合あり</p>	<p>発泡スチロール</p> <p>パイ 箱</p>	<p>木材、角材</p>	<p>その他可燃ごみ</p>
<p>ビン類、ガラス類</p> <p>割れた蛍光灯</p>	<p>蛍光灯</p> <p>割れていないもの</p>	<p>金属類</p> <p>缶類 オイル缶 スプレー缶 中身の入っていないもの</p>	<p>乾電池</p>
<p>漁網・ロープ</p>	<p>電化製品</p>	<p>タイヤ類</p>	<p>医療系廃棄物</p>
<p>オイルボール</p> <p>オイルボール</p>	<p>その他の不燃ごみ</p> <p>ワイヤー 中身のないドラム缶</p>	<p>その他の危険物</p> <p>中身の入っているもの 発煙筒等の火薬類</p>	

危険(キケン)なもの

異臭を発する物など危険物には手を触れないで連絡を

中身のよくわからない袋や容器など
(薬品、オイルなどの可能性あり)

動物死体
(毒のあるもの、鳥など)

火薬等
(発煙筒、信号弾など)

ごみを置く場所と日時は、「美しい対馬の海ネットワーク」と相談して決めましょう。
ごみの分類群ごとに分けて置く



ビーチクリーンを始めよう 「ごみの分別・処理編」

安全の知識

危ないごみ(けがに注意)

触らずに、主催者に場所を知らせる。



針付注射器



中身の分からないボトル



蛍光灯



ガスボンベ



イカツノ



ルアー



消火器



誤ってけがをした場合は、かならず近くの人に声をかけて、救護担当者を呼ぶこと。

注意したい生き物



ツシママムシ
→かまれる(有毒)



カツオ/エボシ
→刺される(有毒)



ハチ類→刺される



ムカデ→刺される

被害を受けた時は、落ち着いて行動するよう心がけて、近くの人に声をかけて救護者を呼んで来てもらう。

ツシママムシの写真: (財) 日本蛇族学術研究所(<http://urabanashi.blog5.fc2.com/blog-entry-769.html>)より引用

海へ行って、気持ちも、浜辺もキレイに・・・

第一歩のきっかけづくりの例

釣りや水遊びで海を満喫した帰りに、漂着物を持ち帰って調べてみる



自分の興味・関心をロックオン!

(インターネットや図書館で情報を探す)

たとえば……

- ・漂着物の正体は?、どこからやって来た?
- ・貝殻や海藻の名前?
- ・そのまま放置すると?
- ・ごみを拾うとカロリー消費量は?
- ・もっと浜辺をキレイにするには?
- ・ごみの処分にお金はかかるの?

調べた知識を使ってみる!

- ・学校や家庭、職場で自慢する
- ・詳しい人に聞いてみる
- ・もう一度海へ行ってみる
- ・結果を発信する(ブログなど)
- ・「漂着物辞典」を読んでもみるなど

調べた結果や気持ちを書いてみよう



・例) ○○海岸で拾ってきた木の実を、
●○図鑑で調べたら、沖縄県で見られる「×××」という植物の実にそっくりだった。ちょっと意外だった。



初級編

海岸清掃イベントに参加してみる

- 1 海岸清掃活動を実施している団体等を探そう
- 2 日時・場所・内容を確認しよう
- 3 参加申込みをしよう
- 4 参加準備をしよう
- 5 服装と持ち物を準備しよう
- 6 海岸清掃活動をやってみよう
- 7 漂着ごみの分別を確認しよう
- 8 危険なごみ・動植物・場所を確認しよう
- 9 楽しく安全に海岸のごみを拾おう



中・上級編

自分で海岸清掃を企画・実行してみる

○ 海岸清掃活動の準備をしよう

- 1 場所・日程・人数を決めよう
- 2 役割やスケジュールを決めよう
- 3 行政などに相談・申込みをしよう
- 4 地域関係者に協力をお願いしよう
- 5 場所や施設を確認・確保しよう
- 6 用具・備品を準備しよう
- 7 【開催日が近づいたら】
参加者への説明事項、
安全対策を整理・確認しよう
- 8 広く参加者を募集しよう

○ 海岸清掃活動の実施(当日)

- 1 事前準備
- 2 海岸清掃活動の実施
- 3 活動終了後の片づけ

○ 参加者への事後報告



発行：長崎県対馬市



制作：日本エヌ・ユー・エス株式会社

【初級編】

4 【初級編】 海岸清掃活動に参加してみよう

【初級編】は海岸清掃活動に参加したい方を対象として、どんなことをすれば良いのかを解説します。

【初級編】 海岸清掃活動に参加してみよう

- 4.1 対馬市で海岸清掃活動を実施している団体を探そう
- 4.2 日時・場所・内容を確認しよう
- 4.3 参加申込みをしよう
- 4.4 参加準備をしよう
 - 4.4.1 服装と持ち物を考えよう
 - 4.4.2 体調を整えよう
- 4.5 海岸清掃活動をやってみよう
 - 4.5.1 集合場所・時間を確認し、受付をしよう
 - 4.5.2 漂着ごみの分別を確認しよう
 - 4.5.3 危険なごみ・動植物・場所を覚えておこう
 - 4.5.4 楽しく安全に漂着ごみを拾おう
 - 4.5.5 閉会式に参加しよう
- 4.6 続けよう

みんなで参加
してね!



4.1 対馬市で海岸清掃活動を実施している団体を探そう

まず、対馬市でどんな団体が海岸清掃活動を実施しているか、探してみましょう。

対馬市の海岸漂着物対策については、対馬市市民生活部環境政策課が窓口となっています。

一方、対馬市で海岸清掃活動を行っている民間団体としては、特定非営利活動法人（以下、「NPO」といいます）「対馬の底力^{*1}」のほか、同「対馬次世代協議会（対馬コノソレ）^{*2}」、同「森里海再生協議会^{*3}」があります。

また、これら3団体が設立した任意団体「美しい対馬の海ネットワーク」があり、平成25年度から毎年一回「日韓海岸清掃フェスタ IN 対馬」を開催しています（表 4-1）。

平成25・26年度の「対馬市海岸漂着物対策推進協議会」において、今後の対馬市の海岸漂着ごみ対策については、対馬市の民間団体の集まりである「美しい対馬の海ネットワーク」が主体となって、対馬市と互いに連携・協働して、海岸清掃活動や啓発活動を実施して行くことが決まりました。

そのため、市民や島外のボランティアが海岸清掃活動に参加する、あるいは計画する場合は、今後「美しい対馬の海ネットワーク」に連絡を取ることによって、対馬市や関係者との調整・協力ができ、さまざまな対応が図れるように計画しています。

海岸清掃活動や海岸漂着ごみに興味のある方は、これら団体などの海岸清掃活動の情報を調べ、参加を検討しましょう。



注：

*1：平成19年9月に対馬で初めて海岸清掃を目的とした団体として設立された。

*2：平成24年6月に対馬の若者達が結成した島おこしグループ（平成24年3月にNPO法人化）。対馬の特産品なども発売。

*3：平成22年3月に設立、同年10月に法人化。海岸漂着物のうちの流木の木炭化、漂着ごみの有効利用、発泡スチロールの減容化などを実施中。

表 4-1 対馬市で海岸清掃活動に係る情報提供を行う行政および主な民間団体

実施主体・閲覧先とホームページ（HP）等のトップページ	HP 等の内容	募集
<p>対馬市市民生活部環境政策課 (対馬市の HP 内に掲載。同課の HP はない)</p>	<p>「日韓市民ビーチクリーンアップ」の開催案内</p>	<p>あり</p>
<p>特定非営利活動法人 対馬の底力 http://www4.ocn.ne.jp/~soko.jk/</p> 	<p>海岸清掃活動報告</p>	<p>あり</p>
<p>美しい対馬の海ネットワーク（日韓海岸清掃フェスタ） https://www.facebook.com/jkbcuf</p> 	<p>「日韓海岸清掃フェスタ」の開催案内 海岸清掃活動計画と報告</p>	<p>あり</p>
<p>特定非営利活動法人 対馬次世代協議会（対馬コノソレ） https://ja-jp.facebook.com/TsushimaConosole</p> 	<p>街中・道路脇・海岸の清掃活動計画と報告</p>	<p>あり</p>
<p>特定非営利活動法人 森里海再生協議会 http://yankomo.com/modules/pico4/index.php?content_id=3</p> 	<p>法人の説明：森林、河川や海の浄化活動などの環境保全活動等を実施していることを紹介</p>	<p>なし</p>

4.2 日時・場所・内容を確認しよう

参加できそうな海岸清掃活動を見つけたら、募集案内を見て、開催日時や場所、活動内容、持ち物などを確認し、準備しましょう。

● 確認すること

- ・開催日時
- ・場所：集合場所、活動場所と地図
- ・活動内容、申込方法
- ・その他：持ち物（服装など）ほか、注意事項

2013日韓市民ビーチクリーンアップの開催について

2013

日韓市民ビーチクリーンアップ

～ 日韓海峡沿岸県市海岸一斉清掃 ～

今年も、下記の日程で「日韓市民ビーチクリーンアップ」を実施致しますので、ボランティアの参加を募集します。

日 時：平成25年 5月26日（日）★ 雨天中止 ★

午前10時～午後3時（予定） 9時30分受付開始

清掃場所及び集合場所：対馬市上県町佐護地区 湊浜海岸周辺（別紙地図参照）

集合場所：上県町佐護 湊浜海水浴場駐車場

主 催：対馬市・釜山外国語大学校

共 催：長崎県

協賛団体：NIB長崎国際テレビ（24時間チャリティ委員会）

☆ 軍手・昼食（お茶・弁当）はこちらで準備します。

☆ 足場が悪い海岸ですので、作業しやすい服装、靴で参加ください。

※ 参加を希望される方は、別紙申込書を記入のうえお申し込みください。

締切は平成25年5月22日（水）です。

申込書（33KB）

問い合わせ・申し込み先：〒817-0022 長崎県対馬市厳原町国分1441

対馬市役所 環境政策課

電話 0920-53-6111 FAX 0920-52-9114

E-mail: haikibutu@city-tsushima.jp

図 4-1 海岸清掃活動の参加者募集案内の例

対馬市のホームページより転記（一部修正・加筆）

http://www.city.tsushima.nagasaki.jp/web/tsushimanews/post_542.html

4.3 参加申込みをしよう

事前の参加申込みが必要な場合には、必ず申込み手続きを行いましょう。

参加申込み時に主催者に伝える項目の例を表 4-2 に示します。その際に、主催者の連絡先や、参加に当たって確認しておきたいことがあれば聞いておきましょう。

なお、事前の参加申込みが不要な当日現地集合、自由参加形式の海岸清掃活動もありますので、情報を集めてみましょう。

表 4-2 海岸清掃活動の参加申し込み時に伝える項目の例

項目	備考
参加者情報 名前、性別、生年月日、住所、 電話番号、緊急連絡先 (携帯番号・携帯メールアドレスなど)	<ul style="list-style-type: none"> 参加者全員分の情報を伝える（主催者によって求められる情報は異なる） 緊急連絡先は、主催者が当日の中止・順延や事故時などの緊急連絡をするために必要な場合がある
参加者が確認したいこと（例として）	<ul style="list-style-type: none"> 移動方法：自家用車利用の可能性（駐車場の有無）、送迎バスなどの利用可能性 主催者の連絡先（参加者が緊急連絡をするため）

対馬市環境政策課 行き FAX 0920-52-9114 E-mail haikibutu@city-tsushima.jp	申込みは平成25年5月22日（水）までをお願いします。							
<h2>2013 日韓市民ビーチクリーンアップ参加申し込み用紙</h2>								
番号	氏名	所属団体	参加する日	住所	電話	FAX	E-mail	備考
1			5月26日					
2			5月26日					
3			5月26日					
4			5月26日					
5			5月26日					
6			5月26日					
7			5月26日					
8			5月26日					
9			5月26日					
10			5月26日					
<small> ※ 記入欄が不足する場合は、コピーしてください。 ※ 団体で申し込まれる場合は責任者をお決めになり、備考欄に「責任者」と明記してください。なお、悪天候による事業の中止等が考えられますので、代表者の方については電話の欄はできるだけ携帯電話の番号を記入下さい。 ※今回、24時間テレビチャリティ委員会より昼食を用意させていただきます。 </small>								

図 4-2 海岸清掃活動の申込み用紙の例

対馬市役所のホームページより転載

http://www.city.tsushima.nagasaki.jp/web/tsushimanews/post_542.html

4.4 参加準備をしよう

当日までに海岸清掃活動への参加準備をしっかりとやりましょう。

4.4.1 服装と持ち物を考えよう

季節や当日の天気、活動内容に適した服装を心がけましょう。図 4-3 や図 4-4 のような長袖、長ズボン、運動靴（長靴）、帽子、タオル、手袋（軍手）という服装が動きやすく、状況に応じて調整が可能なので、海岸清掃活動に適しています。半袖や半ズボンなどの服装は肌を露出させていることからケガをしやすくなるため、暑い時期でも避けましょう。特に、ケガや転倒防止のため、足の肌が露出するサンダル類の着用は止めましょう。

また、活動中は汗をかくので、適度な水分補給が必要です。主催者から飲み物提供の案内がない場合は、各自で準備して参加しましょう（水筒を持参するのも良いでしょう）。

海岸清掃活動のための持ち物の例を表 4-3 に示しました。これを参考に準備してください。ただし、現地での活動に最低限必要なものにしましょう。



図 4-3 海岸清掃活動に適した服装の例



ケガ防止のために、できるだけ肌を露出させないようにネ。



図 4-4 海岸清掃活動時の服装の例

表 4-3 海岸清掃活動のための持ち物の例

品 目	備 考	
各自で準備したいもの	長袖・長ズボン	<ul style="list-style-type: none"> ケガを避けるため、長袖・長ズボンが良い 作業時は汗をかくので、乾きやすい素材のものが良い
	雨具 (カッパ)	<ul style="list-style-type: none"> 雨具は風雨を通さないため、雨天時や寒い時期の清掃活動には、適している 傘の利用は片手が使えなくなるほか、傘が風にあおられて危険なため、雨具の着用が良い。
	靴	<ul style="list-style-type: none"> 運動靴や登山靴が適している 滑りにくい靴底のものが良い (下記のように長靴でも可) サンダル類は滑りやすく、ケガのリスクが高いため不可
	帽子	<ul style="list-style-type: none"> 熱中症・日射病対策に必ず着用する 海岸は風が強いいため、飛ばされないように注意する
	タオル	<ul style="list-style-type: none"> 作業時に汗をふくために必要である ただし、チェーンソーなどの機械使用時は巻き込み事故を防ぐため、絶対に着用しない
	飲み物	<ul style="list-style-type: none"> 主催者から提供の案内がない場合には各自十分に準備する マイ水筒の使用を推奨したい
	かばん	<ul style="list-style-type: none"> 貴重品などは個人で管理して身体から離さない 作業時に両手が自由に使えるリュックなどが適している 軽量のものが適している
	健康保険証	<ul style="list-style-type: none"> ケガなどの緊急時に必要となる場合がある
	手袋 (軍手)	<ul style="list-style-type: none"> 主催者が配布する場合もあるが、各自が持参して、可能な限り再利用すると良い
	ごみ袋	
あると便利なもの	携帯電話等	<ul style="list-style-type: none"> 緊急連絡時に便利 活動場所によって使用できないことに注意する
	カメラ	<ul style="list-style-type: none"> 清掃活動の様子や珍しい漂着ごみを撮影し、記録する
	飴・梅干等の お菓子	<ul style="list-style-type: none"> 熱中症対策や活動時に疲れたときにリフレッシュできる 個別包装のごみは、不注意で落とすことがないように、注意して持ち帰る
	サングラス	<ul style="list-style-type: none"> 活動の妨げにならないものを使用する
	日焼けどめ	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて各自で紫外線対策を行う
	トング (ごみばさみ)	<ul style="list-style-type: none"> 基本的には手袋を着用した手でごみを拾うが、必要に応じて主催者が貸出す場合がある
	割り箸	<ul style="list-style-type: none"> 廃油ボール回収時に使用するのに便利である
	長靴 マリンブーツ	<ul style="list-style-type: none"> 水辺付近の活動時に適している 主催者から案内があるときに各自準備する

4.4.2 体調を整えよう

海岸清掃活動に参加する場合、睡眠不足や夜更かしなどは熱中症の原因にもなりますので、海岸清掃活動の前日までに体調を整えておきましょう。

4.5 海岸清掃活動をやってみよう

海岸清掃活動に参加するに当たり、知っておかなければならないことがあります。

主催者から説明がある場合は、その指示に従いましょう。

4.5.1 集合場所・時間を確認し、受付けをしよう

どの海岸で、いつ、何時から海岸清掃を行うのかを、しっかりと確認しましょう。

現地には主催者が指定する方法などで移動して受付けを行い、当日のスケジュールと活動場所、休憩場所、トイレの位置などを確認して、開会式に参加しましょう。

4.5.2 漂着ごみの分別を確認しよう

漂着ごみの分別方法は、家庭ごみと異なります。主催者の説明を聞いて、漂着ごみの分別方法を確認しましょう。なお、後の処理を考えた場合、対馬市の海岸漂着ごみの分類・分別は、次のようになります。このうち、赤枠で囲んだ4つの分類群（廃プラスチック類、発泡スチロール類、木材・角材類、漁網・ロープ類）が漂着ごみ量の多くを占めています。他のごみは量的には少ないため、4つの分類群と平行して分類・回収すると良いでしょう。



図 4-5 漂着ごみの分別方法の例（対馬市）

4.5.3 危険なごみ・動植物・場所を覚えておこう

● 危険なごみ

海岸には危険なごみが漂着していることがあります。危険なものや中身が良くわからないごみは、触らずに主催者に知らせましょう。危険なごみへの対応例を表 4-4 に整理しました。




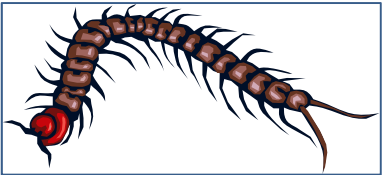


表 4-4 危険なごみの対応例

危険なごみ		対応 (理由)
割れ物 (ガラス・陶器など)		参加者が注意して集める ・素手でさわらない (ケガの危険性あり) ・割らないで集める ・他のごみと混ぜない (破裂の危険性あり) ・他のごみと混ぜない (破裂や引火の危険性あり) ・他のごみと混ぜない (引火の危険性あり) ・素手でさわらず、割り箸などを使用して集める ・他のごみと混ぜない (引火の危険性あり)
割れ物 (蛍光灯・電球)		
スプレー缶		
ガスの残っているライター		
廃油ボール		
医療系廃棄物 (注射器・針、薬瓶など)	注射器 バイアル瓶 	主催者が対応する 【参加者は集めない】 ※発見者は、所在場所を主催者に知らせる (他のごみと混ぜて処理しない)。 ※動物の死体は原則として回収しない (ただし、主催者が対馬市に連絡して対処する)。
爆発性のもの (信号弾・発炎筒・爆竹・高压ガスなど)	船舶用発炎筒 ガスボンベ 	
中身のわからない液体等が入ったもの (ポリタンク・ドラム缶、ペットボトルなど)		
動物の死体 (有毒・感染の恐れがあるもの)		

● 危険な動植物

波打ち際には有毒なクラゲが漂着していたり、海岸の植生帯付近にはマムシのほかムカデ・ハチのような有毒な動物や、ノイバラ・アザミ類のようなトゲで怪我をしやすい植物が生息・生育している可能性があります。前述のように、長袖・長ズボンを着用し、危険な動植物を見かけたら近づかない、触らないようにしましょう。また、むやみに植物が密生する植生帯の中に入らないように

しましょう。もし、危険な動植物を見かけたら、近くで活動している人に声を掛けて注意を促し、主催者にも知らせましょう。

	
<p>カツオノエボシ(有毒。クラゲの一種)</p>	<p>ツシママムシ (有毒。特徴は頭が三角形)</p>
	
<p>アシナガバチの仲間 (有毒。海岸付近でも営巣)</p>	<p>ムカデの仲間 (有毒。海岸にも生息)</p>
	
<p>ノイバラ (トゲが危険)</p>	<p>アザミの仲間 (葉のトゲが危険)</p>

注：ツシママムシの写真は「生きもの好きの語る自然誌」(<http://natural-history.main.jp/indexs.html>)より引用。

図 4-6 危険な動植物の例



気をつけようネ。

● 危険な場所

水辺や岩場、波打ち際などは足元が不安定で滑りやすいので、不用意に近づかないようにしましょう。海岸清掃活動時は、安全に配慮し、単独行動をせずに複数人で行動を共にするようにしましょう（万が一怪我をしても助け合えます）。また、子どもが参加する場合は、常に大人の目が届く範囲内で活動させ、危険な場所では慎重に行動するように注意し、場合によっては近づかせないよう配慮しましょう。



図 4-7 海岸での危険な場所の例

4.5.4 楽しく安全に漂着ごみを拾おう

清掃手順、自然環境への留意事項などを確認して、楽しく、安全に活動しましょう。

海岸清掃活動を行う場合は、「楽しく、安全に」が大切です。そのためには、主催者が指示する安全な方法でごみを回収しましょう。

海岸清掃活動の会場では、開会式の前後に配布されるゴミ袋を持って海岸に行き、主催者が指示する分別・回収方法で漂着ごみを拾いましょう。大きなごみばかりではなく、細かいごみも注意して拾いましょう。また、集めたごみは、他の参加者と協力して、指定された場所（仮置き場）まで運び、主催者の指示する方法で仮置きしましょう。海岸清掃活動は、漂着ごみを拾うだけでなく、分類群ごとに分別して集め、指定された仮置き場まで運び、風で飛ばされないようにするまでが一連の作業となります。

なお、漂着ごみの中で、気になったごみがあれば、主催者にどんなことに使われている品物なのか、生産国はどこなのか、どのように流れてくるのかなどを聞き、興味を持って作業しましょう。

● 清掃手順

回収：次の場合のように、どのように回収するか、主催者に確認してください。



・大まかに分別しながら回収する方法



・回収してから一斉に分別する方法

搬出：回収したごみを仮置き場まで運ぶ方法についても主催者に確認してください。



・各人で運ぶ



・ごみ袋をリレーで運ぶ



・大きなごみは2名で運ぶ

● 休憩をとろう

活動中は無理をしないで、休憩をしっかり取り、自分で体調管理をしましょう。特に、暑い季節、湿度が高い時は、熱中症にかかりやすい時期となります。水分と休憩を適切にとり、万が一頭痛がするなどの熱中症の症状が出始めたら、無理をせず、作業を中止し、涼しい場所で休憩するなどの対処をしてください。無理をして具合が悪くなってしまうと、本人も周囲の人も大変です。遠慮せずに、自分の体調と相談しながら、休憩を取りましょう。

また、体調が悪そうな人を見かけたら、積極的に声を掛け、周囲の人や主催者と協力して救護に当たしましょう。

● 緊急時に備えよう









人身災害・事件・事故・自然災害が発生した際には、直ちに主催者に知らせます。主催者の指示に従い、救護を手伝うほか、自らの安全も確保しましょう。

● 貴重な動植物や自然環境に配慮しよう

海岸はさまざまな動植物の生息地でもあります。海岸清掃活動時の侵入や踏みつけによって、生息地・生育地を破壊したり、景観を損ねることのないように配慮しましょう。特に、海岸近くの湿地には、表 4-5 に示すような絶滅危惧の植物種が生育していることが考えられますので、注意が必要です。

また、海岸には、漂着している植物や海藻などの自然物を餌や住処としている動物がいます。基本的に、これら自然物は拾わないようにしましょう。

表 4-5 貴重な植物の例

長崎県レッドリストの категория	植物の例
<p>絶滅危惧Ⅰ類</p> <p>絶滅の危機に瀕している種</p>	<div data-bbox="810 293 1214 584" style="text-align: center;">  <p>チャボイ</p> </div> <div data-bbox="719 595 1318 857" style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="719 595 1007 857" style="text-align: center;">  <p>カワツルモ</p> </div> <div data-bbox="1007 595 1318 857" style="text-align: center;">  </div> </div> <div data-bbox="619 887 970 1149" style="text-align: center;">  <p>ヒロハマツナ</p> </div> <div data-bbox="995 887 1390 1149" style="text-align: center;">  <p>リュウノヒゲモ</p> </div>
<p>絶滅危惧Ⅱ類</p> <p>絶滅の危険が増大している種</p>	<div data-bbox="619 1178 983 1435" style="text-align: center;">  <p>ジバナ</p> </div> <div data-bbox="995 1178 1334 1435" style="text-align: center;">  <p>ハマササ</p> </div> <div data-bbox="868 1458 1126 1783" style="text-align: center;">  <p>ウラゴ</p> </div>

注：「五島・壱岐・対馬沿岸海岸保全基本計画～交流と漁火の「しま」～長崎県 平成 16 年 3 月」を基に作成、カテゴリーのみ変更)

・長崎県レッドリスト：改訂版長崎県レッドリスト 2011（維管束植物一部修正後）

<https://www.pref.nagasaki.jp/shared/uploads/2013/07/1373432643.pdf>

写真引用：対馬植物図鑑 <http://plant.kacchell-tsushima.net/>

日本の水生植物 http://waterplants.web.fc2.com/zufu_kawaturumo.html

三河の野草 <http://mikawanoyasou.org/>

4.5.5 閉会式に参加しよう

● 閉会式に参加しよう

主催者から“海岸清掃活動終了”の合図があった場合は、忘れ物がないよう、身の回りのものを片づけて閉会式に参加し、当日の成果や主催者のコメントを確認しましょう。また、後日、主催者のホームページなどで活動報告が掲載されるかどうか確認しておくとも良いでしょう。

● 海岸清掃活動が終わったら・・・

キレイな海岸って
イネ!



きれいになった海岸を見て、どう思いましたか？

回収前と回収後の写真を撮っておくと、後で比較できます。

また、この活動を振り返って、どのような発見がありましたか？

中国や韓国のごみが目立つかもしれませんが、日本のごみもありましたよね？

これらのごみが海流に乗って、遠くはハワイや中部太平洋まで流れて行く場合があることや、(P.8～9でご紹介したように)紫外線や波で細くなったプラスチック類を海鳥やウミガメ・魚などが餌と間違えて食べてしまい、場合によっては死んでしまう可能性があること、またこれら微細化したプラスチック類に含まれる有害物質を餌とした魚介類を通じて、やがては人類の生活や健康にも影響が出てくる可能性があることを考えてみてください。

4.6 続けよう

初めての活動経験を活かして、以後も「続けて」海岸清掃活動に積極的に参加しましょう。

また、海岸清掃活動への参加結果を家族や友人にも話し、次回は学校や職場のお友達も誘って参加してみてください！

みんなでやれば、より楽しく、よりきれいになりますよ！



上県町越高海岸：清掃前

同：清掃後



キレイになって、気持ちがいいね！また、参加しよう！

【中・上級編】

5 【中・上級編】自分で海岸清掃活動を企画・実行してみよう

「中・上級編」は、自分で海岸清掃活動を企画・実行したい方を対象に、そのノウハウをご紹介します。

この【中・上級編】は、海岸清掃活動に複数回参加して「気づいて」「知って」「やってみて」得たさまざまな経験を、同じ気持ちを持つ対馬の人々に「つなげる」ためのもので、海岸清掃活動を企画・実施したい方を対象にその方法をまとめています。海岸清掃活動を主催したい方は、少なくとも複数回の海岸清掃活動に参加し、経験を積んでおきましょう。

海岸清掃活動を企画・実施する上では、清掃を行う海岸の規模やごみの量、参加者の多寡に応じて主催者側の労力に大小の差が出てきますが、それらのレベルによって「中級編」および「上級編」と分けることが難しいため、ここでは一括して【中・上級編】として扱うこととしています。

本編では、「事前の準備」、「当日」、「事後対応」の3段階に分けて解説しています。その流れは、以下のとおりです。主催者が考えている活動目的、実施対象・規模に応じ、本編の内容を適宜利用・改良して利用していただきたいと思います。

なお、次章の【イベント編】は、この中・上級編を基にして、音楽活動などのイベントも含めた海岸清掃活動の実施を想定したバージョンとなっています。そのため、まずは本章の中・上級編から始めて頂くのが良いでしょう。

【中・上級編】自分で海岸清掃活動を企画・実行してみよう

5.1 【事前準備】海岸清掃活動の準備をしよう

- 5.1.1 清掃海岸、実施日時を決めよう
- 5.1.2 開催規模、実施日時(延期日時)を決めよう
- 5.1.3 役割分担・スケジュールを決めよう
- 5.1.4 参加申込書の作成と参加受けをしよう
- 5.1.5 用具・備品を準備しよう
- 5.1.6 漂着ごみの分類方法を確認しておこう
- 5.1.7 安全対策と緊急時の対応を検討しておこう
- 5.1.8 再確認しよう（開催予定日の一週間前～三日前）
- 5.1.9 最終確認をしよう

5.2 【当日】海岸清掃活動を実行してみよう

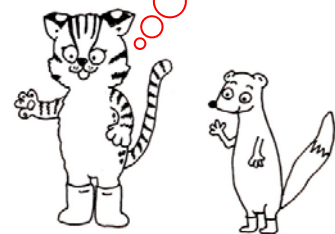
- 5.2.1 天候確認後に実施を決めよう
- 5.2.2 海岸清掃活動の当日の準備作業をしよう
- 5.2.3 開会式をしよう
- 5.2.4 海岸清掃活動を開始しよう
- 5.2.5 回収後の作業をしよう
- 5.2.6 閉会式をしよう
- 5.2.7 後片付けをしよう
- 5.2.8 関係者へ終了報告をしよう

5.3 【事後対応】海岸清掃活動のまとめをしよう

- 5.3.1 活動記録整理と情報発信をしよう
- 5.3.2 関係者に御礼と報告をしよう
- 5.3.3 ポスターなどの撤去・片付けをしよう
- 5.3.4 道具の手入れ・保管をしよう
- 5.3.5 反省会を開催しよう
- 5.3.6 次回の案内をしよう

5.4 続けよう

「初級編」より細かいね。



5.1 【事前準備】海岸清掃活動の準備をしよう

海岸清掃活動の企画およびその準備に当たっては、以下を検討・配慮する必要があります。

特に、**事前の準備が非常に大事**です。

《海岸清掃活動の企画・開催に向けて準備すべきこと》

- **海岸の選定、実施日決定に関わること**
下見の実施（ごみの状況、交通アクセス、トイレ、休憩場所、日陰、開会式・閉会式の場所、ごみの仮置き場など）、関係者との調整、海岸・実施日（順延日時）の決定
- **役割分担、スケジュールに関わること**
必要な用具・備品を調達する係や当日の受付係、進行係、記録係などの役割分担のほか、開催日までに実施すべき項目とその工程および当日の作業の流れと時間配分
- **参加者募集に関わること**
募集人数、募集年齢、募集方法、広報に関する「美しい対馬の海ネットワーク」との調整
- **用具、備品の準備に関わること**
必要な用具、説明資料などの準備
- **1週間前～3日前での確認事項に関わること**
海岸の再下見、会場・用具・説明資料の再確認、役割分担・運営・進行の再確認とシミュレーション、週間天気の確認
- **直前の最終的な準備に関わること**
上記事前確認事項の再確認、天気の確認、天候不良の場合の中止・延期の判断

5.1.1 清掃海岸、実施日時を決めよう

どの海岸で清掃活動を行うかを決めましょう。

(1) 清掃海岸の候補検討と海岸の下見をしよう

① 清掃する海岸を選ぼう

清掃を行う海岸選びには、対馬市が作成した「対馬市海岸台帳」が参考になります。

この対馬市海岸台帳を基に、

- ・アクセスや回収したごみの搬出が容易なこと
- ・危険が少なく安全に活動できること
- ・人が集まりやすく作業しやすいこと
- ・駐車場が確保でき、トイレもあること

などを考慮して、清掃する海岸を検討して決めましょう。このほか、普段の通勤途中などに漂着ごみが目立ち、日頃から気になっている海岸も清掃対象として検討すると良いでしょう。

「対馬市海岸台帳」には次のような情報が整理されており、紙ベースの資料は対馬市役所環境政策課、豊玉・上対馬庁舎の住民生活課、美津島・峰・上県行政サービスセンターにファイルに綴じて設置してあり、誰でも閲覧できるようになっています。また、「美しい対馬の海ネットワーク」事務局のホームページ・Facebookには閲覧ファイルが公開されています。

清掃したい海岸を簡便に選定したい場合は、「対馬市海岸台帳」のうちの表形式ファイルの中にアクセスの良い海岸を抽出したリストがあるので、このリストを利用するとトイレの有無も判り、清掃活動を実施したい海岸を選びやすくなります。

この海岸台帳のうち、地図を閲覧できるパソコン用ファイルでは、車で海岸付近まで行けるアクセスしやすい海岸およびその様子を航空写真で見ることができます。また、表形式のファイルでは、対馬の重点区域（=海岸漂着物対策を重点的に推進する区域）ごとに、駐車場の有無や駐車可能台数、トイレの有無も一瞥で見ることができます。そのため、海岸台帳の図と表の両方を併せてみると、清掃海岸の選定に役立ちます。

なお、アクセスの良い海岸では、他の団体などによって海岸清掃活動が行われることもあります。逆に、アクセスのあまり良くない海岸では海岸清掃活動が行われず、漂着ごみが海岸に溜まってしまいう傾向があります。そのため、活動に慣れた仲間が増えてきたら、初級者には難しいような海岸での清掃活動にもチャレンジすることも検討しましょう。

《地図から閲覧》無料ソフト Adobe Acrobat Reader にて閲覧可能

- ・「海岸台帳表紙」からトップメニューを選択
- ・地域選択画面（重点区域ごと）から見たい地域を選択
- ・詳細図選択画面（更に見たい地域を選択）
（漂着ごみの多寡(2013年10月時点)、アクセスの難易度、進入路、駐車場・トイレの概略位置を表示)
- ・詳細図 ⇒ 航空写真

※図中の海岸区分Noをクリックすると航空写真をご覧になれます

重点区域No.22 (22-C)

凡例を見る
地域選択画面に戻る
詳細図選択画面に戻る

緑色の番号・枠をクリックすると航空写真が閲覧可能

当該地域の代表的な景観を示す航空写真

図 5-1 「対馬市海岸台帳」のパソコン用地図閲覧ファイルのイメージ

《表から確認》無料ソフト Adobe Acrobat Reader にて閲覧可能

- ・重点区域（海岸漂着物対策を重点的に推進する区域）の番号・ブロック名
- ・アクセスの難易
- ・航空写真番号(2013年10月撮影)
- ・漂着ごみ関連評価：アクセス性、視認性、漂着量、作業性の視点からの評価
- ・長崎県の海岸評価点（「五島・壱岐・対馬沿岸海岸保全基本計画」（平成16年3月））
- ・総合評価：漂着ごみ関連評価と長崎県の海岸評価の合計点
- ・概略海岸性状：作業できる海岸の長さ、奥行き、海岸基質（別途、基質番号の説明あり）
- ・付帯設備：駐車スペースでの概算駐車台数、トイレの有無
- ・仮置き場の候補地名

表 5-1 対馬市海岸台帳のうち、重点区域の海岸データ

重点区域No.		1	海岸延長(km)		42	ブロック名称		鰐場(2)、落手井戸、深浦、鰐ノ浦漁港、豊漁港、泉漁港		留意事項									
県総合評価点		○		8															
小区分No.	詳細図No.	アクセス難易	写真No.	地区名等	漂着ごみ関連評価				長崎県海岸評価	総合評価	海岸管理者	概略海岸性状			付帯設備	仮置き場候補	備考		
					アクセス性	視認性	漂着量	作業性	評点			長さ(m)	奥行(m)	基質	駐車場	トイレ			
1-1	1-B	容易(搬出難)	2118.2119	上対馬町鰐浦地先①(鰐崎)	●	△	◎	○	19	8	27	-	270	5-20	2010.6010	30<	-	鰐浦漁港	港から徒歩。満潮時は入り口付近(アクセス容易)のみ可
1-2	1-B	易	2101	上対馬町鰐浦地先②(落土)	○	○	◎	◎	28	8	36	-	70	10-15	5010.6010	5	-	鰐浦漁港 or 豊漁港	港の道路から徒歩。満潮時は一部海岸のみ可
1-3	1-B	容易	2086	上対馬町豊地先①	◎	○	○	◎	30	8	38	-	130	10-20	3010.4010	10-20	-	海水浴場(豊地先 or 豊漁港)	豊海水浴場
1-4	1-B	容易(搬出難)	2069	上対馬町豊地先小島②(豊漁港)	●	△	◎	△	18	8	26	(市)	100	5-10	2010	10<	-	豊漁港	種干場から徒歩。満潮時は入り口付近(アクセス容易)のみ可
1-5	1-B	容易(搬出難)	2064.2065	上対馬町豊地先③(豊漁港)	●	○	△	○	16	8	24	(市)	170	5-10	2010	30<	-	豊漁港	港の埋立地から徒歩。満潮時は入り口付近(アクセス容易)のみ可
1-6	1-C・D	容易	1995	上対馬町泉地先①(泉漁港)	◎	◎	△	○	29	8	37	(県)	100	2-10	5010.6010	30<	-	泉漁港 or 隣接地	道路脇空き地に隣接
1-7	1-D	容易	1984	上対馬町泉地先②	◎	◎	◎	○	35	8	43	(県)	120	5	5010	5	-	泉漁港	道路沿いの短く狭い浜。満潮時の作業は避ける

凡例：「アクセスの難易」に関する区分

- 海岸付近30m付近まで2tトラックがアクセスでき、回収・搬出が容易な海岸。「アクセス性」では「◎」で表記している。
 - 海岸付近30m付近まで軽トラックがアクセスでき、回収・搬出が比較的容易な海岸。「アクセス性」では「○」で表記している。
 - (着色なし) 徒歩でアクセスできる海岸で、回収はできるものの、人力での搬出が困難な海岸(船で搬出)。「アクセス性」では「△」で表記している。
- (上記以外の海岸は、満潮時に海岸が洗われてごみが溜まりにくい海岸、港湾等の人工構造物からなる海岸、あるいは船でしかアクセスできない海岸である。)

注：「重点区域No.」は、「長崎県海岸漂着物処理推進計画(略称：地域計画。平成22年10月、長崎県)の区分番号を示し、「海岸延長(km)」は同地域計画に示されている各重点区域の海岸延長を示す。「小区分No.」は、別途作成している「対馬市海岸台帳」において、各重点区域を幾つかのブロックに分けて図示している番号を示し、「詳細図No.」は「対馬市海岸台帳」に示す小区分No.の位置が示されている「詳細図」の番号を示す。「アクセス難易」は上記の色分け区分に応じたアクセスの難易度(容易、易、難)を、「写真No.」は「対馬市海岸台帳」で示す航空写真の番号を示す。「県総合評価点」および「長崎県評価」は、「五島・壱岐・対馬沿岸海岸保全基本計画～交流と漁火のしま～」(平成16年3月、長崎県以下「海岸保全計画」という)の中で示されている各重点海岸の評価点を示し、「ブロック名称」は同海岸保全計画の中で示されている名称を示す。

分類	内容	評価	評点	補正係数
アクセス性	海岸へのアクセス路の有無・大小等	◎：程度・度合いが良い・高い・多い	3点	5
視認性	人の視界への入り易さ	○：上記より程度・度合いが低い	2点	3
漂着量	漂着量の多寡	△：程度・度合いが悪い・低い・少ない	1点	3
作業性	海岸地形による作業の安全性	●：アクセスは良いが、搬出に難が	1点	3

「評点」の計算方法：Σ(アクセス性×5+視認性×3+漂着量×3+作業性×1)

アクセス評価に関する留意点：

「●」はアクセスは比較的容易なもの、道路から海岸の高低差等により、回収漂着ごみの搬出が人力では困難で、ユニック車等が必要な海岸、あるいは作業に当たり事前に許可が必要な海岸を示す。

「総合評価」は、「漂着ごみ関連評価」の評点と「長崎県海岸評価」の合計点を示す。

「概略海岸性状」および「付帯設備」については、一部は現地踏査結果を、他は航空機による空撮写真および国土地理院の2.5万の一地図を基に推定・記載している。

「概略海岸性状」のうちの「基質」は、米国NOAAのESI map および地方独立行政法人北海道立総合研究機構 地質研究所の「北海道海岸環境情報図」に準拠して設定した(区分の詳細については別紙参照)。

ESI map: <http://response.restoration.noaa.gov/esi>、北海道立総合研究機構地質研究所の「北海道海岸環境情報図」: <http://www.gsh.pref.hokkaido.jp/download/shore/index.html>

「海岸管理者」の「-」は管理者が明確ではない「その他の海岸」を、「市」は対馬市(窓口は農林水産課)が、「県」は長崎県対馬振興局の関係部署(窓口は建設部管理課)を示す。このうち、長崎県対馬振興局農林水産部農林整備課所管の海岸を「県農」、同建設部管理課所管の海岸を「県建」と表記している。このうち、海水浴場については、県管理の海岸であっても清掃は市が実施しているため、「市農」として示している。また、「()」は、海岸管理者が直接管理する海岸ではないものの、当該海岸がその漁港範囲にあり、当該管理者の管理下にあることを示す。

「仮置き場候補」のうち、アンダーラインは県管理の港を、それ以外は市管理の港を示す。

- ・「対馬市海岸台帳」が閲覧できる「美しい対馬の海ネットワーク」事務局の URL: <http://conosole.jp/>
- ・「美しい対馬の海ネットワーク」の Facebook :

<https://www.facebook.com/tsushimanouminetwork?fref=ts>

② 海岸の下見をしよう

いくつかの清掃対象海岸の候補を選定した後に、実際に必ず候補海岸の下見を行きましょう。その際には、海岸へのアクセス路や足場の状況、ごみの漂着状況、満潮時の水位と海岸での移動や作業の可能性、回収したごみの搬出方法・仮置き場などを確認しましょう。

アクセスの善し悪しや海岸の性状(岩礁、転石、砂浜など)は、海岸清掃活動の安全性や作業性に影響します。海岸清掃活動の企画・実施に慣れていないうちは、想定される参加者の年齢層や参

加経験も考慮して、小学生や年配者でも安全に行けるアクセスの良い海岸を選び、岩浜や岩場のよう
に足場が不安定で滑りやすい海岸は避けて比較的足場の良い海岸を選びましょう。また、漂着ご
みが大量にある海岸や、人力で回収できない重量のあるごみが多い海岸なども避けましょう（この
ような海岸での清掃活動は、ある程度海岸漂着ごみの回収作業に慣れてから、企画・実施を検討し
ましょう）。

加えて、回収したごみを仮置き場に搬出する方法（例：一人や複数人で運ぶ、バケツリレー方式
で運ぶなど）や、仮置き場での保管方法も検討しておきましょう。

なお、漂着ごみの量は波や風の影響を受けて変化するため、開催日が近づいたら再度確認する必
要があります。その結果、以前よりもごみの量が大量に増えたり、逆に極めて少なくなってしまう
場合は、清掃範囲や方法を変更する、あるいは、清掃する海岸を変更するなどの措置を検討する
のが良いでしょう。また、最終的な海岸の下見の際に、割れたガラスや火薬の入っている信号灯な
どの危険物を回収しておく、海岸清掃当日の危険を減らすことができます（ただし、見落としも
あるので、事前に回収した危険物を見本として保管し、開会式の説明の際に例示すると良いでしょう
）。



図 5-2 海岸へのアクセスが困難な例



左：岩盤（上県町伊奈） 中：消波ブロック（上県町越高漁港） 右：大きな転石（上県町棹崎）

図 5-3 足場が不安定な海岸の例

● ごみの仮置き場を確認しよう

仮置き場としては、対馬市が管理する漁港内の空き地が適しています。清掃する海岸付近の漁港を調べ、その一部を仮置き場として借りる場合は「美しい対馬の海ネットワーク」と必ず調整しましょう（同ネットワークは、対馬市市民生活部環境政策課を通じて仮置き場候補地を把握しており、使用許可に関する区長の同意取得などの手続きも行います）。また、仮置き場に移動させたごみが直ちに収集・運搬されるとは限りません。仮置き場候補地内では、数日置いたままとなっても問題のない場所を選び、また台風などの強い風でも飛ばないように工夫・対策も考えておきましょう。加えて、地域とのトラブルを避けるため、清掃する海岸付近の区長や漁業協同組合（以下、「漁協」といいます）関係者にも、仮置き場として利用する旨を連絡しておきましょう。下見の際に確認するポイントを下記にまとめて整理します。

★ 確認すること

- ・海岸から人力でごみを移動できる場所か（距離、アクセス路の状況）
- ・回収した全てのごみを置くことができるか
- ・運搬車両が入って作業するスペースがあるか
- ・仮置き後に近隣に迷惑をかけないか
- ・ごみが散乱しにくい環境か（風や波の影響を受けにくい）



左：ボランティア用ごみ袋での分別

中：看板を付けてロープで固定

右：風を避ける場所に仮置く

図 5-4 仮置き場の例

● 駐車スペースを確認しよう

集合場所付近に、参加者の駐車スペースを確保する必要があります。想定される参加人数を基に、余裕を持ったスペースを確保しましょう。これについても、必要に応じて、「美しい対馬の海ネットワーク」に問い合わせをしましょう。また、どの場所を駐車場として借りるにしても、区長、漁協関係者と必ず調整しましょう。



棹崎公園の例



道路脇のスペースの利用例

上対馬町五根緒

図 5-5 駐車スペースの例

● 受付や開（閉）会式の場所を確認しよう

海岸は風が強いことが多く、物が飛びやすく、説明が聞こえにくい場合があるので、受付場所は名簿記入や用具・備品の配布、活動の説明が落ち着いてできる場所を選びましょう。また、漁港の空き地を借りる場合は「美しい対馬の海ネットワーク」や区長・漁協関係者に、私有地の空き地を借りる場合は区長を通じて必ず所有者に、それぞれ連絡を取り、調整しましょう。



図 5-6 受付と開・閉会式会場の様子

● 休憩場所を確認しよう

海岸清掃活動中は、疲労防止や集中力の維持のため、適宜休憩を取りましょう。

休憩場所は海岸から近く、直射日光あるいは強い風を避けることのできる施設・場所や木陰が適しています。条件にあう場所が近くにない場合は、テントを張る場所を確認し、私有地を借りる場合は区長と調整しましょう（テントは対馬市の出先機関が保有している場合があり、問い合わせしましょう）。また、テントが風で飛ばされないような工夫も考えておきましょう。



図 5-7 日陰を休憩場所として使用した例

● トイレを確認しよう

海岸付近にトイレがあるか、確認しておきましょう。集会場など、付近の施設でトイレを借りる場合や、夏季以外は閉鎖されているトイレもあるため、区長や漁協関係者と調整が必要です。

なお、付近にトイレがない場合は、仮設トイレや簡易トイレの用意も検討しましょう。

【参考：仮設トイレのレンタル先】（対馬市のリース・レンタルに関わるタウンページより）

レンタル先	所在地	電話番号
(株) 対馬機工本社	巖原町中村	0920-52-6694
(株) 南陽レンテック対馬営業所	巖原町南室	0920-52-4174
(株) 森谷商会 対馬支店	巖原町小浦、上対馬町大浦	0920-52-0879、86-3993
(株) ワタノ対馬営業所	美津島町鶏知	0920-54-3670

【参考：簡易トイレの例】



折りたたみ式のテント、ポータブル便座、凝固剤・袋を含め、インターネットなどを通じて購入可能。

例：http://item.rakuten.co.jp/matsucame/tsu2038/?scid=af_pc_etc&sc2id=67889001

（「美しい対馬の海ネットワーク」が左記簡易トイレを2台保有していますので、必要な場合は相談しましょう。）

● 病院・診療所を確認しよう

最寄りの病院や診療所について、連絡先と場所を確認しておきましょう。大規模に開催する場合は、病院や診療所に予め活動計画を説明し、緊急時の対応を相談しておくとい良いでしょう。

【参考：対馬市の病院検索先の例】<http://byoinnavi.jp/nagasaki/tsushimashi>

● AED 設置場所も確認しよう

万が一に備え、最寄りのAED設置場所を確認しておきましょう。

AEDは主に消防・海上保安部関係施設や医療施設、県・市の出先機関、介護福祉施設、公共交通機関、学校・保育施設、文化娯楽施設（図書館等）、宿泊施設などに設置されています（次図参照）。その使い方や設置場所は対馬市のホームページに掲載されていますので、事前に確認しましょう。

なお、海岸清掃活動を行う海岸付近にAED設置施設がない場合は、短期間のレンタル利用（有料）も検討しましょう。

【AEDのレンタル先の例】救命コム <http://www.kyumei.com/>

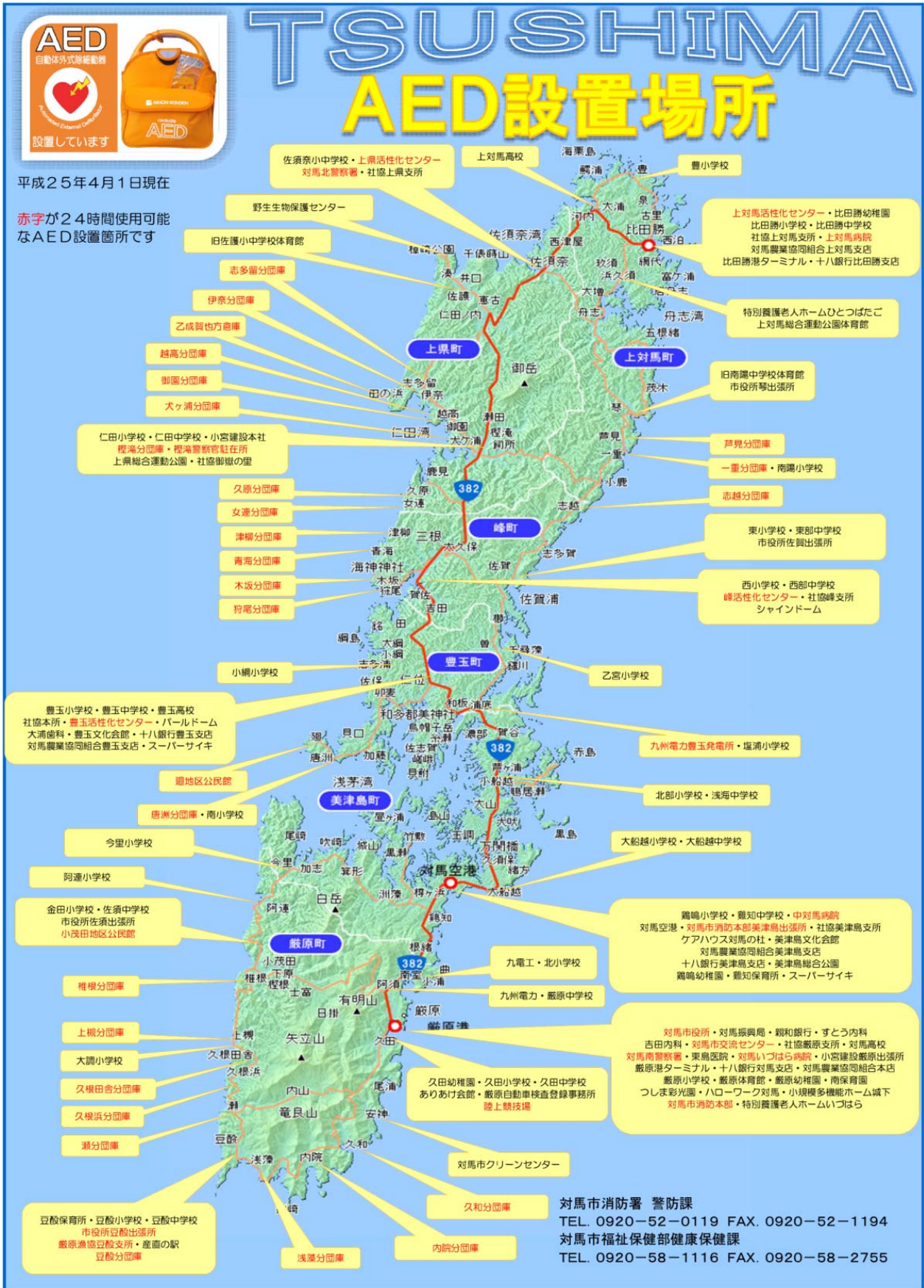


図 5-8 対馬市のAED設置場所一覧

対馬市のホームページより：

http://www.city.tsushima.nagasaki.jp/web/images/AED_installed_map.pdf

③ 漂着ごみの量を把握しよう

清掃対象海岸の下見の際には、漂着ごみの量や質（組成）を概略把握します。これを基に、回収に必要な袋（容量1m³のフレコンバッグや、容量20ℓ程度のビニール袋など）の数を推計し、「美しい対馬の海ネットワーク」あるいは対馬市環境政策課にその数量を申請します。

漂着ごみ量の推計に当たっては、個々のごみの容積の合計ではなく、ごみを袋に入れた場合のできる空間量も含めた「嵩（かさ）容量」（以下、「かさ容量」といいます）として推計する必要があります。

● 漂着ごみが不均一に分布していると想定した場合の推計方法

対馬市の海岸の場合、漂着ごみが海岸全体に均一に分布していることは少なく、下図のように不均一に分布していることがほとんどです。以下に、漂着ごみの量を概略的に推計する方法を示します。

清掃対象とする海岸において、ごみが高密度、中密度、低密度の3箇所幅10mの回収枠（ビニールヒモやロープなどで一時的に作成する枠）を設定します。回収枠内のごみ量（かさ容量）を目視にて推計し、3箇所の平均値を対象海岸の延長で引き延ばします（図5-9参照）。

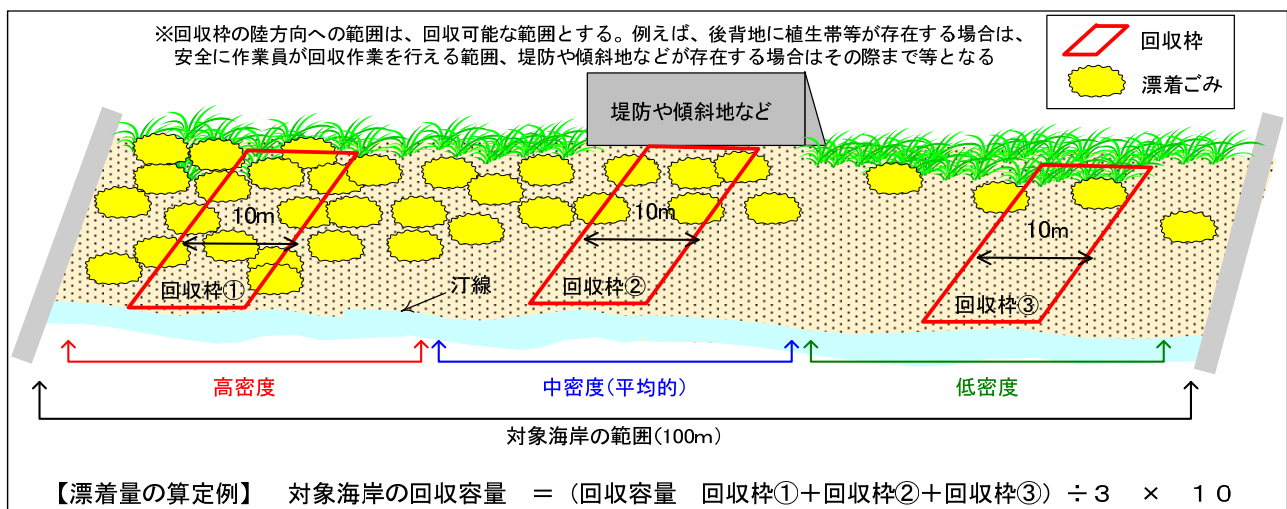


図 5-9 幅 10m の回収枠による漂着量の把握方法の模式図

● 上記回収枠内のごみ量の推計方法

海岸に分布する漂着ごみ量を、ビニール袋の容量（例：20ℓ、45ℓ、90ℓなど）、自立式万能袋の容量（例：200ℓ、250ℓなど）、あるいはフレコンバッグの容量（1m³）およびそれらの袋数に換算してごみ量を推計します。

この場合、実際に上記10m回収枠内の漂着ごみをこれら容器に詰め、それをブルーシートなどの上に広げて、具体的な量を把握する、などの練習をしておく効果的です。この練習を通じて、漂着ごみ量の推計に慣れてくれば、実際に袋に漂着ごみを詰めなくても、ある程度の精度で、より短い時間で、目視により漂着ごみ量（かさ容量）を推計できるようになります。

例えば、図5-10に示すように、1m³容量のフレコンバッグに漂着ごみを一杯に詰め、そのごみをシート上に開け、個々のごみの容量とは異なる推定「かさ容量」の把握感覚を養う、という具合です。また、このシートに開けたごみの量の半分（500ℓ）などの分割例も確認してみる、なども良い練習となります。

また、対馬市の海岸で良く見られるポリタンクの容量（図5-10(1)の左側写真の右下部分参照）が20ℓであることから、これが5個であれば100ℓ、10個あれば200ℓ、50個で1m³となるため、これを一つの目安とすることができます。

ただし、ポリタンクだけの容量推計ならばこの方法でも良いのですが、漂着ごみにはいろいろな形・種類のものがあり、フレコンバッグやビニール袋などの回収容器にさまざまなごみを投入した場合、前述のように、どうしてもごみ同士の間あるいはごみと袋の間に空間ができてしまいます。

実際に個々のごみの容量を足し併せてごみ量として推計し、それらごみを所定の容量の袋に詰めても入りきれないことが多々あります。そのため、ごみを袋に入れた容量として推計する場合は、これら空間も含めた「かさ容量」として把握する必要があります。なお、これまでの経験値から、個々のごみ容量の合計よりも2割り増し程度が「かさ容量」に相当すると考えられます（環境省の平成19・20年度の調査結果では、フレコンバッグの収容率は実質83%程度でした）。



フレコンバッグ約 1m^3 (右側青タンクは20 $\%$)



左写真のフレコンバッグ内に詰めた約 1m^3 のごみ

図 5-10 (1) 漂着ごみのかさ容量把握の目安 (1m^3 の例)



左： 1m^3 のごみ



右：左側のほぼ半分の500 $\%$ のごみ

図 5-10 (2) 漂着ごみのかさ容量把握の目安 (1m^3 と500 $\%$ の例)

このほか、漂着量が少ない場合には、ビニール袋で回収することがあります。ビニール袋は、表示容量の7割程度しかごみが入らないため、空気でふくらませて、漂着ごみ付近に置き、それを目安に回収範囲内のごみが何個分のビニール袋に相当するかを目視で推計し、袋の容量 $\times 0.7 \times$ 個数で概算把握する、などの方法があります。この場合でも、ビニール袋間の空間が想定されるため、ごみ量の推計に多少の誤差は出てきます。

加えて、漂着ごみ量を推計した日から実際に回収・搬出する日まで日数がある場合は、低気圧の接近などによる時化によって、漂着ごみ量が増加あるいは減少したりします。

そのため、海岸清掃事業の対象とする海岸において、漂着ごみ量を正確無比に量ることは困難であり、ある程度の分布量が把握できれば良い、と考えた方が無難です。

ただし、下見の時から海岸清掃実施日までの日数が大分あり、台風などの時化により、漂着ごみ量が大幅に変化する場合があります。そのため、海岸清掃実施予定日の一週間位前に、もう一度漂着ごみ量を概略把握し、回収に必要な袋数を検討します。

なお、海岸清掃に必要な袋数については、漂着ごみ量が多い場合には上記で見積もった数量より3割ほど多めに申請します。これは、ごみの下から更にごみが出てくる場合が多くあり、見積もった数量の袋数では予定していたごみの回収ができない場合があるからです。

フレコンバッグやビニール袋の多くは、10袋単位の束や袋詰めとなっているため、3割り増しの端数が出る場合は切り上げて10区切りで必要数を申請しましょう。仮に、清掃活動終了後に袋が余っても、「美しい対馬の海ネットワーク」や対馬市環境政策課に返却すれば良いので、遠慮せずに見積もった数量を申請しましょう。

参考までに、10m四方の枠内にある漂着ごみ堆積状況の外観と、実測した容積の比較した例を図5-11に示します。



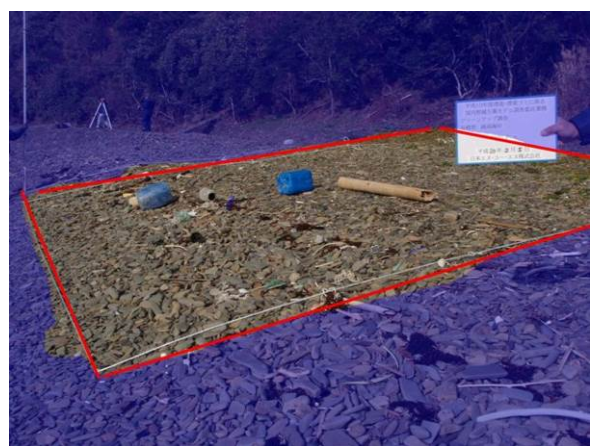
フレコンバッグで1袋程度（実測1,200㍑）
（海側のかんりの部分の地表面は見えるが、陸側の地表面は漂着ごみによって見えない状況にある。また、流木やプラスチックケースなど大型の漂着ごみがある。）



フレコンバッグで1/2袋程度（同490㍑）
（海側のかんりの部分の地表面は見えるが、陸側の地表面は漂着ごみによって見えない状況にある。また、流木やプラスチックケースなど大型の漂着ごみがあるが、左側の写真の状況ほどごみの厚さはない。）



フレコンバッグで1/4袋程度（同約260㍑）
（海側のかんりの部分の地表面は見える。陸側の地表面も漂着ごみが散在していて比較的見える状況にある。また、ペットボトルなどを主体とした小型の漂着ごみが多い。）



フレコンバッグで1/6袋程度（同約170㍑）
（調査枠内に漂着ごみが散在している状況である。）

※赤枠は一辺が10mの正方形（面積：100㎡）。
（環境省海岸清掃事業マニュアルより引用（一部加筆））

図 5-11 漂着ごみの堆積状況の外観と実測した容積の比較：上県町越高海岸

(2) 関係者と調整し協力を得よう

海岸によっては、その海岸が属する地区において、区の活動として海岸清掃を実施している場合もあり、海岸清掃活動の重複を避けるために、事前に挨拶かたがた、区長に海岸清掃の実施予定の有無や実施日を確認しておくとい良いでしょう。

また、対馬市では、国の補助金などによって地域の漁協あるいは土木業者等の民間業者に回収事業を委託することがあるため、事前に清掃活動の候補として選定した海岸について、海岸清掃活動が可能かどうかを「美しい対馬の海ネットワーク」あるいは対馬市市民生活部環境政策課に確認しておくとい良いでしょう。

● 「美しい対馬の海ネットワーク」や行政に相談・確認しよう

海岸清掃活動の準備段階でわからないことがある場合や、ボランティア支援の有無や支援内容（手袋・ごみ袋の支給、用具レンタル、広報など）・回収したごみの分別方法などについては、「美しい対馬の海ネットワーク」あるいは対馬市市民生活部環境政策課に相談・確認しておきましょう。

なお、「美しい対馬の海ネットワーク」では、海岸漂着ごみ問題に関する啓発・普及用資料を作成しています。子どもたちの参加が多い海岸清掃活動時には、これら資料を用いて簡単な勉強会を行うなども今後の対馬市の海岸漂着物対策に有効です。場合によっては、「美しい対馬の海ネットワーク」に講師派遣の依頼をして、海岸漂着ごみ問題を説明してもらってもい良いでしょう。

➤ 伝えること

- ・開催場所、日時、参加人数、団体名、代表者名、連絡先

➤ 把握すること

- ・「美しい対馬の海ネットワーク」および対馬市市民生活部環境政策課の連絡先（前者：0920-52-7135、後者：0920-53-6111）・担当者氏名
- ・海岸清掃活動への支援の有無：手袋・ごみ袋支給、用具レンタル、広報など
- ・回収したごみの分別方法、仮置き方法（場所など）
- ・地域関係者（区長、漁協など）

ちゃんと確認しよう！



● 対馬市の出先機関や区長に相談し協力をお願いしよう

清掃対象として選定した海岸が位置する行政機関（庁舎、行政サービスセンター）や区長に海岸清掃活動計画を説明し、活動への理解を得た上で、活動時への協力（テントの借用、仮置き場、駐車場、トイレの利用など）をお願いするほか、地域情報や注意事項などを聞きましょう。また、地域から海岸清掃活動への参加者を募る場合や、それに関する広報への支援をお願いする場合は、行政機関や区長に協力を依頼しましょう。

● 地権者に協力をお願いしよう

参加者の駐車スペースや回収したごみの仮置き場としては、対馬市が管理する漁港や土地が候補となりますが、私有地を一定期間借りる場合も考えられます。

対馬市が管理する漁港などを利用したい場合は、「美しい対馬の海ネットワーク」に連絡し、場所を確認しましょう。漂着ごみ量が多い場合は、回収後のごみの詰め替えや保管のために広いスペースが必要な場合もあるので、海岸ばかりではなく、仮置き場についても事前に下見をしておきましょう。

私有地を借用する場合は、区長を通じて地権者を教えていただき、地権者に海岸清掃活動計画を説明して、借用日時や場所、範囲を明確に伝えましょう。説明の際に地図を利用すると、より正確な情報交換となります。

5.1.2 開催規模、実施日時(延期日時)を決めよう

● 開催規模・内容を考えよう

実際に海岸清掃活動を計画する時に、下見の際の漂着ごみの状況(種類・量、重量物の有無など)や想定参加人数、参加者の年齢層や熟練度に応じて、参加者が「楽しく、安全に」、無理なく、ごみを回収できる活動内容・規模に調整することが理想的です。

以下に、漂着ごみの量に応じた活動内容の調整例を示します。

・ 漂着ごみが多い

⇒ 活動範囲を限定する(狭くする)

⇒ 回収するごみの種類を限定する

例: 大きなごみだけ回収する、プラスチック類限定で回収する など

・ 漂着ごみが少ない

⇒ 回収作業に多くの時間を割かず、漂着ごみの学習時間などに当てる

例: 分別せずに集めたごみを皆で再分類し、漂着ごみ問題を学ぶ場とする

参加者が気になったごみについて、その本来の使用方法や生産国の推定を行う など

⇒ 関連イベントを行う

例: 漂着ごみの勉強会(資料は「美しい対馬の海ネットワーク」が作成しています)、国際海岸クリーンアップ(ICC)*や環日本海環境協力センター**の方法に沿った調査を行う など

*: アメリカの環境NGO オーシャン・コンサーバンシーが提案する世界共通の手法(ICC)による漂着ごみの調査。データ様式は後述。

** : <http://www.npec.or.jp/unigomportal/about/outline/outline.html>

⇒ 直前の下見でごみが少なすぎる場合は別の海岸での実施も検討する

工夫しよう!



また、子どもが一定の割合で参加する場合は、大人と一緒に活動できるような企画も考えておきましょう。

例: 活動範囲を区切り、キッズエリアをつくる(安全で移動距離が少ない場所)



左: ごみが多い海岸(美津島町尾崎)



右: ごみが少ない海岸(厳原町尾浦)

図 5-12 海岸に漂着したごみの量の違いの例

● 日程を決めよう

・ 季節

対馬では、冬季は北西風が強く、寒さで体も動きにくくなるため、海岸清掃活動は避けた方が無難です。春から梅雨に入る前まで、あるいは夏の終わりから秋終盤にかけては、台風時を除き、適

度な気温や厳しくない天候となるため、海岸清掃活動を行うのに良い季節になります。ただし、梅雨の時期は雨で海岸の岩が滑りやすく、カッパを着ると動きにくくなるので、比較的動きやすい気温である梅雨前や梅雨明け後、あるいは秋が海岸清掃活動を行うのに適しています。一方、気温の高い真夏は熱中症の危険があるため、この時期に海岸清掃活動を行う時は十分な配慮が必要です。

なお、対馬の西側の海岸では、冬季の季節風が治まる春季に、その季節風で漂着したごみを片付ける海岸清掃活動を行うことにより、台風シーズンまでの期間はある程度きれいな海岸の状態を保持されることが調査より判っています（平成19・20年度環境省モデル調査結果）。

・日にち

海岸清掃活動実施日を決めるに当たり、その地域の行事に関する情報も考慮しましょう。次表のような対馬市の行事あるいは草刈りなどの各地区の行事と、海岸清掃活動実施日が重なると、行事の障害となったり、地域からの参加者が集まらない可能性があるため、事前に清掃しようと考えている海岸付近の区長に予定を聞いて対応しましょう。逆に、このような行事と併せて海岸清掃を実施することで地域との連携を深められることも考えられますので、区長や各行事の責任者の方々と相談しても良いでしょう。

また、海岸清掃実施予定日に天候が悪く、作業を延期や中止する場合がありますので、事前に順延日を設定し、中止する場合も含めて、その予定を開催案内に書いておく良いでしょう。

表 5-2 対馬市の行事例

季節	2015年	行事	地区	備考
冬	2月21日	サンゾーロー祭	巖原	旧 1月3日
	2月28日	赤米頭受け神事	巖原	旧 1月10日
	3月15日	弓射り祭り（百手祭り）	美津島	旧 1月25日
	3月27・28日	小船越「百手祭り」	美津島	旧 2月8・9日
春	4月10日	千尋藻みなど祭り	豊玉	4月10日
	5月3日	島大国魂御子神社大祭	上対馬	5月3日
夏	6月21日	あじさい祭り	上県	
	7月5日	国境マラソン IN 対馬	上対馬	7月第1日曜日
	7月17日	やくま祭り（御前浜）	峰町	旧 6月初午の日
	7月24日	地藏盆	巖原	7月24日
	8月1・2日	巖原港祭り	巖原	8月第31土曜日
	8月18日	カンカン祭り（神功皇后伝承神事）	巖原	8月18日
	9月13日	和多都美神社古式大祭	豊玉	旧 8月1日
秋	9月27日	巖原八幡宮大祭	巖原	旧 8月15日
	10月18日	初午祭（馬跳ばせ）	上県	10月第3日曜日
	11月8日	小茂田浜神社大祭	巖原	11月第2日曜日

注：一般社団法人対馬観光物産協会ホームページより抜粋して作成。

<http://blog.tsushima-net.org/?eid=1278>

・時間

海岸清掃活動の時間を決めるのに気温がポイントになります。特に、夏季は気温が上がらない午前中が適しています（夕方での開催も考えられますが、事後作業を考えると避けた方が無難です）。活動時間は2時間以内、できれば1～1.5時間を目安にすると良いでしょう（開・閉会式を合わせて2時間程度）。活動時間が短いと活動に慣れはじめた頃に終了してしまい、あまりに活動時間が長すぎると集中力が途切れて思わぬ事故につながりかねません。特に、どんなに大量のゴミがあっ

でも時間を区切ることは重要です。また、最低でも1時間に1回、10分程度は休憩し、夏季の暑い時期に実施する場合は休憩の頻度をあげましょう。

・潮汐

海岸清掃日および時間を決める上で、海の潮位・潮汐を調べておくことも大事です。例えば、干潮時に歩いて渡れた岩場が満潮時には波をかぶって渡れなくなることもあります。

そのため、海岸清掃を実施しようとしている時期および地域の潮位・潮汐をあらかじめ調べ、できるだけ干潮時をはさんで作業を行えるように計画しましょう。

【潮汐の検索先の例】：気象庁（国土交通省）の潮位表（九州地方北部）

厳原、対馬（美津島町鶏知）、比田勝の潮位データの閲覧が可能

http://www.data.jma.go.jp/gmd/kaiyou/db/tide/suisan/s_kyushun.php

5.1.3 役割分担・スケジュールを決めよう

(1) 役割を決めよう

参加人数が10名程度の小規模な海岸清掃活動の場合は、複雑な役割分担は必要ありません。しかし、参加人数がある程度以上多くなると、最低限の役割分担を決めて活動すると効率的で安全な清掃活動につながります。

表 5-3 に、参加者 50 名程度を想定した海岸清掃活動での役割分担の例を整理しました。この場合、一人で複数の役割を兼ねることがありますが、余りにも多くの役割を一人で行うと無理が生じて活動に支障を来すことが考えられますので、複数人に分けて適切な役割分担となるように設定しましょう。

表 5-3 海岸清掃活動の役割分担例（参加者 50 名程度を想定した場合）

役割	当日までの準備	当日
リーダー	企画・全体の取りまとめ・確認・監督	
参加窓口係	参加者の連絡窓口・参加者名簿作成	受付
計画・進行係	スケジュール調整	進行
用具・備品係	用具・備品の発注・管理	用具・備品の配布および回収
地域調整係	漁協・区長、市・民間団体などとの調整（事前・事後）	
会場係	下見、駐車場・トイレの場所確認	会場設営・施設管理・会場案内
作業監督係	海岸での清掃活動時の安全管理・分別指導・ゴミ袋の配布・搬出指示	
記録係	撮影内容の確認	撮影の実施
危険物・切断係	医療系廃棄物の回収、流木・木材などの切断	
救護・避難係	怪我・急病・津波への対応策の検討	緊急時の救護・避難誘導
連絡通報係	緊急時の連絡網の検討	緊急時の関係者（病院等）への連絡
運搬係（必要時）	トラックの手配、運搬・受入方法の確認	安全に運搬
勉強会班	資料の準備、説明内容の確認	時間配分に応じた説明・解説

(2) スケジュールを決めよう

清掃活動を実施する海岸や日程は早めに決定して、計画的に準備を進めましょう。

次表にスケジュールの例を示します。

スケジュールの立案に当たっては、海岸清掃活動の実施日から逆算し、いつまでに、何をしなくてはならないかを検討し、余裕のある計画としましょう。そのため、慣れないうちは、準備期間と

して最低でも3ヶ月程度は見込んでおきましょう。また、大規模な海岸清掃活動の場合は、半年以上の準備期間があった方が良いでしょう。

表 5-4 海岸清掃活動のスケジュールの例

工 程		主催者の進め方
当日までの準備	1：〇日前	会場の下見・調整、海岸・日程・スケジュール決定、参加者募集
	2：〇日前	用具・備品準備、あいさつ、分別・安全対策確認
	3：〇日前	参加者認
	4：1週間～3日前	会場再確認（気象予報にて実施判断、連絡）、備品等の再確認
当日	8：00～8：30	実施判断、連絡
	8：30～9：00	現地集合、記録、準備
	9：00～9：30	受付（用具・資料の配布）
	9：30～10：00	開会式（分別方法・危険物などの説明）
	10：00～11：10	活動（休憩含む）
	11：10～11：30	片付け、記録
	11：30～11：50	閉会式（報告、啓発普及資料の説明や勉強会）
	11：50～12：00	片付け、解散



5.1.4 参加申込書の作成と参加受けをしよう

(1) 募集案内を作ろう

清掃する海岸や日程などを決めたら、参加者を募集しましょう。

まずは、周囲の仲間と小規模（2～5人）に活動をはじめると良いでしょう。子どもが参加する場合は、大人と一緒に活動できるような活動内容にします。参加者を増やす場合は、海岸清掃活動の企画・実行に慣れてから、周囲に声をかけて行くと良いでしょう。

なお、会場への移動については、駐車場の余裕や二酸化炭素（CO₂）の削減を考慮して、できるだけ知合いの自家用車の乗り合いをしてもらいましょう。

海岸清掃活動の開催・実施に慣れてきたら、徐々に大人数での開催も検討・実施しましょう。その場合は、募集案内を作成しましょう。募集案内には、主催者が当日に中止・順延した場合や、作業中の事故時などの連絡のために、参加希望者の緊急時の連絡先も可能な限り記入してもらいましょう。また、記入された個人情報、主催者がきちんと管理しましょう。

● 募集案内に記載すること

募集案内への記載内容については、次のような内容が考えられます。

また、対馬市で実際に開催されている海岸清掃活動に関する事例を図 5-13 に示しますので、参考としてください。

表 5-5 海岸清掃活動の募集案内に記載する内容の例

表 面	裏 面
<ul style="list-style-type: none"> ・開催日時 ・場所：集合場所、駐車場の位置、活動場所の海岸名、地図、移動方法 ・活動内容（申込方法） ・服装や持ち物、注意事項、参加費の有無 ・主催者の連絡先 	<ul style="list-style-type: none"> （団体で参加する場合も考慮） ・参加者責任者の氏名、住所、連絡先（電話・FAX番号、メールアドレス） ・参加者の氏名、住所、性別、年齢、連絡先 ・参加イベント（清掃活動、勉強会など）

第2回

日韓海岸清掃フェスタ IN 対馬のご案内

主催：美しい対馬の海ネットワーク / ふるさと清掃運動会 / 対馬市



ごあいさつ

対馬市は大量の海岸漂着ゴミに悩まされています。昨年8月に開催した当イベントでは、従来の海岸清掃に止まらず、日韓の大学生を中心にゴミ削減啓発や再資源化等を共に考えるワークショップ及びシンポジウムを実施し、参加者の熱心な取り組みは多くのメディアに取り上げられました。また参加者には旅費・宿泊費等を自己負担いただいでボランティアの開拓も行い好評を得ました。裏面申込書にてご参加希望の方は1～5のどのイベントに参加するかを明示して申込み下さい。多数の参加をお待ちしております。

美しい対馬の海ネットワーク

代表 上野 芳喜

平成26年8月24日(日) 各イベント参加者募集

集合場所：対馬市豊玉町加志々（豊玉町漁協水崎支所先の空き地）

< 1. 海岸清掃 > 8:30 開会式 11:15 昼食(無料) 13:00 閉会式

集合場所：対馬市峰町三根（県立対馬青年の家）

< 2. ワークショップ >

15:15 開始（75分）
漂着ゴミ問題解決に向けて
回収作業の体験を踏まえて
少人数グループ毎に話し合う。

< 3. シンポジウム >

16:50 開会
17:00 現状と課題報告
17:20 ワークショップのまとめ発表
18:40 閉会

< 4. 夕食交流会 > 参加費3,000円

19:00～20:30 BBQ
20:30～21:00 片付け

< 5. キャンドルの集い >

一人一本キャンドルを持って
参加した感想を語り合う。

申込期限
7月31日
(木)

【お申し込み・お問い合わせ】美しい対馬の海ネットワーク事務局
TEL 0920-54-5454 (松村) Fax 0920-54-5018 E-mail: info@yankomo.com



「日韓海岸清掃フェスタ」のFacebook ページを立ち上げました!

「いいね!」を押すと、Facebook 友達にもお知らせできます。

イベントの周知にご協力をお願いいたします。

<https://www.facebook.com/jkbcuf?ref=j>

会場の地図があると更に良いでしょう

図 5-13 (1) 海岸清掃活動の参加者募集案内の例*

*: 「美しい対馬の海ネットワーク」の Facebook より

<https://www.facebook.com/jkbcuf/photos/pcb.1492914750925265/1492914560925284/?type=1&theater>

第2回 日韓海岸清掃フェスタ IN 対馬

各イベント参加申込書 FAX 0920-54-5018

美しい対馬の海ネットワーク事務局

〈個人参加者・団体代表者記入欄〉

お名前 :	
ご住所 :	
連絡先 TEL :	
メールアドレス :	
F A X :	
参加イベント (□に✓チェックを入れる)	
<input type="checkbox"/> 1. 8:30~13:00 海岸清掃	<input type="checkbox"/> 4. 19:00~20:30 夕食交流会
<input type="checkbox"/> 2. 15:15~16:30 ワークショップ	<input type="checkbox"/> 5. キャンドルの集い
<input type="checkbox"/> 3. 16:50~18:40 シンポジウム	<input type="checkbox"/> 6. 宿泊

 団体参加者用記入欄

会社・団体又は学校名 []

No.	氏名	性別	参加イベント (✓チェックを入れる)					
			1	2	3	4	5	6
1		男・女						
2		男・女						
3		男・女						
4		男・女						
5		男・女						
6		男・女						
7		男・女						
8		男・女						
9		男・女						
10		男・女						
11		男・女						
12		男・女						

図 5-13 (2) 海岸清掃活動の参加者募集案内の例 (裏面)

(2) 募集媒体を決めよう

少人数で海岸清掃活動を行う場合は、主催者および関係者の口コミで、友人、関係団体などに声を掛けるなどにより、参加者を集めましょう（表 5-6 参照）。

比較的規模の大きい海岸清掃活動を行う場合の参加者の募集案内については、「美しい対馬の海ネットワーク」や海岸清掃活動を実施している NPO 法人（P. 18：表 4-1 参照）のホームページや Facebook への掲載依頼、対馬市の庁舎・行政サービスセンターや公的機関（学校、教育委員会・教育事務所・生涯学習センター、保健所、海上保安部、地元警察など）の掲示板への掲載依頼のほか、区長へのビラ・冊子の回覧依頼などを通じて、広く周知するのが良いでしょう。

募集媒体には無料や有料、情報の伝わり方に違いがあります。活動目的や内容にあったものを選択しましょう。例えば、対馬には「対馬 CATV」という対馬独自の放送があり、有料で広告を流すこともできますが、動画か制止画か、または放映時間や期間によって料金が変わって来ます。

表 5-6 募集媒体別の長・短所

費用	媒体	長所	短所	備考
無料	口コミ	・親しい人から始めることができる	・参加者が限られる	・参加人数を把握しやすい
	HP ブログ Facebook Twitter	・全国的に伝わる	・インターネット利用可能な人に限定される ・興味のある人に限定される	・地域ネットワークの活用
	市の広報 回覧板	・地域に伝わる	・地域が限定される	・市の協力が必要 ・地域の協力が必要
	地区ネットワーク（防災無線通信など）	・興味のない人にも伝わる		・市や地域の協力が必要（電話の場合は費用の負担がある）
有料	電話・メール（過去の参加者名簿利用）	・興味と経験のある人に伝わる	・新規参加者が増えにくい	・名簿が必要 ・通信費の負担がある
	新聞	・広域に伝わる ・興味のない人にも伝わる	・非常に費用がかかる	
	ポスター		・貼る場所で見える人が限定される	・貼る場所が必要
	チラシ		・ポイ捨てされやすい	・置く場所が必要
	対馬 CATV		・テレビを見ない人には伝わらない	・放映期間と映像秒数の検討が必要

5.1.5 用具・備品を準備しよう

用具・備品は次表を参考にして、参加人数に応じた数量を準備しましょう。このうち、対馬市から供与されるごみ袋については、「美しい対馬の海ネットワーク」の事務局を通じて必要枚数を申請し、指定場所で受け取りましょう。また、指定場所での受け取りが難しい場合は、その方法も相談しましょう。

表 5-7 準備する用具・備品例

	品 目	備 考
主催者がなるべく準備したいもの	手袋（軍手）	<ul style="list-style-type: none"> ・軍手が安価。手の平側がゴムコーティングされた手袋が便利 ・市から支給される場合がある
	ごみ袋	<ul style="list-style-type: none"> ・45L は一人で持ち運びできる ・90L は軽いごみ（ペットボトルや発泡スチロールなど）専用とする ・ボランティア清掃の場合、申請すれば市から支給される ・土嚢袋は比較的破れにくいので、ビン・缶類等を集めるのに便利
	フレキシブルコンテナ（略称：フレコンバッグ、トン袋（容量 1 m ³ ））	<ul style="list-style-type: none"> ・回収したごみを分別した後に、仮置き場で一時保管し、運搬・処理しやすくできる ・発泡スチロールブイなどの軽いごみを集める際には、直接海岸に持って行って回収・搬出する使用方法もある ・市から支給される場合もある
	飲み物	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季は脱水症や熱中症予防のため、十分な量を準備する
	密閉式ビニール袋	<ul style="list-style-type: none"> ・ライター、医療系廃棄物、廃油ボールなどの要分別ごみを入れる
	救急セット	<ul style="list-style-type: none"> ・傷口を洗うきれいな水、ウェットティッシュ、絆創膏など
	携帯電話など	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時に関係者と連絡をとる ・主催者が緊急情報を入手する（※海岸で使用できるか要確認）
	筆記用具・カメラ	<ul style="list-style-type: none"> ・受付用、記録用
	帽子やTシャツなど	<ul style="list-style-type: none"> ・目立つ色の物を着用することで参加者に主催者と判ってもらえ、質問も受けやすくなる
あると便利なもの	ラジオ	<ul style="list-style-type: none"> ・主催者が緊急情報を入手する（※携帯電話でも情報入手可能）
	自立式の万能袋	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみをまとめて運ぶことができる（次表の中程を参照。200 ㍓程度）
	トング（ごみばさみ）	<ul style="list-style-type: none"> ・手で回収しにくい場合に使用する
	鎌・ナイフ	<ul style="list-style-type: none"> ・絡まったごみを回収しやすくするため、切断処理する
	チェーンソー	<ul style="list-style-type: none"> ・流木等の木材類を切断するのに便利。ただし、慣れている人がいる場合のみ使用する（慣れていない人が使うと危険）。
	割り箸	<ul style="list-style-type: none"> ・廃油ボール回収時に使用する
	ブルーシート	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者の荷物置き場や休憩場所として使用する ・一斉に分別する際に、回収したごみを広げるのに便利
	のぼり旗	<ul style="list-style-type: none"> ・活動場所や駐車スペースの案内用
	旗ざお	<ul style="list-style-type: none"> ・危険なごみ発見場所の目印にできる
	トランシーバー	<ul style="list-style-type: none"> ・主催者が連絡を取り合うのに便利（※海岸で使用できるか要確認）
	拡声器	<ul style="list-style-type: none"> ・会場での説明に使用するほか、緊急時の広報にも使用できる
	テント	<ul style="list-style-type: none"> ・受付や休憩場所として活用できる（比較的大型のものは旧 6 町役場から借用できる可能性あり）
	はかり	<ul style="list-style-type: none"> ・海岸清掃活動の際に、漂着ごみの調査も行う場合は、バネばかりなどを用意しておく、回収記録の記載や事後報告に役立つ

【参考】海岸清掃活動の用具の例

回収用具等の種類	使用目的・方法等	必要数算出の目安
<p>45・90ℓのごみ袋</p> 	<p>片手で回収できるサイズのごみを回収するのに使用する。90ℓのタイプを使用した方が軽いごみを集めるのに効率上がる場合もある。袋の大きさや色で回収するごみの種類を分けても良い。市が支給する袋もある。</p>	<p>5枚/人/日</p>
<p>土のう袋</p> 	<p>上記ビニール袋より丈夫であるため、主にガラス類（破片、瓶）や電球・蛍光灯のほか、空き缶などの金属類の回収に使用する。</p>	<p>1枚/3人/日</p>
<p>自立式の万能袋</p> 	<p>プラスチック製の漁業用ブイや流木など、ビニール袋での回収に不向きな比較的大きなごみの回収に使用する。また、無作為にごみを回収し、後で分別する場合でもビニール袋を使用するよりも効率良く回収できる。収納容量の種類は多いが、<u>200ℓ程度のものが取り回しが良く、ごみを多く収納しても重くなり過ぎないため使いやすい。</u></p>	<p>0.5～1枚/人 ※消耗品ではなく、繰り返し使用できる</p>
<p>フレコンバッグ(トン袋) (容量:1m³)</p> 	<p>本来は回収・集積したごみを最後にまとめるために使用する。ただし、海岸に発泡スチロールやペットボトル等の重量の軽いごみが多く漂着している場合には、海岸でそのまま回収用を使用すると効率が良い。</p>	<p>漂着量 m³ × 枚 + 予備 (予想量の1.3倍程度)</p>
<p>密閉式ビニール袋</p> 	<p>ライター、医療系廃棄物、廃油ボールなど、海岸で分別しておきたい小型のごみの回収に使用する。これを下記クーラーボックスなどに入れて回収して行くと良い。</p>	<p>0.5枚/人/日</p>
<p>クーラーボックス、 メディカルペール</p> 	<p>クーラーボックスは注射器やバイアルなどの医療系廃棄物、薬品瓶などの危険物の回収に使用する。危険物は密閉式ビニール袋に入れた上でクーラーボックスに回収する。容積は120程度の小型のものが使いやすい。なお、メディカルペールは最終的に収集・運搬業者に回収物を引き渡すときに使用する(一度蓋するとはずせない構造になっている)。</p>	<p>危険物担当者数</p>
<p>買い物かご</p> 	<p>砂浜の回収作業において、小さなごみに付着した砂を落とす場合に有効である。</p>	<p>回収の役割分担にあわせ適宜。細かいごみが多い場合には多数用意する ※消耗品ではなく、繰り返し使用できる</p>
<p>漁網等の切断用具 (冷凍包丁等)</p> 	<p>冷凍食品用の包丁などは、波状の刃がついており、漁網やロープなどの切断に便利である。</p>	<p>漁網・ロープ類の切断担当者数</p>
<p>チェーンソー のこぎり</p> 	<p>流木や材木の切断に使用する。使い慣れた人に注意深く操作してもらうことが重要である。細い木を切断するには、折り畳み式の小型のこぎりも有効である。</p>	<p>流木切断担当者数</p>

5.1.6 漂着ごみの分類方法を確認しておこう

ボランティアが行う海岸清掃時に回収した漂着ごみの分類例は下表のとおりで、大きくは対馬島内で処理できるごみと島外で処理するごみに分けられます。ボランティア海岸清掃で回収したごみは、原則として対馬市が処理することとなっています。

このうち、対馬の漂着ごみについては、ピンク色で着色した廃プラスチック類、発泡スチロール類、木材・角材類の3分類群が漂着ゴミの大半を占めており、漁網・ロープ類（黄色で着色）が多い海岸もあります。その他の分類群については少量であるため、上記の4分類群と並行して分別・回収して行くのが良いでしょう。

なお、漂着ごみの分別方法については、処理方法の変更などによって変更される場合があるので、事前に「美しい対馬の海ネットワーク」事務局に確認しましょう

表 5-8 ボランティア海岸清掃時の漂着ごみの分類・分別例

処理先	大分類	分別	内 容
島内処理	可燃ごみ	廃プラスチック類	ビニール、容器、ペットボトル、サンダルなど
		(プラスチックブイ)	(重金属類の含有可能性があるため、別途回収する場合あり)
		その他の可燃ごみ	布など、上記以外で燃えるごみ(島内処理)
	有効利用	発泡スチロール類	発泡スチロールブイ、魚を入れる箱など
木材、角材類		流木、木材、竹など (長さ 1m 以下(50cm 以下が良い)に切断)	
リサイクル	不燃ごみ	金属類	飲料缶、オイル缶、鍋などの金属類
		ビン類・割れ物	飲料用瓶、陶器類、電球 (割れやすいために別途回収)
島外処理	処理困難物	漁網、ロープ類	漁網、ロープなど
		その他の不燃ごみ	電化製品 (テレビ、冷蔵庫など)、タイヤ類、プロパンボンベ・消火器 (中身なし)、バッテリー、ワイヤーなど
	有害ごみ	医療系廃棄物	注射器、バイアル瓶などは感染性廃棄物として別途回収
		その他の危険物	中身が不明なごみ・容器、中身の入っているスプレー缶・消火器、バッテリー、発煙筒などの火薬類など
		蛍光灯	水銀を含んでいるため別途回収 (割れたものは上記割れ物に分類)
その他	オイルボール	可燃性であることから、他のごみと分けて回収	

注：動物の死体などには手を触れずに、主催者が関係者に連絡して対処する。



(1) 危険なごみの取扱いを決めよう

漂着ごみのうち危険なごみの対応については、参加者にわかりやすくまとめておきましょう。次表に危険なごみの対応例を整理してみました。参加者がこれら危険なごみや、回収の是非の判断に迷うごみを発見した場合は、触る前に主催者に相談してもらうよう、呼び掛けしましょう。また、発見場所を見失わないよう、目印となるものをおいてもらうと良いでしょう。

なお、下見の時に割れたガラスなどの危険物を確認した場合は、事前に回収しておくことで事故のリスクを低減できます。また、これら事前回収ごみは、開会式時の説明にも使用できます。

表 5-9 危険なごみの対応例

危険なごみ		対応（理由）
割れ物（ガラス・陶器など）		<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">参加者が注意して集める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・素手でさわらない（ケガの危険性あり） ・素手でさわらない ・割らないで集める ・他のごみと混ぜない（破裂の危険性あり） ・他のごみと混ぜない（破裂や引火の危険性あり） ・他のごみと混ぜない（引火の危険性あり） ・素手でさわらず、割り箸等を使用して集める ・他のごみと混ぜない（引火の危険性あり）
割れ物 （蛍光灯・電球）		
ガスの残っている スプレー缶		
ガスの残っている ライター		
オイルボール		
医療系廃棄物 （注射器・針、薬瓶 など）	<p>注射器 バイアル瓶</p> 	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">主催者が対応する</p> <p>【参加者は集めない】</p> <p>※発見者は、所在場所を主催者に知らせる（他のごみと混ぜて処理しない）。</p> <p>※動物の死体は原則として回収しない（ただし、主催者が対馬市に連絡して対処する）。</p>
爆発性のもの （信号弾・発炎筒・爆竹・高圧ガスなど）	<p>船舶用発炎筒 ガスボンベ</p> 	
中身のわからない 液体等が入ったもの （ポリタンク・ドラム缶、ペットボトルなど）		
動物の死体（有毒・感染の恐れがあるもの）		

これら危険なごみもふくめ、主催者が対応すべき危険なごみ（上表の黄色部分）については、主催者から「美しい対馬の海ネットワーク」、あるいは対馬市市民生活部環境政策課や長崎県対馬振興局保健部などに連絡をして、対応をお願いしましょう。

海岸漂着ごみの状況に応じた相談窓口については、以下があげられます。

表 5-10 地域住民による回収が不適当な海岸漂着物に関する行政機関相談窓口の例

漂着被害の確認と海岸漂着物の品目の区分		行政機関相談窓口
地域住民が回収することが不適当な海岸漂着物などを確認、あるいは回収	廃家電	対馬市市民生活部環境政策課
	発煙筒や不発弾などの爆発物	【回収しない場合】 対馬海上保安部・比田勝海上保安署・地域の所轄警察署 【回収した場合】 対馬市市民生活部環境政策課
	正体不明の液体入り容器	対馬市市民生活部環境政策課で対応し、取扱いが特定できない場合は長崎県対馬振興局保健部で対応
	クジラ・ウミガメなどの保護動物の死骸	【廃棄物としての取扱い】 対馬市市民生活部環境政策課 【調査等の標識がある場合】 対馬野生生物保護センター 環境省九州地方環境事務所対馬自然保護官事務所厳原事務室 【鯨類・ウミガメ】 (財)日本鯨類研究所、NPO 法人日本ウミガメ協議会
	その他生命、身体に危険を及ぼすおそれのあるごみ	対馬市市民生活部環境政策課 海岸管理者
地域住民が災害など緊急時に相当する大量漂着を確認	流木	対馬市市民生活部環境政策課 海岸管理者
	廃油ボール、劇薬入り容器、医療系廃棄物	海岸管理者 長崎県対馬振興局保健部 対馬海上保安部・比田勝海上保安署

(2) 漂着ごみの回収方法を決めよう

漂着ごみの回収方法は、大きく分けて次の2通りがあります。

① 回収してから一斉に分別する方法

② 大まかに分別しながら回収する方法

①は各自が見つけたごみを分別せずに手当たり次第に回収した後に、一斉にブルーシートの上などにごみを広げて分別する方法で、②は参加者がごみを種類別に分別しながら回収する方法です。どちらの方法が適しているかは、参加者の熟練度や参加人数、漂着ごみの種類や量によって、主催者が判断して決め、参加者に周知しましょう。

初めての参加者が多い場合は①の方法を取り、例えば、参加者が海岸線と平行に横並びになって仮置き場から遠い方から仮置き場に向けて移動しながら回収し、仮置き場付近に集積し、ごみを分別して分類群ごとにフレコンバッグに詰め替える、などの方法で実施すると良いでしょう（詳しくはP.67・68参照）。

②の方法については、ごみの分別に詳しい人や経験者を中心として分類群ごとにグループあるいは担当を決めて回収作業を行うと効率的です。その際、作業監督係は、分別グループ毎にごみをまとめる段階で正しく分別ができているかを確認しましょう。

なお、危険なごみだけを集める係を用意し、海岸を回りながら参加者から回収すると良いでしょう。また、大きな流木や材木はチェーンソーで切断する係を用意しても良いでしょう。ただし、扱いに慣れた人に担当させ、周囲に注意して作業するよう指導しましょう。

特に、漂着ごみ量や参加人数が多い場合は、②の分類群ごとにごみを分けて集めた方が効率的で、容量が大きい割には比較的重量の軽い発泡スチロールを集めるグループ、量的に多い廃プラスチック類を集めるグループ、流木類の切断班など、数人の班に分けて回収作業を行うことが有効です。なお、ごみを入れた袋が重すぎて運べない状態を避け、適当量としましょう。



図 5-14 回収してから一斉に分別する方法の様子



左・中央：自立式の袋に分類群ごとに回収、右：軽いごみをフレコンバッグに直接回収

図 5-15 分類群ごとに回収する方法の様子

(3) 漂着ごみの回収記録を準備しよう

分別して回収したごみ、あるいは回収した後に所定の分類群ごとに集積したごみを対象に、どれくらいのごみを集めたのか、容量（ m^3 表示または袋の数）および重量（kg）を記録するため、事前に記録帳（例：表 5-11）を準備しておきましょう。秤が用意できない場合の重量の算出には、平均比重*を掛けて求める方法もあります。次表に、記録表の例を示します。

回収した漂着ごみの容量の集計・測定に当たっては、一杯に詰めたフレコンバッグは $1m^3$ と計算し、一杯になっていないフレコンバッグについてはおおよそ満杯に対して何割くらいの量となっているかを目視にて推察し、回収量を計算・集計します。例えば、満杯になったフレコンバッグが 10 個で、7 割程度の容量のフレコンバッグ（ $0.7m^3$ と計算します）が 1 個の場合は、合計で $10.7m^3$ と集計します。

ビニール袋に回収したごみについては、例えば、ビニール袋の表示容量に対して何割相当であるために何%になるか、または対馬の海岸に漂着している 20%ポリタンクと比べて何割あるいは何個相当になるのかを目視で推量する、などの方法があります。

全体の集計の際には、仮に 45%のビニール製ごみ袋が 100 個集まったとした場合、45%のごみ袋に入っているごみ量は、口が締められる程度に満杯にしても、多くて約 40%程度であるため、 $40\% \times 100 = 4,000\%$ 、 $4m^3$ という具合に計算します。

なお、回収量の見積方法については、P.70・71 も参照してください。

*：平成 19・20 年度の環境省のモデル調査結果では、対馬の 2 地区における漂着ごみ全体の比重を 0.19 と 0.17 と実測しているため、回収容量に 0.18 を掛けると概算で回収重量を計算できます。



左：目視にてビニール袋の容量と比較して算出

右：携帯式の秤にて重量を測定

図 5-16 分類群ごとに測定・記録している様子（左：容量、右：重量）

表 5-11 海岸清掃活動に関わる回収記録帳の例

回収海岸名：		町	海岸	回収年月日			年	月	日
作業時間：				作業人数：					
回収者・団体名：				記入者名：					
大分類	分別	回収袋数		回収量*		備考			
		45リットル袋数	トン袋数	kg	リットル or m ³				
可燃ごみ	廃プラスチック類								
	漁業用プラスチックブイ (プラスチック類に含める場合あり)					分別しない場合あり			
	その他の可燃ごみ								
有効利用	発泡スチロール類								
	木材・流木・竹								
不燃ごみ	金属類(缶類(飲料缶、スプレー缶)、オイル缶、鍋等)					スプレー缶は中身のないもの			
	ビン類(飲料瓶、陶器類、電球)								
有害ごみ	蛍光灯					割れていないもの			
処理困難物	漁網・ロープ								
	その他の不燃ごみ(電化製品(テレビ、冷蔵庫等))、タケ類、ドラム缶、乾電池など								
危険物	医療系廃棄物								
	その他の危険物(中身の判らない容器・ごみ、中身の入っているスプレー缶・消火器、バッテリー、発煙筒などの火薬類など)								
その他	オイルボール								
合計									

注：漂着ごみは「分類群」ごとにまとめて仮置き場に保管する。「回収袋数」は海岸清掃団体からの報告を基に記入する。「回収量」は、海岸清掃を調査として実施する場合に記入する(調査時以外では、極力、「美しい対馬の海ネットワーク」が仮置き場で確認する)。漁業用プラスチックブイの分別は、「美しい対馬の海ネットワーク」事務局から別途指示する。

なお、漂着ごみの回収結果については、上記に示すような記録帳を用いて整理する方法もありますが、その他に、例えば世界共通の漂着ごみ調査である「国際海岸クリーンアップ (ICC)」方式に準じて調査を兼ねて回収作業を行い、記録する方法を導入しても良いでしょう。

その場合は、図 5-17 に示す「ごみ調査・データカード」を使用し、調査後に整理して一般社団法人 JEAN*および「美しい対馬の海ネットワーク」に送ると良いでしょう。

*: JEAN のクリーンアップキャンペーンに関するホームページ：
<http://www.jean.jp/activity/>

あるいは、「公益社団法人 環日本海環境協力センター」(略称:NPEC) が実施する手法(下記 URL) に沿って、調査を行う方法もあります。

<http://www.npec.or.jp/umigomiportal/about/outline/index.html>

※回収対象はすべてのごみですが、調査対象は以下の45品目です。

※各品目の個数をすべて教え、□内に合計数を数字で記入してください。 記入例: タバコの吸殻・フィルター 正正一 11

※この調査品目は、世界共通の「国際海岸クリーンアップ (ICC)」調査品目に、日本で問題となっている品目 (斜体) を加えたものです。

※データカードの改編等を行わないでください。

▼破片／かけら類 (直径2.5cm以上のもの)	合計
硬質プラスチック破片	<input style="width: 100%; height: 20px;" type="text"/>
プラスチックシートや袋の破片	<input style="width: 100%; height: 20px;" type="text"/>
発泡スチロール破片	<input style="width: 100%; height: 20px;" type="text"/>
ガラスや陶器の破片	<input style="width: 100%; height: 20px;" type="text"/>

直径
2.5cm

▼陸上活動で主に発生する品目	合計	合計
タバコ タバコの吸殻・フィルター	<input style="width: 100%; height: 20px;" type="text"/>	生活 ふた (プラスチック)
タバコの吸殻・フィルター	<input style="width: 100%; height: 20px;" type="text"/>	その他プラスチックボトル
タバコのパッケージ・包装	<input style="width: 100%; height: 20px;" type="text"/>	生活雑貨 (歯ブラシ, 文具等)
使い捨てライター	<input style="width: 100%; height: 20px;" type="text"/>	おもちゃ (ボール, フィギア等)
飲料 飲料用プラボトル (ペットボトル)	<input style="width: 100%; height: 20px;" type="text"/>	風船
飲料ガラスびん	<input style="width: 100%; height: 20px;" type="text"/>	花火
飲料缶	<input style="width: 100%; height: 20px;" type="text"/>	大型 家電製品
飲料用ボトルキャップ (プラスチック)	<input style="width: 100%; height: 20px;" type="text"/>	タイヤ
飲料用ボトルキャップ (金属)	<input style="width: 100%; height: 20px;" type="text"/>	物流 荷造り用ストラップバンド
6パックホルダー	<input style="width: 100%; height: 20px;" type="text"/>	プラスチック・発泡スチロール梱包材
食品 フォーク・ナイフ・スプーン	<input style="width: 100%; height: 20px;" type="text"/>	建築 建築資材 (柱, 釘, トタン板等)
カップ・皿 (紙)	<input style="width: 100%; height: 20px;" type="text"/>	医療 注射器
カップ・皿 (プラスチック)	<input style="width: 100%; height: 20px;" type="text"/>	▼海・河川・湖沼活動で主に発生する品目 (水産・釣り関係など)
カップ・皿 (発泡スチロール)	<input style="width: 100%; height: 20px;" type="text"/>	釣り 釣り糸
ストロー・マドラー	<input style="width: 100%; height: 20px;" type="text"/>	ルアー (エギ, ワーム)
食品の包装・袋	<input style="width: 100%; height: 20px;" type="text"/>	水産 ロープ・ひも
食品容器 (プラスチック)	<input style="width: 100%; height: 20px;" type="text"/>	漁網
食品容器 (発泡スチロール)	<input style="width: 100%; height: 20px;" type="text"/>	発泡スチロール製フロート
レジ袋	<input style="width: 100%; height: 20px;" type="text"/>	プラスチック製フロート・ブイ
紙袋	<input style="width: 100%; height: 20px;" type="text"/>	かご漁具
その他プラスチック袋	<input style="width: 100%; height: 20px;" type="text"/>	カキ養殖用パイプ (長さ10-20cm)
		カキ養殖用まめ管 (長さ1.5cm)

▼次の項目に当てはまるものがあれば記入してください。

- A. 上記以外で数量が多いもの (→①品目、②個数)
- B. ごみによる動物への被害 * 原因不明は対象外 (→①動物名、②動物の生死、③原因のごみ、④状態)
- C. 海外で使用されていたもの (→①国名、②品目、③個数)

▼感想・意見・特記事項等を記入してください。

注：表面のみを表示しています (裏面もあるので、インターネットで確認してください)。

図 5-17 国際海岸クリーンアップ (ICC) データカード

5.1.7 安全対策と緊急時の対応を検討しておこう

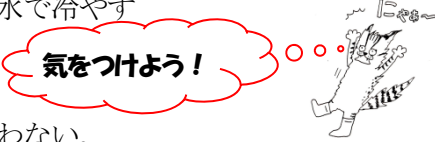




先に挙げた危険なごみのほかに、有毒生物による危険性や熱中症の危険もあるため、その対策を整理しておくことも大事です。また、万が一、事故が発生した場合の対処も考えておきましょう。

(1) 危険な動植物対策をまとめよう

波打ち際には有毒クラゲ、植生帯にはマムシやスズメバチ、ムカデ、アザミのような危険な動植物が生息・生育しています。参加者には肌を露出しない服装（長袖、長ズボン、長靴など）で対策してもらい、危険な動植物を見かけたら近づかない、触れないように呼びかけましょう。

参加者が危険な動植物によってケガをした場合に備えて、病院へ行く前に現場でできる応急処置を学んでおきましょう（次表参照）。

表 5-12 危険な動物によるケガの応急処置の例

	危険な動物	応急処置
有毒クラゲ	漂着したカツオノエボシ 	①海水で洗い流す ②氷や冷水で冷やす ※酢で洗わない。 ※クラゲの種類によって処置が異なるので注意しましょう。 
蜂		①針が残っていれば抜く ②傷口を洗い、毒を絞り出す ③薬を塗る (右写真：蜂駆除スプレーと塗り薬) 
ムカデ		①爪が残っていれば抜く ②43℃以上の温水シャワーを患部に当て、石鹸などで皮膚表面を良く洗う ③決して水などで冷やさないこと
毒ヘビ	ツシママムシ 	①あわてない ②毒が回らないようにするため傷口より心臓に近い部分を三角筋やハンカチで軽く静脈が浮き出る程度に巻き、きつく絞めすぎない（たまにゆるめる）

注：ツシママムシの写真：(財) 日本蛇族学術研究所 (<http://urabanashi.blog5.fc2.com/blog-entry-769.html>) より引用

(2) 熱中症対策を準備しておこう

気温が高い日や日差しが強い日は、特に熱中症や脱水症、日射病に注意するよう呼びかけましょう。参加者には帽子をかぶるなどの対策のほか、こまめに水分や塩分を補給してもらいましょう。また、無理をせず、体調が悪く感じたら自主的に休息をとってもらいましょう。

また、主催者は、参加者が熱中症などになった場合に備えて、病院へ行く前に現場でできる応急処置を学んでおきましょう（図 5-18 参照）。

熱中症にご注意ください！

真夏日や熱帯夜が続くと熱中症が起きやすくなります。

熱中症には気温だけでなく、湿度、風速、直射日光も関係していますので、炎天下はもちろんのこと、風のない暑い室内での作業や体育館での運動時に注意が必要です。

特に子どもや高齢の方は注意が必要です。

熱中症とは

高温環境下で、体内の水分や塩分（ナトリウムなど）のバランスが崩れたり、体内の調整機能が破綻するなどして、発症する障害の総称です。

予防のためのポイント

- ① 屋外では日傘や帽子をかぶるなど、直射日光を避けましょう。
- ② 吸湿性や通気性のよい素材のものを着るなど、服装を工夫しましょう。
- ③ こまめに水分を補給しましょう。汗をかいたら塩分も補給しましょう。
- ④ 寝不足や風邪など体調が悪いときは、無理をしないようにしましょう。

症状

以下の症状があったら熱中症を疑いましょう。

めまい、立ちくらみ
筋肉痛、汗がとまらない

頭痛、吐き気
体がだるい（倦怠感）、虚脱感

意識がない、けいれん
体温が高い、呼びかけに対して返事がおかしい
まっすぐに歩けない、走れない



応急処置

- 意識がある、反応が正常な場合
 - ① 涼しい場所へ避難させましょう。
 - ② 衣服を脱がせ、身体を冷やしましょう。
 - ③ 水分・塩分を補給させましょう。
※ただし、水分を自力で摂取できない、または症状が改善しない場合は、直ちに救急隊を要請しましょう。
- 意識がない、反応がおかしい場合
 - ① 救急隊を要請しましょう。
 - ② 涼しい場所へ避難させましょう。
 - ③ 衣服を脱がせ、身体を冷やしましょう。

図 5-18 熱中症の応急処置例

(長崎県ホームページ <http://www.pref.nagasaki.jp/shared/uploads/2013/09/1378086387.pdf>より。赤枠は応急処置を示すために追記している)

(3) 緊急時の連絡網を準備しておこう

人身災害・自然災害・事件・事故発生などの緊急時や、大量の危険なごみなどが漂着しているなど、海岸清掃活動時に困ったことが起きたら、主催者から関係者に連絡して迅速に対応できるようにしておきましょう。

そのために事前に警察、消防本部、病院・診療所、海上保安部、市町村担当課、海岸管理者などの電話番号を調べて、一覧を作成しておくとう便利です。連絡する際は、「いつ・どこで・だれが（なにが）・どのように」を正確に伝えましょう。

また、当日は、最新の天気予報や災害情報を入手するために、携帯電話やラジオなどを準備しましょう。加えて、雷や津波に備え、予め避難場所を調べておき、現場でも確認しておきましょう。

表 5-13 緊急時の連絡先例（対馬市）

連 絡 先			
ケガ・ 病気	119 番	最寄りの病院：〇〇病院	0920-〇〇-〇〇〇〇
		最寄りの診療所：〇〇診療所	0920-〇〇-〇〇〇〇
		対馬市消防本部	0920-52-0119
水上事故	118 番	対馬海上保安部	0920-52-0118
		比田勝海上保安署	0920-86-2113
	110 番	対馬北警察署	0920-84-2110
		対馬南警察署	0920-52-0110
困った こと		「美しい対馬の海ネットワーク」事務局	0920-52-7135
		対馬市市民生活部環境政策課	0920-53-6111
		海岸管理者：長崎県対馬振興局建設部管理	0920-52-0398
		最寄りの漁業協同組合：〇〇漁業協同組合	0920-〇〇-〇〇〇〇
		国立公園 長崎県環境部自然環境課	095-895-2381
		環境省 九州地方環境事務所 対馬自然保護官事務所 厳原事務室	0920-57-0101

注：最寄りの病院や診療所、漁業協同組合の名称や電話番号は、主催者が確認してください。

(4) 緊急時の対策を整理しておこう

過去にさまざまな海岸清掃活動で発生した事象事例を参考にした対策案を、次表に整理しました。

海岸清掃活動中の参加者のケガに備えて、ボランティア保険の加入を検討しましょう。一定の条件を満たしていれば、対馬市の社会福祉協議会で加入することができます。補償内容によって異なりますが、保険掛け金は1人あたり数百円程度です。この場合、事前に参加申込書に署名あるいは捺印の手続きが必要とされている保険もありますので、参加応募より把握している氏名・住所などを用いて、できるだけ早めに社会福祉協議会に相談して対処しましょう（事前に参加人数だけを連絡し、後日参加者の氏名を報告する方式の保険もあります）。

ただし、特段に募集案内をしない小規模の海岸清掃活動や、比較的大規模な海岸清掃活動では、各自の自己責任にて参加して頂くこともありますので、その旨を事前に参加者にキチンと説明しておきましょう。また、他の保険を利用する場合は、保険の種類によって熱中症が保健の対象外となっているものもありますので、事前に参加者に説明しておきましょう。

表 5-14 海岸清掃活動中に発生した事例と対策案

	過去の事例	対応	主催者ができる対策
人身災害	・指を骨折した	・診療所で治療、数日間通院した ・ボランティア保険に加入していたため、後日治療費が返金された	・活動前の説明を徹底する ・ボランティア保険に加入する
	・蜂に刺された	・救急セットの塗り薬で応急処置して、病院へ行った	・服装のチェック ・活動前の説明を徹底する ・救急セットを準備する
	・熱中症になった	・応急措置を行い、直ちに病院に向かった	・活動時期、時間の見直し ・服装のチェック ・活動前の説明（水分補給）を徹底する ・休憩をしっかりとってもらう
自然災害	・天気が急変した	・活動中止して一時待機とした（天気回復後に再開）	・天候悪化が予測される場合は、中止や延期を検討する ・携帯電話やラジオなどから最新情報を入手する
	・雷が鳴り始めた	・活動中止して車両内やコンクリート建物内に避難した（警報解除 20 分後に再開）	
	・地震発生で津波警報発令	・活動中止して高台に避難した（警報解除後に再開）	

注：ボランティア保険によっては熱中症が補償対象外になっている場合もあるので、防止策の周知が必要です。

(5) 貴重な動植物や自然環境に配慮しよう

海岸は、さまざまな動植物の生息地でもあります。海岸清掃活動時に、参加者が海岸に立ち入ることによって、これら生物を踏みつけたり、生息地を破壊したり、景観を損ねることのないように努めましょう。また、貴重な動植物の生息状況を事前に市町の担当課や地元の保護団体などに確認して、動植物に配慮した海岸清掃活動計画を立てることも考えましょう。

また、海岸に漂着している植物や海藻などの自然物は、それらを住処や餌としている動物がいるので、基本的に回収しません。動植物にとって障害となりそうな場合のみ、対馬市市民生活部環境政策課や地元の保護団体等と相談した上で、例外的に回収する場合があります。

希少な植物の例については、「4. 【初級編】」に掲載していますので、参照してください。

5.1.8 再確認しよう（開催予定日の一週間前～三日前）

開催予定日の一週間前～三日前になったら、会場、開催内容、用具、参加者への説明事項、安全対策、潮位や干潮・満潮時間などの再確認をしましょう。

(1) 会場を再確認しよう

会場となる海岸の下見を再度行い、海岸へのアクセス路の状態や漂着ごみの量を確認しましょう。その際、危険物を事前に回収しておくこと、事故のリスクを低減できます。

なお、再度の下見の際に、当初海岸清掃活動を行う予定であった海岸での漂着ごみが余りに多かったり、逆に少なすぎた場合には、海岸清掃範囲・範囲を変更する、あるいは事前に検討・下見をしていた他の候補海岸の状況を再度確認し、敢えて会場を変更することも考えましょう。後者の場

合には、速やかに参加者に会場・集合場所の変更を電話やメールおよびホームページなどで連絡しましょう。併せて、関係する地区の区長や漁協、「美しい対馬の海ネットワーク」にも連絡しておきましょう。特に、ごみ量が大きく変わっていた場合は、回収に必要な袋数も変わってくるので、「美しい対馬の海ネットワーク」に連絡して適正量を受け取りましょう。

(2) 参加人数、用具・機材、備品などを確認しよう

最終的な参加人数を確認し、参加者の増減に応じ、ボランティア保険の加入手続きの変更を行いましょう。

また、参加人数、海岸の漂着ごみの量に応じて、海岸清掃活動に必要な用具や機材、備品の数なども再確認しましょう。

(3) 参加者への説明資料、安全対策などを確認しよう

海岸清掃活動の開会式の際の受付用資料のほか、参加者に配布する説明資料（作業時間・活動内容・分別方法・注意事項などを記載）、調査記録紙や安全対策に間違いや不備がないかを再度確認しましょう。その際、作成した資料どおりに漫然と読み進めるのではなく、問題点や改善点がないかどうかを常に意識して実施し、抜けがないか、齟齬がないかなど、海岸清掃活動を円滑に進められるように考えて見直ししましょう。

(4) 役割分担、運営・進行を確認し、シミュレーションしてみよう

主催者は、各項目の準備状況を確認すると共に、海岸清掃活動当日のスケジュールに沿った運営を各担当者と共にシミュレーションし、円滑な進行に課題がないかを検討し、適宜修正して当日に臨みましょう。その際の確認事項は、会場設営、受付、開会挨拶、配付資料・ごみの回収方法の説明、回収作業の注意事項（危険なごみ、生物など）、回収ごみの搬出・管理方法、回収した漂着ごみの記録、閉会時の参加者からの意見聴取、その他のお楽しみなどです。

なお、海岸清掃活動時には単に漂着ごみを拾うだけではなく、海岸漂着ごみに関する問題点を知ってもらうために、開会式あるいは閉会式の際に「美しい対馬の海ネットワーク」作成の資料などの啓発普及資料を説明する時間を取って、海岸清掃活動を意義を改めて知ってもらうと良いでしょう。

5.1.9 最終確認をしよう

主催者は、海岸清掃活動実施日の前日に、役割分担・車両の手配、用具・器具などの再確認、当日天気予報の確認、順延あるいは中止の場合の対処について、最終的な確認を再度行いましょう。

特に、開催日の天候判断が難しい場合は、インターネットの天気情報を詳しく検討し、場合によっては長崎地方気象台に電話（電話：095-811-4861）して相談すると良いでしょう。大雨や強風などの悪天候が予想される場合、あるいは、前日まで台風などによって海が大荒れとなっていた場合などは、参加者の安全を最優先して、中止あるいは延期を判断しましょう。



5.2 【当日】海岸清掃活動を実行しよう

参加者がまたやってみたいと思えるように、安全と楽しさを考えて実施しましょう。

海岸清掃の当日に実施すべき事項の例は、以下のとおりです。現地の状況や参加者の構成などに応じて、皆さんの工夫を織りまぜ、適宜調整して実施してください。

《当日実施すべき事項》

- 天候の確認と実施決定、または中止連絡
- 準備作業
 - ・会場設営、受付
- 開会
 - ・海岸清掃活動の意義・当日の予定・注意事項の説明
 - ・ごみの分別回収方法・作業の説明、用具の配布
- 海岸清掃の実施
 - ・回収作業状況の監視・補助(安全作業、分別など)と休憩の声掛け
 - ・記録写真の撮影
 - ・作業が進んでいるグループから遅れているグループへの補助の指示
 - ・回収したごみの適宜搬出の指示



5.2.1 天候確認後に実施を決めよう

当日の天気予報で急に荒天となった場合、急に台風が接近してきた場合、警報(大雨、洪水、暴風、波浪、高潮)が出た場合などは、早期に中止や延期の決断を行って、参加者に緊急連絡しましょう。

また、注意報(大雨、洪水、強風、波浪、高潮、濃霧、雷)が出て、判断に迷う場合は長崎地方気象台(電話:095-811-4861)に相談しても良いでしょう。海上の波浪注意報は、概して沖合を対象に発令されている場合があり、実際の海岸の様子とは異なっている場合がありますので、注意が必要です。

5.2.2 海岸清掃活動当日の準備作業をしよう

(1) 会場を設営しよう

主催者は、遅くとも、参加者が集合する時間の2~3時間前に集合して準備を始めましょう。

● 受付の準備をしよう

参加者が集合場所・受け付けを見つけやすいように、看板などを設置しましょう。また、参加者が多い場合は、参加者が主催者を認識しやすいように、揃いの帽子や腕章、ジャンパー、Tシャツなどを着用しましょう。以下、その際の留意事項の例です。

- ・集合場所: テント、看板、のぼり旗の設置
- ・駐車スペース: 看板設置、駐車場の整理開始
- ・受け付け: 看板、机、筆記具、名簿、タイムスケジュール表、手袋・ゴミ袋や飲物の配布準備



左：日韓海岸清掃フェスタ IN 対馬の受付



右：NPO 法人「対馬の底力」提供

図 5-19 受付の設置状況とのぼり旗の設置例

● 海岸清掃活動の準備をしよう

記録係は、活動範囲内の海岸の状況（漂着ごみの量や質、危険なごみ、危険な場所）を確認しながら、後日ホームページなどで活動状況や活動前後の海岸の状況を紹介することを想定し、記録用の写真をとりましょう。また、釣り人などの参加者以外の海岸利用者があるかを確認して、声を掛けるなどの配慮もしましょう。なお、国際海岸クリーンアップ（ICC）などの方法に準じて調査を行う場合は、ロープなどで調査範囲を明確化しておきましょう。以下、その際の留意事項の例です。

- ・活動範囲内の状況の確認：漂着ごみの量や質、危険なごみ、危険な場所
- ・活動の記録内容の確認：活動前の海岸の様子、準備風景、作業内容が判る様子などの撮影
- ・海岸利用者の有無の確認：釣り人、海水浴をする人などの有無

(2) 受付けをしよう

受付けでは、事前に作成した参加者名簿を基に、参加者の確認を行いましょ。また、当日に参加を希望した人に対しては、保険を掛けない場合でも万が一に備えて最低限の情報（氏名、住所、緊急時の連絡先。後日報告型の保険では有効）だけでも記入してもらいましょう。

主催者は参加人数のほか、参加者の服装を確認しましょう。日差しが強い日には帽子を着用することや、ケガのリスクの高いビーチサンダルなどの着用者には注意を促し、場合によっては参加を見合わせてもらうか、作業時の怪我には自己責任で対処してもらうよう説明しましょう。

受付け時には、参加者に手袋やゴミ袋などを配布しましょう（フレコンバッグのみを使用する時は、袋がかさばるために開会式後に現地で配布しても良いでしょう）。なお、受付けの横には、タイム・スケジュール表、ごみの分別表、注意事項などを大きな紙に書いて掲示すると良いでしょう。



左：少人数時の受付の様子



右：日韓海岸清掃フェスタ IN 対馬時の受付

図 5-20 受付の様子

5.2.3 開会式をしよう

開催時間になったら、参加者に集合してもらい、海岸清掃活動の意義、当日の予定（作業時間）、作業内容、回収方法、ごみの分別方法、仮置き場とそこまでの搬出方法、作業安全にかかわる注意事項のほか、トイレや水道が使用できる場所などを要領良く説明しましょう（あまり時間が長いと、参加者が飽きてしまうので、注意しましょう）。

このうち、ごみの分別回収方法については、実際に使用するゴミ袋（フレコンバッグ、土嚢袋、ビニール袋など）を用いて、具体的にどの袋にどんなごみを収容するのかを説明しましょう。また、ごみを分類群ごとに回収するのか、それとも一斉に集めたごみを後で分類するのか、なども明確に伝えましょう。その際、事前に回収しておいた代表的なごみや危険なごみを例示して、具体的なごみの分類説明や注意喚起を行うのも良いでしょう。

また、海岸での回収作業時に作業内容の指示や安全監視を行う作業監督、記録係などの担当者・係員（共通の衣類（帽子、腕章、Tシャツ、ジャンパーなど）を着用）を紹介し、不明な点があればこれら関係者に聞いてから作業してもらおうようにしましょう。



左：規模の小さい海岸清掃活動事例



右：比較的規模の大きい海岸清掃活動事例

図 5-21 主催者が参加者に説明する様子

5.2.4 海岸清掃活動を開始しよう

作業内容などの説明が終わったら、参加者には清掃活動をする海岸へ移動してもらい、ごみの回収を始めてもらいましょう。また、記録係は、作業状況を撮影して行きましょう。

(1) 漂着ごみの回収作業を始めよう

● 回収

開会式の際に説明した方法で、漂着ごみを回収してもらいましょう。目につきやすい大きなごみだけではなく、小さなごみにも着目して、回収してもらいましょう。

漂着ごみの回収方法については、大きく分けて次の二つの方法があり、ごみの量や参加人数に応じて使い分けると良いでしょう。



・ 大まかに分別しながら回収する方法



・ 回収してから一斉に分別する方法

【大まかに分別しながら回収する方法】

比較的多くの漂着ごみを回収する場合は、次のように分類群ごとに回収する方法で実施すると効果的です。

- ・ 参加者を 10～15 人程度の小グループに分け、海岸入り口付近のごみから回収し、徐々に入口から離れた場所へと回収範囲を広げる（これによって、海岸入り口付近が移動しやすくなり、かつ、回収したごみの搬出も安全に行える）。ただし、あまりに多くの人数が入り口付近に集中してしまうと返って危険なため、小グループを適度に分散させて回収を進めて行く。
- ・ 小グループ内では、ごみの分類群ごとに担当者を割り当て、ある分類群のごみを他のごみ担当者が発見した場合はその担当者に声を掛け合って回収して行く。また、ある程度のごみ量を収容したフレコンバッグについては、その外側の見やすい部分に担当者が分類群名を油性マーカーなどで書いて、搬出の邪魔にならない海岸部分に置いて行く。
- ・ 対馬の漂着ごみの中で、量的に多いものは発泡スチロール類、プラスチック類、および流木・角材等の木材類であり、分類群ごとに 3～4 人程度を割り当てる。また、それ以外の量的に少ないごみについても担当者を決め、上記 3 分類群と並行して回収する。
- ・ 作業監督係は、参加者に対して、所定の袋に沢山のごみを入れすぎると重くて運びにくくなるので、2～3 人程度で運べる程度の重さになったら仮置き場などに運び、分類群ごとに分けて仮置きして海岸に戻り、再度回収を始める、などの方法を指示する。また、医療系廃棄物や危険なごみを見つけた場合は、主催者側の担当者に声を掛けてもらうよう、参加者に呼び掛ける。
- ・ 容積が大きく、重量が軽い発泡スチロールブイについては、フレコンバッグに直接投入して回収し、小さな発泡スチロールの破片はその間に押し込むなどにより回収する。
- ・ プラスチック類のうち、比較的大きなごみはフレコンバッグに直接投入し、細かいごみはビニール袋やスタンドバッグなどで集めた後にフレコンバッグに投入する。
- ・ 比較的大きな流木類については、主催者側の切断係がフレコンバッグに入る位に切り落とした木材をフレコンバッグに投入し、一つのフレコンバッグを仮置き場まで搬出できるくらいまでの重量として収容する。

- ・ 其他のごみのうち、漁網・ロープ類が量的に多い場合についても、流木類と同様な方法で回収し、細かいものはビニール袋などで集めた後に同じ分類群のフレコンバッグに投入する。
- ・ 其他のごみのうち、重量のあるガラス類や缶類についてはそれぞれ分類群ごとに土嚢袋（ビニール袋では切れやすいため不適）に収容する。
- ・ それ以外のごみについては量的に少ないため、量的に多い分類群の回収と並行して土嚢袋やビニール袋に回収するが、冷蔵庫やタイヤなどの大型のごみは単体で集める。

【回収してから分別する方法】

漂着ごみ量や参加人数が比較的少ない場合や、回収作業が漂着ごみの調査（例：国際クリーンアップ方式（ICC方式。P.57・58参照））も兼ねている場合は、次のように漂着ごみを回収してから分別する方法で実施すると、漂着ごみに関する学習効果も高くなり、効果的です。

- ・ 参加者はビニール袋などで漂着ごみを分別せずに、海岸の入り口あるいは回収範囲の最奥部から回収し、ビニール袋が一杯になったら集積場所まで運搬する。
- ・ 集積場所は、海岸のうち、回収したごみを一時的に広げて分類できるような比較的広くて平らな場所で、しかも仮置き場までの搬出が容易な場所を選ぶ。
- ・ 集積場所では、事前にごみを回収してきれいにしておき、そこにビニールシートを敷いて、その上に回収したごみ袋内のごみを開け、所定の分類群ごとの分別を行う。分別に当たっては、参加者の中から数人を選んで担当者とし、作業監督係が指示を出しながら分別を行い、量的に多いごみはフレコンバッグに、少ないごみはビニール袋や土嚢袋などに分けて収容する。
- ・ 調査を兼ねて海岸清掃活動を行う場合は、この分別作業時に調査票に記載されている分類群ごとのごみの回収個数や製造国なども記録する。
- ・ 分別し終えたごみは、分類群ごとに集積場所から仮置き場に搬出する。その際、一つの袋があまり重くなりすぎないように調整し、仮置き場にて最終的な詰め替えを行う。

● 搬出

ある程度ごみが回収できたら、海岸に回収したごみが溜まりすぎて作業に支障を来さないよう、作業監督係は参加者に声を掛け、適宜、仮置き場まで搬出してもらいましょう。

搬出方法は下記のような方法がありますが、一人で余り無理をせず、皆で声を掛け合って協力して搬出すると、和気あいあいと楽しく実施できます。



・ 各人で運ぶ



・ ごみ袋をリレーで運ぶ



・ 大きなごみは2名で運ぶ

(2) 作業の監督・安全指導、作業写真の撮影を行いましょ

作業監督係は、参加者の作業状況の監視を行うと共に、安全作業や分別方法などの指示のほか、休憩の声掛けなどを行いましょ。特に、開催時に説明した回収方法（分類せずに一括回収した後で分別するのか、分類しながら分類群ごとに回収して行くのか）や分別方法、危険物や熱中症対策についても繰り返しアナウンスして参加者に注意喚起しましょ。また、参加者が分別するに当たり、分別方法が正しいか、分別に迷うものがないか、危険なごみが混ざっていないかなどを確認しましょ。危険なごみは、その他のごみと混ざらないように、主催者側の危険物係を呼んで回収する旨を周知しましょ。

海岸の活動範囲がわかりにくい場合は、境界付近に関係者を配置させ、参加者を誘導しましょ。また、全体の活動状況を把握して、人手が必要な場所がないか、回収に困っていないかなどに配慮し、適切な指示を行いましょ。

作業中に、珍しいごみや、参加者が興味を持つようなごみがあった場合は、作業を中断して周囲の参加者に説明するなどを行うと、参加者が漂着ごみに興味を持ち、楽しい作業・活動につながります。

一方、回収作業中は、参加者の動きを監視し、危ない状態で作業している人がいれば注意を促し、体調の悪い人やケガをした人がいないか、トラブルが起きていないかなどを確認し、適切に対応しましょ。

また、人身災害・自然災害などの事件・事故発生時は、応急処置を実施し、予め作成していた緊急時の連絡図に従って、人命救助を第一に迅速に対応しましょ。特に、命に係わるような場合は、速やかに海上保安部や消防署へ連絡しましょ。

加えて、受付に待機している主催者側のリーダーや会場係は、携帯電話やラジオ（次図参照）などから最新の気象情報を収集して、会場付近に関わる警報が発令された場合は直ちに活動を中止するなど、臨機に対応を図りましょ。特に、雷や津波に関する警報の場合は、即時作業を中止して安全な場所に避難するよう、指示しましょ。気象注意報が出て、作業継続あるいは中止の判断に困った場合は、長崎地方気象台や海上保安部などに相談すると良いでしょう。

回収を中断して、休憩する、中止する、次の作業に移るなどの場合や、離れた場所に移動する場合は、参加者全員に声をかけ、孤立している人がいないかを確認しましょ。

★ 主催者および各担当が行うべきこと

- ・ 継続的な天候の把握
- ・ 参加者の誘導・声掛け、作業状況の確認と指示
- ・ ごみ分別状況の確認、適宜搬出の指示
- ・ 参加者の中に体調が悪そうな人がいないかの確認
- ・ 作業状況の撮影（ごみの回収状況、代表的なごみがわかるように）
- ・ 危険なごみの回収・管理
- ・ 緊急時の対応



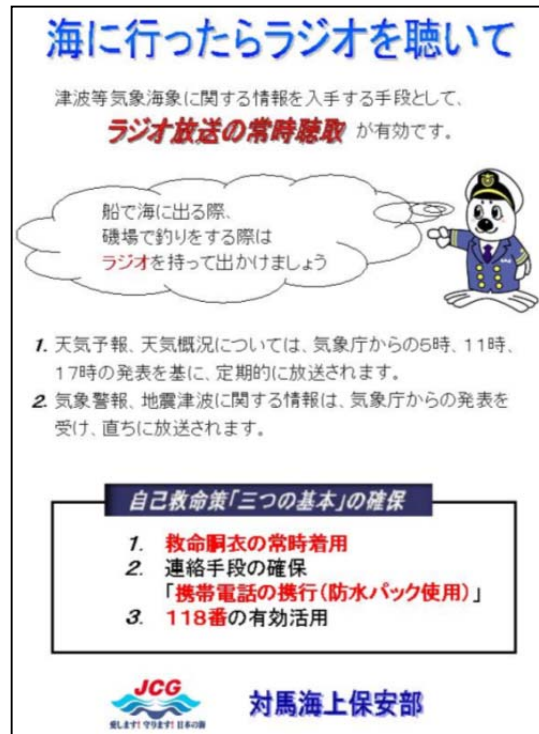


図 5-22 「海に行ったらラジオを聴いて」

対馬海上保安部ホームページより

<http://www.kaiho.mlit.go.jp/07kanku/tsushima/uminoanzenjouhou/sonota/radio.jpg>

5.2.5 回収後の作業をしよう

(1) 回収した漂着ごみを仮置きしよう

海岸で回収した漂着ごみ袋は参加者の協力を得て、海岸あるいは集積場所から仮置き場まで搬出しますが、その際、主催者側の作業監督係は、仮置き場に各分類群のごみをバラバラに置くのではなく、その後に行う詰め替え作業や記録作業のために、分類群ごとにまとめて仮置きするよう、参加者に指示しましょう（そのため、仮置き場はある程度のスペースが必要ですので、準備時には漂着ごみ量と仮置きスペースとを比較して、具体的な仮置き場所を決めましょう）。

また、分類群の名称がフレコンバッグや土嚢袋などに書いていない場合、作業監督係は中身を確かめて、油性マーカーなどで分類群の名称を見やすい位置に記入しておきましょう（これにより、対馬市が処理する時に役立ちます）。



(2) 詰め直し・記録をしよう

① 詰め直し

主催者側の作業監督係は参加者に協力を仰ぎ、仮置き場に運ばれた漂着ごみのうち、別々の袋で回収された同じ分類群のごみについて、一つの袋を口が閉められる程度の量となるまで極力一杯に詰め込むよう、指示します（島外処理する場合に、一袋当たりで処理費を計算されるため、および、回収量を集計しやすくするためです）。また、少量の回収ごみ分類群については、複数のビニール袋を大きなビニール袋に袋ごと入れ直し、表側に油性マーカーで分類群名称を記入しておきましょう（土嚢袋についても同様）。

② 回収量の記録

その後、どんなごみをどれくらい集めたのかを知るために、回収した漂着ごみの種類と量を集計

しましょう。

回収した漂着ごみの容量の集計・測定に当たっては、一杯に詰めたフレコンバッグは 1m^3 と計算し、一杯になっていないフレコンバッグについてはおおよそ満杯に対して何割くらいの量となっているかを推察して回収量を計算・集計します（例：7割程度の容量であれば、 0.7m^3 と計算します）。

ビニール袋に回収したごみについては、例えば対馬の海岸に頻繁に漂着している20ℓポリタンクと比べて何個相当になるのかなどの目視での比較方法によって推量し、その量から求めた回収量を記録帳（P.56参照）に記入しましょう。また、仮に45ℓのビニール製ごみ袋が100個集まったとした場合、45ℓのごみ袋に入っているごみ量は、口が締められる程度に満杯にしても、多くて約40ℓ程度であるため、 $40\% \times 100 = 4,000\%$ 、 4m^3 という具合に計算します。

また、調査も兼ねて海岸清掃活動を行う場合は、バネ秤や海外旅行時にスーツケースの重量を測る秤があれば重量も測定し、同じ分類群ごとに集計しましょう。バネ秤がない場合は、全回収量（ m^3 ）に対して、対馬での実測値に基づく平均比重0.18*を掛けて概算重量を算出しましょう。

*：平成19・20年度環境省モデル調査結果。2海岸での漂着ごみの比重は0.19と0.17であり、概算で重量を求める時は平均値の0.18を掛けることで、回収容量から回収重量を計算できます。

回収量の計測は、参加者と一緒にごみの分類群ごとのごみ袋数を数え、容量や重量を計算し、記録帳に記載しましょう。これにより、何人の参加者で、何時間かけて、漂着ごみの全量や分類群ごとにどれくらいの量が回収できたのかがわかりやすくなり、参加者の達成感にもつながります。

なお、記録撮影担当者は、これらの作業の各過程がわかるように、忘れずに撮影しましょう。



左：飲料缶の個数・容量を計数中



右：ごみの重量を測定中

図 5-23 分類群ごとにごみの量を記録している様子



図 5-24 計測後に同じ分類群ごとにごみを詰替えている様子

(3) 仮置き場での保管に気を付けよう

仮置き場においては、これらのごみが収集・運搬されるまで風雨で飛散しないように、また崩れて散らばらないように、ひとまとめにしてロープで固定したり、ビニールシートなどで覆ったりしましょう。また、主催者の連絡先を書いた看板などをつけておくと良いでしょう。



左：種類毎に置かれたごみ

中：ごみ袋の固定状況

右：看板の表示状況

図 5-25 仮置き場での保管状況

5.2.6 閉会式をしよう

回収した漂着ごみを仮置き場へ集積して回収結果の記録が終了した後、主催者は閉会式を開催しましょう。その際、回収結果を報告すると共に、参加者から感想や意見を聞きましょう。

● 参加者の感想・意見を聞こう

閉会式に当たって、主催者は参加者に慰労の言葉を掛けると共に、次回以降の海岸清掃活動の開催に活かすため、参加者の感想や意見・提言あるいは拾い方で工夫した点などを聞き、海岸清掃活動の反省点や課題を抽出・整理しましょう。

また、その際に、今回集めたごみの中に身の回りのごみがどれくらいあったかを参加者に気づかせ、ポイ捨て防止や適切なごみの処理を呼び掛けるなど、海岸漂着ごみの発生抑制に向けた説明を行うと良いでしょう。



● 参加者と勉強会などをしよう

10～20人前後の小規模の海岸清掃活動では、作業終了後に時間が許す範囲で、代表的な漂着物がどの国で作られ、どのように対馬に流れてきたのか、などを勉強する時間を設けても良いでしょう。また、非常に珍しいごみの紹介や、特殊なごみの正体を当てさせる「これ何だ？クイズ」を行う、なども考えられます。この勉強会を通じて、ごみ拾いの意義を知ってもらい、また漂着ごみの発生抑制のために、まずは身のまわりからごみを減らし、ポイ捨て防止などを訴えると、より効果的な活動になります。漂着ごみ問題に関する資料は、「美しい対馬の海ネットワーク」が作成していますので、事前に協力を仰ぎましょう。



図 5-26 閉会式時の参加者への説明状況

● 記念写真をとろう

回収結果の報告や勉強会などが終了したら、参加者全員で記念写真を撮りましょう。

その際、ただ集まって写真を撮るのではなく、集めたごみの後ろに勢揃いしたり、参加者の楽しそうな様子が判るような写真を撮りましょう。元気な笑顔は、次の海岸清掃の参加者を増やすことにもつながります。また、後日主催者のホームページなどに掲載すると、参加者の良い思い出・記念にもなるでしょう。特に、回収前・後の海岸の様子は、できるだけ掲載しましょう。



注：写真は「第2回日韓海岸清掃フェスタ IN 対馬」（2014年8月24日）より

図 5-27 海岸清掃活動後の記念写真の例

5.2.7 後片付けをしよう

閉会式後、主催者は参加者に忘れ物がないかを確認してもらい、受付けやテント、その他の備品などを片付け、終了後に解散しましょう。

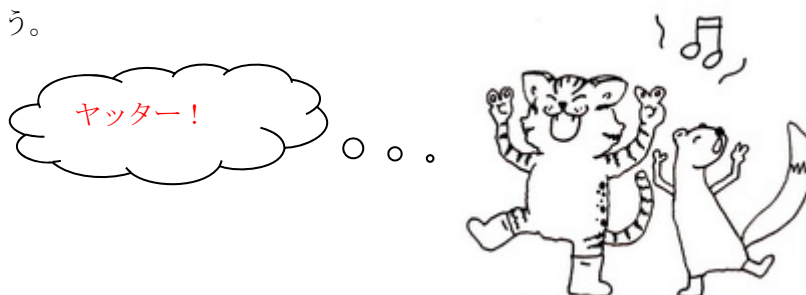
主催者は、参加者が帰るまで、安全管理・監督を心がけましょう。また、最終的に、参加者の忘れ物はないか、やり残した作業はないか、仮置き場に集積したごみは整っているか、などを確認して作業を終了します。

5.2.8 関係者へ終了報告をしよう

主催者は、詳細な活動結果は後日報告することとして、当日は作業が終了した後に当該地区の区長や漁協、「美しい対馬の海ネットワーク」に活動終了の連絡を入れましょう。

また、主催者は、ごみの保管状況を「美しい対馬の海ネットワーク」に連絡し、どの仮置き場に、どんな種類のごみが、どれくらい仮置きされているのかについて報告しましょう（その後、「美しい対馬の海ネットワーク」は、対馬市市民生活部環境政策課に連絡し、これら回収漂着ごみの運搬と処理を依頼します）。

なお、主催者側は、後日、改めて、回収した漂着ごみ量や参加人数などの作業結果や調査結果を、関係各所に報告しましょう。



5.3 【事後対応】海岸清掃活動のまとめをしよう

海岸清掃活動が終了した後は、参加者への報告や次回の開催の準備を行いましょう。

報告内容は、次のような項目が目安となります。

《事後に実施すべき事項》

- ・ 回収実績・活動の記録
海岸清掃活動のまとめ：何人でどれくらいのごみを集めたのか、写真の整理
(調査も兼ねて実施した場合は、調査票の整理)
- ・ 関係者への御礼と報告
お礼を込めて参加者・関係者にフィードバック
- ・ ポスターなどの撤去・片付け
- ・ 道具の手入れ・保管
- ・ 反省会
- ・ 次回の案内 など

5.3.1 活動記録整理と情報発信をしよう

活動記録を整理して「美しい対馬の海ネットワーク」に送るほか、主催者側のホームページや Facebook があればデータを公開しましょう。また、地域メディアなどからの取材があった場合にも写真やデータなどを利用しましょう。その際、閉会式の時に出了意見を、参加者にフィードバックすると良いでしょう。

● 記録内容

以下のような内容で、記録を整理しましょう。

【記録の整理内容の例】

- ・ 活動日時 ○○年○○年○月○日 ○：○○～○：○○
- ・ 活動場所 対馬市○○海岸
- ・ 活動範囲 海岸線長○m (※地図に情報をのせるとわかりやすい)
- ・ 参加人数 合計○人 (男性○人、女性○人、12歳以下の子ども○人)
- ・ 回収したごみの量 約○○m³ (○○kg。分類群ごとの回収量も記載)
- ・ ごみの特徴 (種類、危険ごみの有無)
- ・ ごみの仮置き場 対馬市○○漁港
(または、地権者：○○○○様 連絡先 TEL：○○○○-○○-○○○○)
- ・ ごみの仮置き方法
- ・ 準備した用具・備品 手袋○○双、ごみ袋○○枚、飲料水○○本
- ・ 準備した用具・備品の調達先 ○○：開催○ヶ月前に○○でネット注文
- ・ 市から提供のあった用具・備品 手袋○○双、ごみ袋：フレコンバッグ○○枚、ビニール袋○○枚
- ・ 緊急時連絡先
- ・ 写真：海岸清掃活動前、活動中、活動後
- ・ 事後の活動・イベント内容：
- ・ 参加者からの意見・提言内容：
- ・ 活動を通して地域関係者から出た意見

例：近隣住民から路上駐車で困ったという苦情、きれいになって嬉しいという感想、など

● 調査結果

「国際海岸クリーンアップ (ICC)」方式に準じて、海岸清掃活動と併せて漂着ゴミの調査を実施した場合は、調査票を一般社団法人 JEAN や「美しい対馬の海ネットワーク」に送り、データを共有しましょう。

5.3.2 関係者に御礼と報告をしよう

上記記録や活動報告については、後日、「美しい対馬の海ネットワーク」のほか関係地区の区長・漁協にその成果を伝え、その際には海岸清掃活動に関する地域関係者の意見や要望も聞いておきましょう。また、余ったゴミ袋や軍手などは「美しい対馬の海ネットワーク」に返却し、当日困ったことがあった場合はそれも伝えて相談しましょう。いずれも、今後の活動の参考になります。

5.3.3 ポスターなどの撤去・片付けをしよう

対馬市役所や豊玉・上対馬庁舎のほか、美津島町・峰町・上県町の行政サービスセンターなどに掲示させてもらったポスターや募集案内を、お礼を述べながら撤去して回収しましょう。また、それらを固定していた画鋲やテープもきれいに片付けましょう。

5.3.4 道具の手入れ・保管をしよう

会場付近に設置した登り旗や旗竿のほか、繰り返し使える折りたたみ式の自立式万能袋やカッター・ナイフ・のこぎりなどもきれいに手入れして、次回も使えるようにしておきましょう。

5.3.5 反省会を開催しよう

後日、主催者は関係者と連絡を取り、実施した海岸清掃活動の反省会を行いましょ。その結果を主催者のホームページで公開するのも良いでしょう。

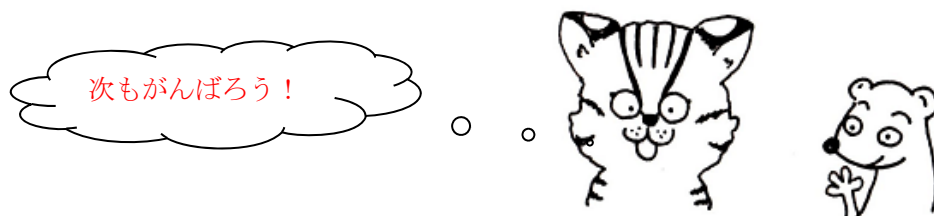
また、反省会であげられた意見は、次回の海岸清掃活動に必ず反映し、その企画・計画に盛り込みましょ。

5.3.6 次回の案内をしよう

予め、次回の海岸清掃活動の予定あるいは計画が決まっていれば、それを主催者のホームページで公開し、将来の参加希望者に周知ましょ。

5.4 続けよう

対馬のきれいな海を将来世代に引き継ぐため、一回だけではなく、根気良く、繰り返して海岸清掃活動を「続けて」開催ましょ。そのために、“楽しく、安全に”が大事です。



【イベント編】

6 【イベント編】 海岸清掃活動イベントを企画・実施してみよう

【イベント編】は、数百人という大人数にて、海岸清掃活動の実施とその活動終了後に漂着ごみ問題に関わるシンポジウムや、地元ミュージシャンによるライブ活動、シーカヤック体験などのイベントを含む比較的大規模な海岸清掃活動を企画・実行する場合を想定しています。

この【イベント編】の基本的な内容は【中・上級編】と同等ですが、【中・上級編】と比べて参加者が多いこと、および、イベントが加わることにより、主催者側の人数と役割が増え、漂着ごみの回収作業のみならず、参加者の送迎やイベントの企画・実施に関する役割分担と労力が増えることとなります。そのため、役割分担に応じて、構成人数の多い実行委員会を立ち上げて、細かいスケジュールを組んで取り組む必要があります。

これまで対馬市での比較的大規模な海岸清掃活動としては、「日韓市民ビーチクリーンアップ」や「日韓海岸清掃フェスタ IN 対馬」が開催されていますが、参加人数が 200 人前後であるほか、市民を含めたイベントなどは行われていません（ただし、「日韓学生つしま会議」では、ワークショップも開催している場合があります）。

一方、対馬市で海岸漂着ごみに関する活動を実施している一部民間団体は、島内の環境問題に関する意識を高め、自分たちの島を守って行くために島を挙げた活動につなげて行けるよう、将来的には音楽活動などのイベントも含めた普及啓発活動の実施を考えています。

このような活動としては、対馬と同じ離島である沖縄県の石垣島（石垣市）での「海 Love フェスタ」があります。この活動は平成 21 年から実施され、500～700 人程度の参加者による海岸清掃活動と、その後の音楽などのライブ活動も含めたイベントを実施しています。

そのため、【イベント編】では、海岸清掃活動後のイベント実施を含めた大規模な海岸清掃活動の企画・実施運営方法を、石垣島の「海 Love フェスタ」を参考事例としている沖縄県の「海岸清掃マニュアル(住民活動編)」(平成 24 年)のうちの「上級編」の多くを引用し、対馬の事情に合ように一部を編集して示しています。

【イベント編】の構成

6.1 【事前準備】 海岸清掃活動の準備

- 6.1.1 実行委員会を立ち上げよう
- 6.1.2 日程・会場を決めよう
- 6.1.3 プログラム・スケジュールなどを詰めよう
- 6.1.4 活動開催に必要な用具などを早めに準備しよう
- 6.1.5 活動を広報し、参加者の募集と海岸清掃活動の周知をしよう
- 6.1.6 支援をお願いしよう
- 6.1.7 直前の準備をしよう

6.2 【当日】 海岸清掃活動イベントを運営しよう

- 5.2.1 準備
- 5.2.2 開催
- 5.2.3 閉会

6.3 【事後作業】

6.4 続けよう



6.1 【事前準備】海岸清掃活動の準備をしよう

石垣島の「海 Love フェスタ」は、2009年（平成21年）から開催されており、第3回目が開催された平成23年度では実行委員会の打合せを含め、約2ヶ月程度の短い期間で、4回の打ち合わせを通じて開催に漕ぎ着けています。このように短期間で開催できる要因は、複数回の継続開催とその準備活動を通じてノウハウが蓄積されてきているためと考えられます。そのため、対馬市で初めてこのような活動を開催する際には、最低でも6ヶ月以上の準備期間と、役割分担ごとの頻繁な打合せや各月1～2回の全体打合せを重ねて行く必要があるでしょう。特に、最初で開催する年度では、事前の打合せや開催趣旨に賛同する有志の募集などの作業も含めると、一年程度の準備期間が必要でしょう。

6.1.1 実行委員会を立ち上げよう

活動趣旨に賛同する仲間を集めて実行委員会を立ち上げ、役割を決めて行動しましょう。

(1) 実行委員会を立ち上げよう

日常的に海岸清掃活動を行っているグループのメンバーを中心として、イベント趣旨に賛同する仲間を集め、活動の輪を広げましょう。仲間が集まったら、実行委員会を立ち上げて始動しましょう。海岸清掃イベント開催のためには、実行委員の中に、常に活動ができる中心メンバーが5人程度必要です。その中に、行政機関や企業関係者に人脈の多い人がいると、協賛、協力、寄付をお願いする際にうまく機能する場合があります。石垣島での海 Love フェスタ実行委員会は、約80名の実行委員で構成され、中心メンバーが約30名います。

(2) 開催目的を明確にしよう

大規模な海岸清掃活動では、事後のイベントのみが目立ってしまう場合もあり、海岸漂着ごみを知ってもらうことが目的なのか、海岸清掃活動に関する普及啓発が目的なのかなど、実行委員会において目的を明確化しておかないと、期待される成果が望めなくなる可能性があります。

そのため、事前に実行委員会内で十分な打合せを行い、開催目的を明確にして文書化しておきましょう。

以下、参考までに、石垣島の海 Love フェスタのイベント趣旨を抜粋して示します。

【参考】石垣島の「海 Love フェスタ」のイベント趣旨

青い空、青い海、白い砂浜、南国に降り注ぐ灼熱の太陽、
日本唯一の亜熱帯性海洋性気候にはぐくむ緑の山々動植物、
エメラルドグリーンに輝く美しいさんご礁の海を求めて 世界中から多くの人々が訪れる。
しかしながら、心無い者たちの家庭ごみや粗大ゴミ・・・
不法投棄や減ることのない漂着ゴミに島は泣いている！

「島が好き！自然がすき！海が好き！」な人々に賛同を求め、志をひとつに行動をおこすことによって、綺麗な砂浜や自然の風景を取り戻し、この恵まれた自然環境が世界に誇る永遠の宝であるということをすべての市民に知ってほしい。
その活動として、誰もが気軽に始めることが出来る漂着ゴミの清掃活動と不法投棄防止運動の連帯の輪が少しでも広がり、このすばらしい自然環境を未来の子どもたちに 大切に譲り継承していくことを目的とする。

注：第6回海 Love フェスタのチラシより転写
<http://www4.ocn.ne.jp/~umilove/sanka.html>

(3) 役割分担を決めよう

次に実行委員会内の役割分担を決めましょう。参考事例として、海 Love フェスタ実行委員会の役割分担の例を次表に示します。

実行委員長は、役割分担の明確化や役割ごとの進捗状況を見極めて適切に準備や活動を進めるよう、全体を把握し、各委員・運営班に適切な指示を行う必要があります。また、副実行委員長、書記、会計、広報担当などの役員も選出し、役割を明確にしましょう。

運営本部は実行委員会の中心メンバーで構成し、主に次表に示す役割を担当します。運営班各々は運営本部を補佐して、表に示す準備と運営を実際に行います。また、各運営班は担当者同士で何回も打ち合わせを行い、実行委員会に報告・協議しながら、役割を明確にして行きましょう。また、自分たちの作業だけではなく、全体の流れも理解して、互いに協力して作業して行く必要があります。

表 6-1 海 Love フェスタ in 石垣島における実行委員会の役割分担例

実行委員会の役割		内 容
運営本部	総合プロデューサー	協賛・協力・寄付などの手配
	実行委員長	全体の総括、関係先への対応
	副実行委員長	実行委員長の補佐
	書記	実行委員会の記録
	会計	運営費などの予算管理
	広報	活動のPR・広報全般
運営班	ビーチクリーン運営班	海岸清掃の企画と運営（ごみ集計） 必要備品全般の準備 参加者のグループ分けと実施指導
	会場設営班	舞台設営、音響・照明の設営および撤去 看板類の設営・撤去 器材・設営物の搬送 テント・テーブル・椅子の設営・撤去
	受付・案内班	参加者名簿等作成 当日の受付や会場での参加者の案内 会場見取り図の製作・掲示
	ボランティアガイド班	送迎バス内での参加者の受付・イベント説明 島内の観光案内
	接遇班	昼食時のリユース食器手配・返却 貸出・片付け
	安全対策班	駐車場での案内・誘導 道路での参加者の安全対策を講じる
	記録班	イベントの記録（写真・ビデオ撮影）
	救護班	救護テント（救急セット）の準備 ※看護師ボランティアがいると良い
	ライブ進行班	ライブの企画・運営（音響・照明） アーティスト出演交渉 司会の交渉
	アート製作班	漂着物アートの企画・運営
	給食班	昼食の材料手配 地域の方と打ち合わせ

注：「海岸清掃マニュアル（住民活動編）」（沖縄県、2012）を参考に、運営本部に「広報」を追加。

● 運営本部の役割

- ・全体の総括
- ・実行委員会の運営・予算管理（会則と役員を選定、銀行口座開設）
- ・協賛・協力・寄付、関係者との事務手続き
- ・借用物の手配
- ・ポスター・チラシ製作
- ・メディア広報および広告
- ・当日の進行・総括・救護

(4) 会則などを決めよう

実行委員会が立ち上がった後に、海岸清掃活動とイベント開催に関わる会則を決めましょう。これによって、判断に迷う事態が発生した場合に、対処の拠り所となります。

また、イベント趣旨の明確化に関連して、この海岸清掃活動イベントへの参加条件も整備しておく和良好的でしょう。参考までに、海 Love フェスタでの参加条件を以下に示します。

【参考】石垣島の「海 Love フェスタ」の参加条件

- ①海・Love フェスタの趣旨に賛同したもの
- ②全てボランティア活動ですので会場内で発生した如何なる事件、事故、負傷等においては、実行委員は責任をおいませので、参加者の責任において対応していただきます。
- ③未就学児や児童生徒の参加は安全運営を計るために必ず保護者同伴でお願いします。
- ④会場内において他の参加者のご迷惑になる行為を行ったり、実行委員の指示に従わない方については強制的に退場していただく場合があります。
- ⑤会場内に花火等の火薬類やその他の危険物及び法律で禁止されている物、動物（介護犬は除く）を持ち込むことはいっさい禁止いたします。
- ⑥お荷物や貴重品は、参加者ご自身の責任において管理をお願いします。
- ⑦車でご来場の方は、実行委員会指定の仮設駐車場をご利用ください。
- ⑧会場周辺の自然植物を傷つけたり、採集は一切禁止いたします。
- ⑨道路上での違法駐車や近隣住民への迷惑になる行為は絶対におやめください。
- ⑩喫煙の際は、必ず喫煙エリアでお願いいたします。喫煙エリア以外でのライターやマッチのご使用は一切禁止いたします。
- ⑪収集したごみは、係員の指導のもと必ず分別して、指定の場所にまとめてください。
- ⑫「海・Love ライブ」での出演アーティストのビデオ・写真撮影や録音等は 一切禁止いたします。
- ⑬きれいなビーチを取り戻す運動ですので、「マイどんぶり・マイはし・マイ水筒」をご持参ください。
- ⑭本イベントは、雨天決行です。天災等のやむをえない理由により中止になるときは、FMラジオ等で広報いたします。

注：第6回海 Love フェスタのチラシより転写
<http://www4.ocn.ne.jp/~umilove/sanka.html>

6.1.2 日程・会場を決めよう

「対馬市海岸台帳」を基に会場の候補を挙げ、事前に下見をしてから、区長・地域の行事などと調整し、海岸と日程を決めましょう。

(1) 会場の下見をしよう

本マニュアルの【中・上級編】でも示したように、「対馬市海岸台帳」を基に、実際に下見をして、会場となる海岸を決めましょう。

海岸の選定に当たっては、特に、参加人数が数百人以上になることも想定し、誰でも安全に海岸清掃活動ができるような海岸を選びましょう。また、音楽イベントなどと共催して海岸清掃活動を行う場合は、清掃活動に初めて参加する人が多いことにも注意して海岸を選定しましょう。

海岸の下見は、実行委員会立ち上げ時に実施しておくのが良いでしょう。

例えば、駐車場、トイレおよび広場があり、ごみがやや多い海岸が近くにある場所としては、対馬の北東側から時計回りに、湊浜海浜公園、三字田浜海水浴場、豆靨板形海水浴場、小茂田浜海水浴場、木坂御前浜園地などが挙げられます。

表 6-2 会場となる海岸の選定に当たっての留意事項

確認する項目	
必要条件	<ul style="list-style-type: none">・アクセスが良い場所である・海岸の足場が安定していて活動しやすい・海岸に危険な場所がない（少ない）・漂着ごみの堆積状況（ごみが少なすぎず、多すぎない）・大人数でも作業できる広くて長さのある海岸・駐車場、回収ごみの仮置き場が確保しやすい・開・閉会式やイベントを行う場所がある・水道設備がある
望ましい条件	<ul style="list-style-type: none">・トイレがある（仮設トイレでも対応可能）
その他	<ul style="list-style-type: none">・国定公園の指定の有無（関係者と調整が必要）・AEDの設置場所（なければレンタル）

(2) 地域関係者と調整しよう

石垣島の海 Love フェスタでは、海岸清掃活動の輪とごみを捨てない心を広げたいという思いから、地域と協力し合って開催しています。対馬においても、海岸清掃やイベント開催について理解があり、協力的な地域で開催することが望ましいでしょう。地域に協力を依頼する際は、予め、会場候補地区の区長に開催を打診し、日程を調整してから、実行委員長らが区長を訪ねるようにしましょう。

なお、対馬市から当該地区の漁協や土木業者等に海岸漂着物の回収事業が委託されている場合は、事前に対馬市環境政策課と相談し、関係者に理解を得ておく必要があるでしょう。

(3) 会場を決めよう

区長や漁協関係者などの協力が得られたら、会場を決定しましょう。

(4) 日程を決めよう

海岸清掃活動とイベント（以下、「海岸清掃イベント」といいます）の開催日は、対馬市内の地域行事と重ならないように設定しましょう。また、県外からの参加希望者を考慮して、遅くとも半年前には開催日を決定した方が良いでしょう。開催時間については冗長にならないよう、海 Love

フェスタのように、午前中に2時間程度の海岸清掃活動、午後にライブなどのイベント（2時間程度）を開催するのが良いでしょう。

なお、熱中症などの発生リスクと作業性を考慮し、極力暑い時期を避けて開催時期を検討しましょう。

6.1.3 プログラムやスケジュールなどを詰めよう

実行委員会を開き、プログラムとスケジュール、および、予算を決めましょう。

(1) プログラムとスケジュールを決定しよう

実行委員会の中心メンバーで、海岸清掃イベントの趣旨や参加条件のほか、開催日時、会場、内容などを実施要綱として文書にまとめてから実行委員会を開き、当日のプログラムやスケジュールなどの詳細について決めましょう。この時に、当日までの大まかな予定表（運営班各班の予定、ポスター・チラシ作成日、メディア発表日など）を作成しましょう。

特に、音楽ライブを実施してもらええる団体などについては、海岸清掃イベントの趣旨を良く説明して理解を頂いた上で協力をお願いし、必要な設備や上演時間などを調整しましょう（ライブ進行班が調整）。

石垣島の第3回海 Love フェスタでは、過去の経験から、大まかな当日までのスケジュールを把握しているため、約2ヶ月間で計4回の実行委員会にてタイムテーブルやスケジュールなど決定しています。

11月13日(日) 明石海岸		7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
公民館		準備開始	バス出発	バス到着	10:00~10:25 開会式	10:30~12:00 ビーチクリーン&分別	11:30~12:40 アート製作・空撮・ゴミ運び出し	13:00~15:40 ランチ&ライブ	15:50~16:20 閉会式			17:00 バス出発	後片付け 見送り
ビーチ					ビーチへ移動 徒歩5分	公民館へ移動 徒歩5分							おつかれさまでした
1	運営本部 (名)												
2	ビーチクリーン運営班 (名)												
3	会場設営班 (名)												
4	受付・案内班 (名)												
5	ボランティアガイド班 (名)												
6	接遇班 (名)												
7	安全対策班 (名)												
8	記録班 (名)												
9	救護班 (名)												
10	ライブ進行班 (名)												
11	アート製作班 (名)												
12	給食班 (名)												

図 6-1 第3回海・LoveLove フェスタ in 石垣島 2011 の当日タイムテーブル
 (「海岸清掃マニュアル(住民活動編)」(沖縄県、2012)より転載)

9:30	Welcome ♪ 琉球國祭太鼓	
	10:00~10:25 開会式 明石公民館広場	
		(敬称略)
10:00	開会式宣言	司 会
	挨拶	… 明石公民館長
	挨拶	… 実行委員長
	会場説明	…
	ビーチクリーン説明	…
	漂着物アート説明	…
10:25	移動の号令 ♪	…
	～みんなでビーチに移動(徒歩5分)～	
	10:30~12:00 ビーチクリーン&分別	
	*30分回収 11:00より分別開始	
	11:30~12:40 漂着物アート&空撮&ゴミ運び出し	
	*12:00アートのまわりに集まる 12:10撮影開始	
	13:00~15:40 ランチ&ライブ	
	(第一部)	琉球國祭太鼓 八重山支部 明石子供エイサー 川門 聡 & ゆうな一ず
15分休憩		* 海ゴミ15 *
	(第二部)	UCOCA & マーキーズ ☆マーレーズ☆ & SLOWBEATBAND
		♪ 海Loveのうた ♪
	15:50~16:20 閉会式	
		(敬称略)
15:50	ゴミ集計報告	…
	後援・協賛・寄付紹介	…
	挨拶	… 明石公民館長
	ビーチクリーンのチラシについて	…
	挨拶	… 実行委員長
	～海Loveフェスタ終了(16:20)～	
	17:00 バス明石出発	

図 6-2 第 3 回海・LoveLove フェスタ in 石垣島 2011 の当日スケジュール

(「海岸清掃マニュアル(住民活動編)」(沖縄県、2012)より転載)

(2) 予算を確保しよう

運営班の各班で必要な用具・備品などをあげ、予算をたてましょう。

国や長崎県が交付・作成した補助金や基金を基に対馬市が海岸清掃事業を行う時には、その予算の一部を海岸漂着物の普及啓発に使用できる場合がありますので、対馬市に問い合わせ調整しましょう。

このほか、非営利活動・公益事業を行う団体が活動をする時には、助成金を申請することができます。次表に例を挙げますが、それ以外にもさまざまな助成金があるので、諸条件を調べて積極的に活用を検討しましょう。また、これとは別に、6.1.6 (P.86) のように、地元企業などからの協賛金や寄付を頂く活動を行っても良いでしょう。その場合は、イベント会場に協賛者・会社名を示す看板を用意しましょう。

表 6-3 環境分野への助成金の例

助成団体名 (連絡先)・助成金名・閲覧先 HP
わがまち元気創出支援事業 http://www.city.tsushima.nagasaki.jp/policy/post-2.html
一般財団法人 自然公園財団 公益信託自然保護ボランティアファンド http://www.bes.or.jp/
一般財団法人 セブーンイレブン記念財団 公募助成 http://www.7midori.org/josei/index.html
(独行) 環境再生保全機構 地球環境基金助成金 http://www.erca.go.jp/jfge/subsidy/index.html

6.1.4 活動開催に必要な用具などを早めに準備しよう

用具の借用などに関わる手続きは意外と時間が掛かるため、早めに着手しましょう。

(1) 用具・備品を借りよう

海岸清掃イベント開催に必要な用具・備品を借りることができると、大幅な経費節減となります。

石垣島の「海 Love フェスタ」では、事前に運営班各班が借用物リストを提出し、石垣市や地区公民館などの協力を得て、開催の1週間前には実際に借用物を確認しています。

対馬市でも同様に市や関係機関から用具の借用が可能と考えられます。会場設営班の責任者は、事前に市と協議・調整して借用に備えましょう。また、借用物は、返却までしっかり管理しましょう。借用物を壊したり、紛失した場合は弁償が必要なこともあります。

石垣島での海 Love フェスタにおける借用物の例を次表に示します。なお、海 Love フェスタでは、昼食を提供する際にごみ減量の観点から、参加者に「My はし・どんぶり」(他にスプーン、水筒など)の持参をお願いしています。しかし、これらを忘れた人のために、関係する協議会からリユース食器を借用して準備しています。リユース食器を使用することで、参加者の使い捨てをしない意識を高めることにつながっています。

早期に準備した用具・備品は、当日まで保管する仮置き場が必要になります。海 Love フェスタでは、借用先に協力してもらい、用具・備品は開催前日に会場に配達、翌日に回収してもらっています。

表 6-4 第3回海・LoveLove フェスタ in 石垣島 2011 の借用物リスト

用具・備品	個数	使用する班	借用先	
横看板(インフォメーション)	1	運営本部	南の島の星まつり事務局 (石垣市観光課)	
縦看板(受付)	1			
縦看板(ごみ集積場)	1			
縦看板(展示用)	4			
縦看板(分別表展示用)	2			
展示用ボード	3			石垣市公共施設管理公社
買物かご	15	運営本部 ビーチクリーン運営班	石垣島トライアスロン事務局	
トラロープ	※	ビーチクリーン運営班	石垣市公共施設管理公社	
鉄筋くい	4			
ナタ	1			
メガホン	4	アート製作班	石垣島トライアスロン事務局	
ホイッスル	1			
巻尺	1			
三脚台	1			
ロープ50m、20m	※			石垣市公共施設管理公社
縦看板(駐車場)	2	安全対策班	南の島の星まつり事務局 (石垣市観光課)	
縦看板(受付誘導用)	2			
誘導灯	10			
交通安全ベスト	10			
トランシーバー	6			石垣市観光協会
縦看板(救護)	1			石垣島トライアスロン事務局
カラーコーン	20			石垣市公共施設管理公社
ハンドマイク	2			石垣島トライアスロン事務局
バインダー	10	受付・案内班	石垣島トライアスロン事務局	
ごみ箱	2	会場設営班	石垣市公共施設管理公社	
灰皿	2			
テントシート(音響保護)	2			
テント	※			
長テーブル	10			明石公民館
椅子	30			
ポリバケツ	3	接遇班	南の島の星まつり事務局 (石垣市観光課)	
縦看板(リユース食器用)	1			
発電機	2	ライブ進行班	石垣市公共施設管理公社	

※記録なし(「海岸清掃マニュアル(住民活動編)」(沖縄県、2012年)より転写)

(2) テント設営の許可をとろう

テント設営のために会場や海岸に土地を借りる場合は、関係者と調整が必要です。漁港であれば対馬市と、私有地であれば区長を通じて所有者に協力をお願いしましょう。

また、テント設営の許可が必要な場合もあります。例えば、会場が壱岐対馬国定公園に掛かる場合は、事前に長崎県自然保護課などにテント設営許可をとる必要があり、遅くとも開催の約3ヶ月前から連絡・調整しましょう。

(3) 駐車スペースを確保しよう

会場付近に駐車スペースが必要です。駐車スペースは、実行委員と参加人数を考慮し、ある程度の余裕を持って確保しましょう。例えば、テント設営と同様に漁港や空き地(私有地)が候補となりますが、漁港であれば対馬市に、私有地であれば区長を通じて所有者に協力をお願いしましょう。

(4) 送迎バスを手配しよう

予算がある場合は送迎バスを手配すると良いでしょう。学校からの団体や交通手段のない参加者が参加しやすくなるほか、自家用車の利用を減らすことにもなって二酸化炭素(CO₂)の削減にもつ

ながります。集合場所は、参加者が集まりやすい場所とすると良いでしょう。なお、石垣島の海 Love フェスタでは、2ヶ月前に地元バス会社と調整しています。

6.1.5 活動を広報し、参加者の募集と海岸清掃活動の周知をしよう

海岸清掃活動とイベントを広く知ってもらうために、広報しましょう。

(1) メディアに発表しよう

海岸清掃イベントの詳細が決まったら、実行委員会開催日に合わせて、メディアに取材依頼をして、イベント開催の発表を行いましょう。発表後もさまざまなメディアに依頼して、積極的に広報しましょう。

石垣島の海 Love フェスタでは、開催の約1月前にはメディア発表を行い、有料で地域新聞に広告を出しています。

対馬市で海岸清掃イベントを開催する場合、その詳細が決めた時点で、実行委員会のホームページに掲載するばかりではなく、対馬島内の海岸清掃活動に関わる対馬市役所関係部署やNPOなどの民間団体のホームページにも掲載（あるいはリンク）を依頼するのも良いでしょう。

(2) ポスター・チラシを作成・配布しよう

海岸清掃イベント広報用のポスターとチラシを作りましょう。実行委員会にイラストや画像処理の得意な人がいると版下まで作成でき、費用が印刷のみで済むため、経費節減となります。ポスターなどが完成したら、市役所や学校などの公共機関や、空港や店舗（スーパー、お土産店、飲食店、ホテルなど）に配布し、掲示してもらいましょう。

石垣島の海 Love フェスタでは、およそ1ヶ月前にはポスターとチラシが完成しています。



図 6-3 「第6回海・LoveLove フェスタ in 石垣島 2014」の案内

● その他の広報方法

対馬市の場合では、島内に整備されている対馬市防災行政無線通信を通じて、海岸清掃イベント実施の放送をしてもらえよう、準備しておきましょう。また、対馬市独自のテレビ放送である「対馬 CATV」に海岸清掃イベントの案内を放映（有料）することも検討しましょう。

6.1.6 支援をお願いしよう

協賛金などのほか、さまざまな団体に活動への協力をお願いしましょう。

(1) 協賛・協力・寄付を依頼しよう

石垣島での海 Love フェスタでは、関係団体や企業に協賛、協力、寄付の依頼文書を送付したり、実際に会って寄付などのお願いをしています。以前は、実行委員が寄付金集めをしましたが、委員の負担が大きいため、以降はほとんど行っていません。それよりも経費を抑えて、助成金と寄付金で全て賄えるようにしています。

対馬市での海岸清掃イベントに関しても、同様な方法が考えられますので、実行委員会は助成金の申請や寄付の依頼先を検討し、早めに申請書や依頼文書を送る、直接お会いしてお願いする、などの準備を行うのが良いでしょう。

(2) 市町村に協力依頼・申請しよう

海岸清掃イベントでは、通常の海岸清掃活動よりも軍手やごみ袋などの必要数が多いため、早めに「美しい対馬の海ネットワーク」事務局に計画を説明・申請して、協力をお願いしましょう。

そのほか、対馬市の場合では、当日の開催の如何を島内に整備されている対馬市防災行政無線通信を通じて放送してもらえよう、準備しておきましょう。

(3) 海岸管理者・学校・地域住民・各団体に協力依頼しよう

実行委員会の役員は、事前に海岸管理者・学校・地域住民・関係団体などに対して、海岸清掃活動イベントの目的や概要を説明し、協力をお願いしましょう。

(4) アーティストに参加を依頼しよう

石垣島の海 Love フェスタでは、アーティストに海岸清掃イベントの理解を得て、無償でライブをして頂いています。これに関して、県外から参加してくださるアーティストには、協賛航空会社に航空券を提供してもらっている場合もあります。対馬でも、同様な協力を得られるよう、早めに準備しましょう。仮に、アーティストの旅費が確保できない場合は、音楽イベントへの参加者から多少の寄付金を頂くなどの方法も検討しましょう。

6.1.7 直前の準備をしよう

開催日が近づいてきたら、本格的に準備をはじめましょう。

(1) 用具・備品を準備しよう

購入が必要な用具・備品を準備しましょう。参加人数が多いために大量の用具などを必要とすることから、早めに準備したほうが良いのですが、当日まで保管する仮置き場が必要なことに注意し、

予約などで対処しましょう。また、音楽イベントなどでは、照明などのために電源が必要となります。そのため、必要な電力量を早めに把握し、仮設電源の設置などについて、地元の電力会社と相談して準備しましょう。

また、活動中に参加者が主催者を見つけやすいように、主催者がお揃いの服装にすることも検討しましょう（例：蛍光色の帽子やジャンパー、腕章、目立つ色のTシャツなど）。

(2) 製作物を作成しよう

海岸清掃イベント会場付近に設置する看板や展示物などを作成しましょう。道路脇に設置する会場までの誘導看板は、「この先で海岸清掃をしています」や「海岸清掃の会場はこちら」などというメッセージや矢印看板が便利です。

海Love フェスタでは、1ヶ月ほど前から製作物の準備を始めていますが、回を重ねるにつれ、使いまわすものが増え、新たに製作が必要なものは減っています。

(3) ボランティア保険に加入しよう

ボランティア保険への加入を検討する場合は、対馬市の社会福祉協議会で安価に加入できます。ただし、大人数になるために全員の加入を求めるのは大変で、自己責任で参加して頂くか、参加者募集時に保険加入の希望を聞くなどで対応することが考えられます。

(4) メディアへ取材依頼しよう

開催日が近づいたら、新聞社*や対馬 CATV（電話：0920-54-8170）を通じて、当日の取材依頼をしましょう。開催日が近づいてから、取材依頼を再確認すると確実です。

注：対馬市には、朝日新聞、対馬新聞、長崎新聞、西日本新聞、読売新聞（五十音順）の5社があります。

(5) シミュレーションを実施し、会場を清掃・整備・設営し、用具などを搬入しよう

最終の実行委員会では、スケジュールに沿って、運営班の代表と最終的な詰めを行い、開始から終了までのシミュレーションを行いましょう。

また、前日までに会場をある程度清掃・整備して、可能な限り、会場設営（テント、ステージ、仮設トイレ設置）を始めましょう。特に、受付付近は、主催者側の姿勢や意気込みが疑われてしまうこともあるので、極力きれいに片付けておきましょう。

受付・救護テントは一基で併用することもできますが、開・閉会式会場と活動する海岸が離れている場合は、それぞれの場所に設営すると良いでしょう。また、普及啓発のための展示物や用具・備品などを搬入しておきましょう。

● 実行委員会がやるべき事項

- ・会場の清掃
- ・アクセス路の整備（場合によっては、対馬市や賛同企業に依頼する）
- ・会場設営（テント、ステージ、電源、受付準備、アクセス路に誘導看板設置）
- ・展示物の用意
- ・用具・備品の搬入
- ・天気情報、潮汐情報の収集
- ・緊急時の対応（救急用品ほか。AEDが近くになればレンタルしておく）

6.2 【当日】海岸清掃活動イベントを運営しよう

実行委員は、当日協力し合って、海岸清掃イベントを運営しましょう。

決定したタイムテーブルに沿って準備を進め、開会式の開催、当日の活動内容の説明などを行いましょう。以下、時系列的に紹介します。

6.2.1 準備をしよう

● 実行委員の集合

実行委員は開始3時間前に集合して、準備を始めましょう。

● 開催判断

実行委員会は、前日より天気情報を収集し、遅くとも当日の朝には海岸清掃イベントの実施・延期・中止を決めましょう。対馬市の場合では、島内に整備されている防災無線通信設備のアナウンスを通じて、実施の如何を放送してもらおうと良いでしょう。

また、中止や延期を知らずに会場入りする参加者のために、早い時間から会場でも係員を手配するなど、その対応を準備しておきましょう。

● 受付テントの設営

テントの準備例について、次表に示します。以下は、会場設営班が担当します。

受付テントには多くの人立ち寄りするため、海岸清掃活動に関する資料（例：対馬の漂着ごみの現状、課題、対策例など）を展示しておくこと、普及啓発のためにも良いでしょう。なお、資料については、「美しい対馬の海ネットワーク」作成のものがありますので、コピーして利用しましょう。

図 6-4 受付テントなどの準備例

設置場所	役割・準備するもの
受付テント	<p>案内：受付看板、長テーブル、椅子、参加者名簿、筆記用具 プログラム（大）、会場案内図（大）、漂着ごみの分別一覧（大） 協賛・協力・寄付の一覧</p> <p>普及啓発：海岸漂着物に関する展示物（写真・資料・パネルなど）</p> <p>配布：給水用キーパー（水・お茶）、リユース食器（昼食時） 軍手（片手分、忘れた人のみ）</p> <p>その他：ブルーシート（荷物を置くスペースなどに利用）</p>
救護テント	<p>救護：長テーブル、椅子、ブルーシート、救急セット、氷・スポーツドリンク（クーラーボックス）</p>

注：「海岸清掃マニュアル（住民活動編）」（沖縄県、2012年）より転写・一部改変。

● 会場案内の設置

会場外からわかるように、会場案内のためにのぼり旗や看板を会場入口付近の道路沿いなどに設置しましょう。また、会場内にも下記のような看板を設置しましょう。

【設置看板の例】

会場外：海岸までの道、駐車場の位置

会場内：当日のスケジュール・イベント内容、ごみの分別表

トイレ、受付テント、救護テントの場所、回収漂着ごみの集積場所、喫煙コーナー、危険な場所、立入禁止ゾーンなど

その他：昼食提供メッセージ、実行委員・係員の洋服の特徴、など

● その他の準備・設置

・喫煙コーナー

健康増進法の観点から、できれば会場内は禁煙にしましょう。ただし、喫煙コーナーを設置する場合は、子どもの参加を考慮し、会場の風下側にカラーコーンなどで囲い、屋外用の灰皿を置きましょう。なお、作業中の海岸では、火災防止や安全作業のためにも、禁煙としましょう。

・ごみ箱

ごみ箱を設置しますが、海岸清掃活動で回収したごみ以外は各自持ち帰るようにしてもらいましょう。

・危険な場所、立入禁止ゾーン

川や排水（雨水）溝からの流れ込みなどの危険な場所への立入禁止ゾーンがわかりやすいように、カラーコーンなどを置いて注意を促しましょう。

・分別エリア

大人数で漂着ごみを回収することから、回収方法としては海岸で回収時に所定の分類群別に集めた方が効率的です。しかし、参加者に漂着ごみの内容を知ってもらうために、海岸で分別せずに回収する場合は、海岸へのアクセス路に近い場所にブルーシートを敷いて重石を置き、その上で回収したごみを開けて分別しましょう。大きいシートを使用すると一斉に分別作業ができて効率的です。

・ごみ回収用の袋

軽いごみ用のビニール袋は1人に5枚程度、ガラスや缶などを収納する土嚢袋は3人に1枚程度を渡し、重いごみを入れる自立式万能袋（200リットル程度）およびフレコンバッグは漂着ごみの量に応じて、海岸の要所要所に配置しましょう。特に、フレコンバッグは、発泡スチロールブイなどの比較的軽いごみを直接回収するなどに便利のため、運営班の担当者が海岸にて複数枚を用意しておき、直ぐに参加者に渡せるように手配しましょう。

・ごみ集計エリア

ごみ集計エリアはロープで囲い、集計もれのないようにします。集計用紙や筆記用具は担当者が準備・管理しておき、分別エリアに近い場所に設置しましょう。

・漂着ごみの勉強会エリア、あるいは漂着物アート制作エリアなど

ごみ集計後にスムーズに漂着物アート制作などができるように、ごみ集計エリア付近に下準備をしておきましょう。

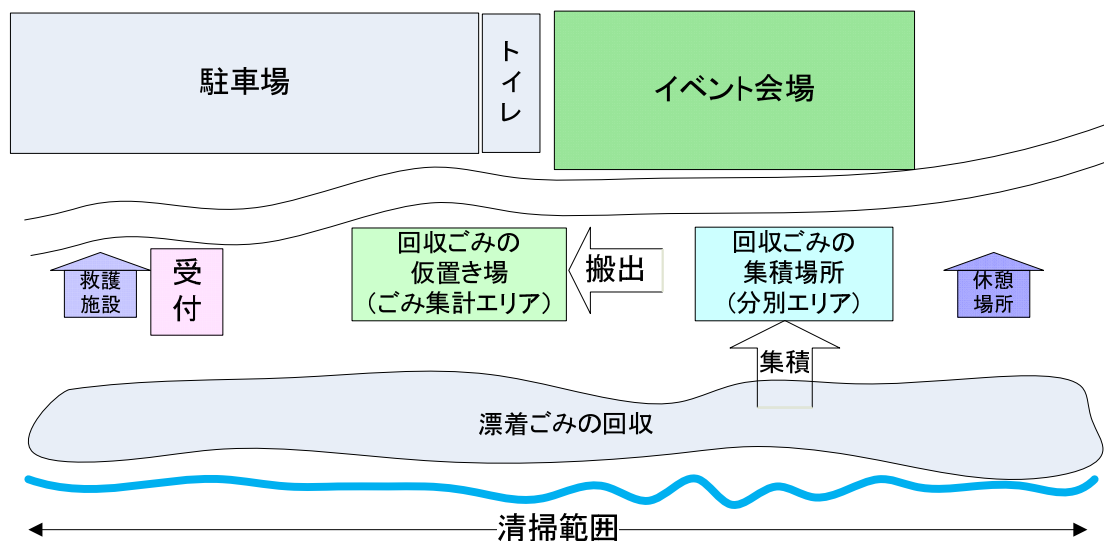


図 6-5 清掃海岸とイベント会場などの配置イメージ図

● 全体の打ち合わせ

全ての準備が完了したら、実行委員全員で集まり、当日スケジュール・役割分担の最終確認を行います。

6.2.2 海岸清掃イベントを開催しよう

● 送迎バス対応

送迎バスにはボランティアガイド班が同乗して、車内で参加者の受付や海岸清掃イベントの説明をしたり、島外からの参加者が多い場合には島内の観光案内あるいは歴史紹介を行うなどの工夫をしましょう。

● 受付

受付・案内班は、受け付けテント内で参加者の名簿記入の案内を行い、当日のスケジュール表や注意事項などの資料を配布するほか、忘れた人に軍手を配布したり、カウンターで参加人数を数えましょう。

● 開会式

実行委員は、以下の内容を参考に、開会式を行いましょう。ただし、挨拶が長すぎると、参加者が飽きてしまうため、適度に納めましょう。

- ・開会式宣言（趣旨説明）
- ・実行委員長挨拶（場合によっては、区長の挨拶も追加）
- ・会場説明
- ・当日スケジュールの説明
- ・海岸清掃活動の説明（ごみの分別方法、集積場所、注意事項など）

● 移動

ごみ袋を配布し、徒歩で海岸への移動を促します。

● 海岸清掃活動

各人に配布されたごみ袋のほか、海岸各所に準備されたごみ袋を利用して、漂着ごみを回収してもらいましょう。海岸の端から分別エリアあるいは集積エリアに戻るように、回収して行くと効率的です。集積エリアでごみ集計が終わったら、勉強会エリアあるいは漂着物アート製作エリアなどに、回収した漂着ごみを移動させます。

なお、石垣島の海 Love フェスタでは、作業時間として、ごみ回収から集計まで 90 分（回収 30～40 分・分別 40 分・集計 10 分）を目安としています。しかし、対馬の海岸にて直接分類群ごとに漂着ごみを回収する場合は、回収に 60 分位、分類群ごとにフレコンバッグに詰め直す作業に 20 分位、ごみ量の集計に 10 分位としても良いでしょう。

● 漂着ごみの勉強会や漂着物アート撮影の実施

海 Love フェスタでは、漂着物でイベントメッセージを伝えることと同時に、全員参加のお楽しみイベントとして、漂着物アート撮影をしています。この漂着物アートは、回収したごみで作成し、周りに参加者が並んで完成します。これを写真家がボランティアでパラグライダーから空撮してくれます。この活動で参加者に連帯感が生まれます。

対馬市ではこのようなイベントの実施が望めない場合、後述する参考事例やさまざまな情報を基に、参加者が楽しく参加できる行事を考えて実施してみてください。

● ごみを仮置き場に運ぶ

漂着ごみの勉強会や漂着物アート撮影などが終わったら、集積場所から仮置き場までごみを運び

出します。軽いごみについては、参加者が海岸から集積場所まで並んで、バケツリレー方式でごみを運ぶと一体感を醸成でき、楽しく実施できます。また、流木などの重いごみは、複数人で運ぶなどにより、効率的に運ぶことができるので、皆で協力して実施しましょう。

● 昼食の提供

海 Love フェスタでは地区公民館の協力のもと、牛そばなどの炊き出しをしています。参加者には「My はし・スプーン、どんぶり、水筒」などの持参をお願いしていますが、忘れた人のためにリユース食器も準備しています。

対馬では、2012年にB-1グランプリで準優勝した「とんちゃん」を振る舞う、などを考えても良いでしょう。

● ライブ

海 Love フェスタでは、イベント趣旨に賛同してくれるアーティスト・ミュージシャンや地元の活動団体にライブをお願いしています。ライブを目的とした参加者もいますが、活動の輪を広げる良い機会となったり、海岸清掃活動への参加者の楽しみになっています。

【参考】海岸清掃活動に関連するイベント開催の例

イベントとしては、海岸漂着ごみに関するシンポジウムやワークショップのほか、音楽祭のような活動、あるいは次のようなアート作品、オブジェを作成するなどが考えられます。

例えば、漂着ごみ対策を考えるワークショップの開催については、数人のグループに分かれ、「なぜここにこんなゴミが?」「どうすれば減らせるか?」などについて、意見を述べてもらい、各グループでの意見を整理した後、代表者が発表する、などが考えられます。



左：意見の抽出

中央：意見のまとめ

右：意見の発表

漂着ごみに関するワークショップの様子

注：写真は「第2回日韓海岸清掃フェスタ IN 対馬」のワークショップ（2014年8月24日）より

アート作品に関しては、「シーグラス」(または「ビーチグラス」ともいいます)によるライト・ランプ・ペンダントなどの作成があります。シーグラス(ビーチグラス)は、ガラスの破片が波と浜辺の砂や岩によって研磨されたもので、曇りガラスの味わいがあります。これを使って、次図に示すオブジェやアート、ペンダントやライト・ランプなどを作ると、きれいな作品ができます。場合によっては、海岸清掃の開始時に、シーグラスを参加者に集めてもらい、後日これを用いたアート作品を作るなどの催しを行っても良いでしょう。



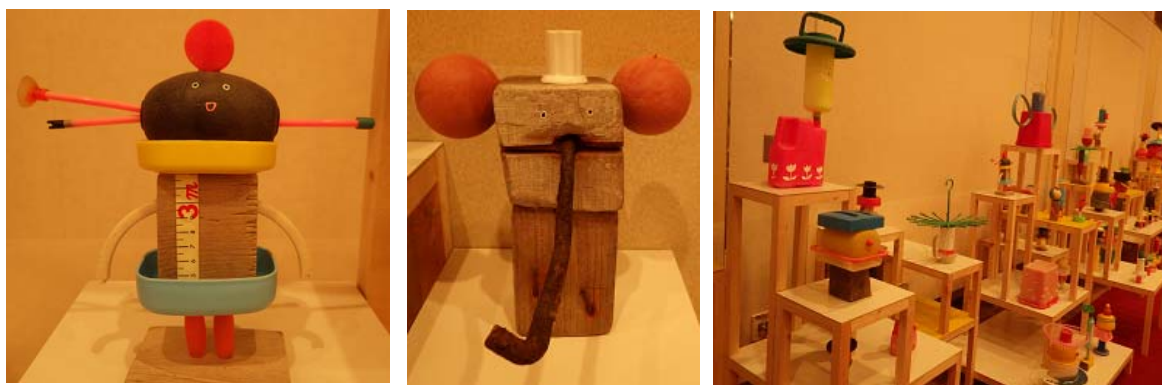
図 6-6 シーグラスと作品例

右側の写真の出典：

<http://blog.goo.ne.jp/char2621/e/c02c4a65dd9c2d717aea1118b384e46b>

また、子どもたちを対象とした海岸清掃活動では、次のような漂着ごみを用いたアート作品を作成し、対馬交流センターなどでの展示会を開いても良いでしょう。

例えば、小学生を対象として海岸清掃活動を開催する場合は、漂着ごみの回収作業時に、作品のイメージを膨らませてもらい、作品に使いそうなごみを個人で集めさせてビニール袋に入れておき、作業終了後に会場に戻って作品を制作する、あるいは後日作品の制作と展示を行う、なども考えられます。



漂着ごみを使ったアート作品の例

ワタノハスマイル*の作品（代表 犬飼とも氏）

*：東北大震災のガレキを使って子ども達とオブジェを作るプロジェクト

<http://www.watanohasmile.jp/>

6.2.3 閉会式と片づけをしよう

● 閉会式

実行委員会は閉会式を開催し、参加者に対して、イベントの参加人数や漂着ごみの回収量などを報告しましょう。また、参加者からのイベントに関する感想・意見を聞き、次回開催に活かすことも考えましょう。

- ・ごみ集計報告
- ・実行委員長挨拶（場合によっては、区長の挨拶も追加）
- ・閉会宣言

● 送迎バス見送り

参加者が出発場所まで戻るための送迎バス出発時には、実行委員が見送るようにしましょう。

● 片づけ

運営班を含む実行委員は、会場の撤収作業を行います。

- ・掃除および撤収作業
- ・借用物の返却準備（清掃、洗浄など）



6.3 【事後作業】事後整理をしよう

イベント終了後は事後整理の作業を実施しましょう。

実行委員は、それぞれの役割に応じて、次の作業を行いましょ。

- 借用先に借用物返却（運営班各班の責任者が借用物の返却確認を行う）
- 海岸清掃活動イベントのまとめ
 - ・海岸清掃活動の集計結果まとめ
 - ・当日の作業風景等の写真添付
- 協賛・協力・寄付関係者に御礼状配り・発送（イベントのまとめ結果も同封）
- 区長、漁協、行政などへの御礼
- 会計報告
- 助成金報告書提出（必要に応じて）
- ホームページやFacebook などでの公開（イベントのまとめ結果ほか）

6.4 続けよう

イベントを伴う海岸清掃活動の開催は、大変な労力が必要となりますが、終了後の達成感も大きいと考えられます。

その気持ちを忘れずに、対馬のきれいな海岸を守るため、一回の開催で終わらせずに、何回も「続けて」開催できるよう、楽しい企画・内容にしましょう。

そして、みんなの海を、みんなで守って行きましょう！



(写真提供：一般社団法人 MIT 吉野 元)

対馬市海岸清掃マニュアル

平成 27 年 3 月作成

発 行：長崎県対馬市

本書に関する問合せ：対馬市市民生活部環境政策課

〒817-8510 長崎県対馬市巖原町国分 1441 番地

T E L : 0920-53-6111 F A X : 0920-53-6112

E-mail : haikibutu@city-tsushima.jp

制 作：日本エヌ・ユー・エス株式会社

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 7-5-25

T E L : 03-5925-6750 F A X : 03-5925-6745

URL : <http://www.janus.co.jp>